

| | | | |
|---------------|------|----------|-------------------|
| 科目名 | 教師論 | 科目名 (英文) | Teacher Education |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 朝日 素明 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにしているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。 |
| 到達目標 | 学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。 |
| 授業方法と留意点 | 講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。) |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------|---|---------------------------------|
| | | | |
| 2 | 教職の成立とその意義 | 公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成 | 戦前の教員養成制度に関する配布資料 |
| 3 | 教師教育と教職の専門性 (1) | 教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立 | 戦後の教員養成制度に関する配布資料 |
| 4 | 教師教育と教職の専門性 (2) | 教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験 | 教員免許制度に関する配布資料 |
| 5 | 教師教育と教職の専門性 (3) | 教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系 | 学び続ける教師に関する配布資料 |
| 6 | 教師教育と教職の専門性 (4) | 法定研修 教員の自己研修 | 教員研修体系に関する配布資料 |
| 7 | 文献・映像に基づく教師像の探究 (1) | 戦前・戦後の教師像 憧れの教師 | 教師像に関する配布資料 |
| 8 | 文献・映像に基づく教師像の探究 (2) | 「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像 に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク | 「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出 |
| 9 | 文献・映像に基づく教師像の探究 (3) | 「人間教師」と「プロ教師」 レポートに基づくグループワーク | 「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出 |
| 10 | 文献・映像に基づく教師像の探究 (4) | 教師としての資質能力のあり方 | 教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料 |
| 11 | 教員の役割・職務 (1) | 学校・教室における指導者の視点からみた 教員の役割・職務 | 授業・カリキュラムと教師に関する配布資料 |
| 12 | 教員の役割・職務 (2) | 学校組織の構成員の視点からみた教員の 役割・職務 | 教職員構成と校務分掌に関する配布資料 |
| 13 | 教員の役割・職務 (3) | 学校内外の連携の視点からみた教員の 役割・職務 (チーム学校運営への対応を 含む) | 「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する 配布資料 |
| 14 | 教員の役割・職務 (4) | 教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 | 教員の任用・服務等に関する配布資料 |
| 15 | 教員の役割・職務 (5) | 教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト | メンタルヘルスに関する配布資料 |

| | |
|------|--|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。 |

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業形態 | |
| Teams コード | |
| Moodle コース名 および登録キー | |
| 連絡手段 | |

| | |
|---------------|--|
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： |
| 評価方法 (基準) | 定期試験 70%、レポート 20%、グループワークにおけるピアレビュー10% |
| 学生への メッセージ | 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることとなります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。 |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階 朝日研究室 |
| 備考 | ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。 |

| | | | |
|---------------|-------|----------|------------------------|
| 科目名 | 教育心理学 | 科目名 (英文) | Educational Psychology |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。 |
| 到達目標 | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 |
| 授業方法と留意点 | 講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 |

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|-------------|--|--|---------------------------|
| | 1 | 発達と教育と心理学と1 | 教育に対して心理学ができること、発達と教育 | テキスト第0章1, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 2 | 発達と教育と心理学と2 | 発達の要因, 主な発達理論の概観 | テキスト第8章1, 配付資料による本時の予習と復習 | |
| 3 | こどもの発達1 | 乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達 | テキスト第8章2・第9章, 配付資料による本時の予習と復習 | |
| 4 | こどもの発達2 | 児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達 | テキスト第8章2・第10章・第11章, 配付資料による本時の予習と復習 | |
| 5 | こどもの発達3 | 青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達 | テキスト第8章2・第10章・第11章・第12章, 配付資料による本時の予習と復習 | |
| 6 | 学習を支える認知機能1 | 思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達 | テキスト第7章1, 配付資料による本時の予習と復習 | |
| 7 | 学習を支える認知機能2 | 言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達 | テキスト第11章, 配付資料による本時の予習と復習 | |
| 8 | 学習を支える認知機能3 | 記憶.....記憶のメカニズムと発達 | テキスト第4章・第5章, 配付資料による本時の予習と復習 | |
| 9 | こどもの学び1 | さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ | テキスト第1章, 配付資料による本時の予習と復習 | |
| 10 | こどもの学び2 | さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習 | テキスト第1章・第6章, 配付資料による本時の予習と復習 | |
| 11 | 学習を支える動機づけ1 | 意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論 | テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習 | |
| 12 | 学習を支える動機づけ2 | さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達 | テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習 | |
| 13 | 学習を支える動機づけ3 | 意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価 | テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習 | |
| 14 | 学校における人間関係 | 教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級 | テキスト第0章2・第10章, 配付資料による本時の予習と復習 | |
| 15 | 個に応じた教育 | 個人差の理解と教育.....ATI, 学習方略 | テキスト第0章3・第6章・第7章2, 配付資料による本時の予習と復習 | |

| | |
|------|----------------|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 教職課程におけるすべての科目 |

| | | | | |
|-----|----|--------------------------|-----------|---------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践— | 藤田哲也 (編著) | ミネルヴァ書房 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業形態 | |
| Teams コード | |
| Moodle コース名 および登録キー | |
| 連絡手段 | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス: |
| 評価方法 (基準) | 小テスト 30%, 期末試験 70% |
| 学生へのメッセージ | これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。 |
| 担当者の研究室等 | 寝屋川キャンパス 7号館3階 (吉田研究室) |

| | |
|----|---|
| 備考 | <ul style="list-style-type: none">・授業内で, moodle を使用することがあります。利用できるようにしておいてください。・期末試験は希望者に返却します。・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|-----------------------|----------|--|
| 科目名 | 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法 | 科目名 (英文) | Methodology of Special Activities and Integrated Studies |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 林 茂樹 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>特別活動の指導法については、学校における様々な構成での集団活動を通して、自ら課題を発見し、協力協働して解決を行うことで、よりよい集団づくり、生活づくりや人間関係づくりをめざすという特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学校教育活動の中での特別活動への要請を踏まえた、指導に必要な知識や素養を身に付けるようにする。</p> <p>子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについても理解を深めるようにする。</p> <p>「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうし関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の視点・方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流や意見交換をする。</p> <p>総合的な学習の時間の指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。</p> <p>公立高校教員として34年間にわたり、学級担任、生徒会指導主担者、総合的な学習の時間企画主担者等を分掌した経験に基づいた、学校現場で役立つ実践的な授業を行う。</p> |
| 到達目標 | <p>教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。</p> <p>特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> <p>合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。</p> <p>総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解している。</p> <p>主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | 教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|---|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習の時間の意義と課題 | 学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量 | 特別活動テキスト第1章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 2 | 特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐって (ソロワークと意見交換) | 教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 | 特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 3 | 学級活動・ホームルーム活動①ワーク②大学に入って (ソロワークと意見交換) | 学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 | 特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 4 | 学級活動・ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出 (ソロワークと意見交換) | 人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 | 特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 5 | 生徒会活動・児童会活動、学級行事 (ソロワークと意見交換) | 生徒会 (児童会) 活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 | 特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 6 | 体験活動の意義ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」 (ソロワークと意見交換、グループワークの班分け、顔合わせ) | 特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性 | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 7 | 特別活動の歴史・領域・方法ワーク⑥はじめ (1) (グループ討議・発表) | 学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがい | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 8 | 特別活動と学級経営ワーク⑦不登校 (グループ討議・発表) | 学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 9 | 特別活動と生徒指導ワーク⑧暴力 (即興劇・交流) | 生徒指導との関連、積極的な生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 10 | 特別活動の指導計画と評価ワーク⑨外国にルーツのある子ども (グループ討議・発表) | 全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 | 特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 11 | 特別活動と総合的な学習の時間ワーク⑩進路指導・キャリア教育 (即興劇・交流) | 特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 12 | 総合的な学習の時間の目標・内容・方法ワーク⑪インクルーシブ教育 (グループ討議・発表) | 総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 | 総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 13 | 総合的な学習の時間の学習指導ワーク⑫ジェンダー・LGBT | 生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び | 総合的な学習の時間のテキスト第2・7章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |

| | (即興劇・発表) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|---|--|-----|------|---|-------------------|-------|------|---|----------------------|-------|------|---|--|--|--|--|--|
| | 14 | 総合的な学習の時間の指導計画と評価ワーク⑬いじめ(2)〈グループ討議・発表〉 | 全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 補足とまとめ 補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 | 特別活動の指導の配慮事項及び担当する教師、国旗・国歌の取扱い 総合的な学習の時間の体制づくり | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実務経験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 中学校学習指導要領解説 特別活動編 | 文部科学省 | 東山書房 | 2 | 中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編 | 文部科学省 | 東山書房 | 3 | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 中学校学習指導要領解説 特別活動編 | 文部科学省 | 東山書房 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編 | 文部科学省 | 東山書房 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業形態 | Teams「オンライン型」 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Teamsコード | i92crs8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Moodleコース名 および登録キー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 連絡手段 | 学内メール | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 定期試験(50%)、中間レポート(30%)、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況(20%)を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式+記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自己史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況の評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3F 林研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------|----------|-------------------------|
| 科目名 | 生物学 | 科目名 (英文) | Fundamentals of Biology |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 応用生物科学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 松尾 充啓 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2○, DP3○ | | |
| 科目ナンバリング | OAB1010a0 | | |

| | |
|----------|--|
| 授業概要・目的 | 実験科学である生物学は、多種多様な観察、実験結果によって裏付けられた知識の体系であり、分子といったミクロなレベルから、生態環境といったマクロなレベルまで、生物が関わる極めて幅広い現象を取り扱う。農学はその知識を有機的に活用する学問であり、学ぶ上で多様な生物学の基礎知識を有することが求められる。本講義ではそれらの基礎について概説し、専門課程で必須となる生物学の基礎知識と考え方が身につけられるようにする。 |
| 到達目標 | ① 生物の構成単位である細胞の組成、構造、機能、分裂について説明ができる。 ② 生命活動である代謝反応、エネルギー合成について基礎的な知識を持ち、それらについて概説できる。 ③ 生命の設計図であるゲノム、遺伝子について説明ができる、遺伝の原理を理解する。 ④ 動物の器官・組織、免疫、発生と植物組織について基礎的な知識を修得する。 ⑤ 進化、生態系の考え方を理解する。 |
| 授業方法と留意点 | パワーポイント、板書による講義を行い、必要に応じてDVD等によるビデオ学習を行う。これらは状況によってはICTツールによる遠隔授業の形で行う。また講義内容に関連する教科書の問題をミニレポート課題とする。同様に次回行う講義内容に関連する問題を事前学習課題とする。各講義前に、前回講義した内容とミニレポートに関する小テストを実施する。 |

| | |
|--------------|---|
| 科目学習の効果 (資格) | 二年次以降、農学部の専門科目の授業を理解する上で必要な生物学の基礎知識・考え方を理解・習得できる。 |
|--------------|---|

| | | | | |
|------|----|--------|-----------------------|------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 生体分子 | 生物を構成する水、有機分子、高分子の特性 | 事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出 |
| | 2 | 細胞 | 細胞の構造とオルガネラ、原核細胞、真核細胞 | 事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出 |
| | 3 | 細胞分裂 | 細胞膜の構造と特性、体細胞分裂 | 事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出 |
| | 4 | 酵素 | 酵素と代謝反応 | 事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出 |
| | 5 | 解糖系・呼吸 | 解糖系、酸化的リン酸化反応、クレブス回路 | 事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出 |
| | 6 | 光合成 | 光合成明反応、カルビンサイクル | 事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出 |
| | 7 | 遺伝 | メンデル遺伝、遺伝子 | 事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出 |
| | 8 | DNA | DNA、半保存的複製 | 事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出 |
| | 9 | 遺伝子発現 | セントラルドグマ、転写、翻訳 | 事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出 |
| | 10 | 染色体 | 染色体、有性生殖、減数分裂 | 事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出 |
| | 11 | 動物 | 動物の器官・組織 (呼吸、消化、排泄) | 事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出 |
| | 12 | 免疫 | 自然免疫、抗原抗体反応 | 事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出 |
| | 13 | 発生 | 配偶子形成、受精、発生 | 事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出 |
| | 14 | 植物 | 植物組織の基本構造、蒸散、転流 | 事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出 |
| | 15 | 生態・進化 | 生態系・エネルギー循環、適応進化 | 事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出 |

| | |
|------|-----------------------|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 一年次・後期以降の農学部のすべての専門科目 |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業形態 | 対面授業 |
| Teams コード | 4ox19zu |
| Moodle コース名 および登録キー | 生物学 seibutsu |
| 連絡手段 | 学内メール |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： |
| 評価方法 (基準) | 各授業の事前学習課題 (10%)、授業中の前回講義の学習確認小テスト (15%)、事後課題 (15%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。定期試験の実施が難しい場合は、別途レポート課題を出す。 |
| 学生へのメッセージ | 生物学の基礎について解説します。講義の内容は多岐に渡りますが、各講義のテーマにつき、鍵となる考え方・コンセプトを説明するので、それらを聞き漏らさず、理解するように努めてください。重要なのは、イメージを持って理解することです。わからない場合は、放置せず、担当教員 |

| | |
|--------------|---|
| | に臆さず質問するようにしてください。 |
| 担当者の 研究室等 | 8号館3階 教員室302、ゲノム生物学研究室 |
| 備考 | 小テストについては次回の授業で解答を行う。ミニレポートについては、全体的によく間違いが見られた箇所について、授業中に解説する。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|---|
| 科目名 | 農学概論 | 科目名 (英文) | Introduction to Agriculture |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 久保 康之, 石川 幸男, 井上 亮, 奥本 裕, 小野 雅之, 小保方 潤一, 川崎 通夫, 喜多 大三, 北川 太一, 黒川 通典, 田中 樹, 寺林 敏, 豊原 治彦, 吉井 英文, 和田 大 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP3◎ | | |
| 科目ナンバリング | 0AF1001a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の衣食住を支えてきた「農学」は、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。「農学」には持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、課題を見出し対応するミッションがある。「農学」は生命を支える食料の科学であり、生命科学とも位置付けられる。さらには、「農学」は生産、加工、流通の6次産業に栄養を加えた24次産業的視点で捉えることができる。農と食をとりまく環境は大きく変化し、「農学」における栄養科学・健康科学の重要性も認識されている。本講義はこうした問題意識からテーマを設定し、オムニバス形式の講義により、受講者が「農学」とは何かを理解するとともに、「農学」のミッションに対応する「使命感」、「農学」の視点がもたらす「俯瞰力」、「実践力」に関心をもち、主体的に課題を意識することができることを目的とする。 |
| 到達目標 | ① 「農学」が関わる領域について、関心をもつことができる。 ② 「農学」が関わる領域の課題を理解し、主体的に捉えることができる。 ③ 「農学」が関わる領域を学び、専門分野で何を学ぶかという動機や問題意識をもつことができる。 |
| 授業方法と留意点 | 授業方法は、遠隔授業にて講義を行い、パワーポイントを適宜使用する。また、パワーポイント資料を配布する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 摂南大学農学部の学びの基本となり、「農学」の全体像を理解するための基礎となる科目 |

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|------|--------------|---|---|----------------------------|
| | 1 | 農学を大学で学ぶとは | 「農学」は、自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、私たちは何を学び、何をすべきか、「農学」の世界観を俯瞰し、学修する。(担当:久保康之) | 事前: シラバスの理解 事後: レポートの提出 |
| 2 | 農学と社会 | 「農学」は、安全な食料生産と食料の安定供給、自然環境の保全、食を取り巻く多様化・複雑化する社会への対応、新しい作物生産の場とその生産技術の開発など、社会からの求めに応え、解決する使命を担っている。「農学」が社会とのかかわりの中で、いかなる研究が社会に貢献してきたか、と同時に「農学」の発展と可能性について学修する。(担当: 寺林 敏) | 事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出 | |
| 3 | 農業生産技術の進歩 | 農業生産技術の進歩は、人口増加、自然環境変動、および、社会変化に伴う農業生産課題を解決していく上で重要な要素である。フィールド栽培、施設園芸、植物工場、および、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)を活用したスマート農業などに関する農業生産技術の進展について学修する。(担当: 川崎 通夫) | 事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出 | |
| 4 | 国際農業と開発援助 | 世界の農業の多様性を踏まえ、発展途上国における農業開発と、それに対する援助のあり方を学修する。(担当: 田中 樹) | 事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出 | |
| 5 | 農業とケミカルエコロジー | すべての生物は、同種または他種の他個体と相互作用を及ぼしあいながら生きており、この相互作用の仲介役として化学物質が大きな働きをしている。植物-昆虫、昆虫-昆虫間の相互作用における化学物質の働きについて、その害虫管理への応用を含めて概説する。(担当: 石川 幸男) | 事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出 | |
| 6 | 作物改良のための情報科学 | 現代の農業は近代育種が改良してきた品種を基盤に成立している。近年のゲノム解読技術と画像解析技術の急速な発展は、育種におけるDNA情報解析と高速フェノタイピングの利用を強く後押ししている。育種の現場で利用が進められているゲノム情報と圃場データ処理を利用する情報科学について概説する。(担当: 奥本 裕) | 事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出 | |
| 7 | ゲノムと農学・生命科学 | 生物の設計図を読みみたい、というのは生物学者の長年の夢だったが、ゲノムの解読技術の飛躍的な発展によって、それは現実のものとなりつつある。ゲノム科学の急速な発展が、農学・生命科学や私たちの生活にどのような影響を与えつつあるのかを概説する。(担当: 小保方 潤一) | 事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出 | |
| 8 | 動物生命科学の新展開 | 動物を対象とした研究は、農学において | 事前: 事前学習課題の学習 | |

| | | | | |
|------------------------|--|-----------------------------|---|----------------------------|
| | | | は産業動物の生産性向上のため、食品、医療においてはヒトの健康維持・増進、疾病予防・治療のために行われる。これらの動物を対象とした研究には遵守すべきルールや法令が存在する。これら動物を対象とした研究に関する現状を学修する。(担当：井上 亮) | 事後：レポートの提出 |
| | 9 | 地球環境と海洋科学 | 水産業は一次産業の中でも特に天然依存性が高いことから、資源維持のために健全な海洋環境の保全が必須である。最新の増養殖技術の活用も含め、地球環境の保全と海洋科学の進展について学修する。(担当：豊原 治彦) | 事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出 |
| | 10 | 食品科学と農業 | 農林漁業者（1次産業）が生産する農水産物の元々持っている価値をさらに高め農林水産業を活性化させるためには、食品加工（2次産業）は必須の技術である。最新の食品加工にかかわる食品科学技術の進展について学修する。(担当：吉井 英文) | 事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出 |
| | 11 | 食文化と多様性 | 日本の食文化は大きな変革期にきており、食生活の大部分を外食産業に依存する家庭が急増している。本来、日本の伝統的食文化である「お茶」の歴史、伝統および特質について学修する。(担当：喜多 大三) | 事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出 |
| | 12 | 微生物と食品 | 東洋、西洋を問わず、食品製造に微生物を利用することは長く行われてきた。農産物の2次加工としての微生物利用について概説する。(担当：和田 大) | 事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出 |
| | 13 | 食栄養科学と健康 | 現代の栄養事情は欠乏と過剰の二極化といわれている。社会の仕組みが複雑になっている今、社会のあらゆる側面を視野に入れながら、人間栄養学の観点から健康問題を考える。(担当：黒川 通典) | 事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出 |
| | 14 | 食品産業の役割とこれからの方向 | 消費者への食料供給において重要な役割を担う食品産業、特に食品流通業を取り上げ、その役割とこれからの展開方向を学修する。(担当：小野 雅之) | 事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出 |
| | 15 | これからの食と農を考える | 今日の食と農の状況を踏まえながら、これからの食（消費者、都市）と農（生産者、農山漁村）をつなぐ共生のあり方とその方向を考える。(担当：北川 太一) | 事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 講義内容に関する資料を配布 | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 農学が世界を救う！ 食料・生命・環境をめぐる科学の挑戦 | 生源寺眞一・太田實行・安田弘法 編著 | 岩波ジュニア新書 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 事前課題（30%）、授業中の課題（40%）、事後課題（30%）で評価し、60%以上で合格とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 植物病理学研究室（久保）、応用昆虫学研究室（石川）、動物機能科学研究室（井上）、植物遺伝育種科学研究室（奥本）、食料・農産物市場研究室（小野）、ゲノム生物学研究室（小保方）、作物科学研究室（川崎）、栄養薬理学研究室（喜多）、食農共生研究室（北川）、公衆栄養学研究室（黒川）、環境農学研究室（田中）、園芸科学研究室（寺林）、海洋生物学研究室（豊原）、食品加工学研究室（吉井）、応用微生物学研究室（和田） | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|---|
| 科目名 | 農学基礎演習 | 科目名 (英文) | Basic Seminar in Agriculture |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 寺林 敏, 川崎 通夫, 北村 祐人, 佐野 修司, 高木 大輔, 山川 武夫 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP3◎ | | |
| 科目ナンバリング | 0AF1002a0 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | 福井県と三重県にある農業体験施設を利用し、2日間で演習を行う。主に、我が国のイネ生産と消費の現状、水田の構造、稲作を成立させる農業技術並びに自然環境要因、水田の多面的価値、稲作文化等について講義する。実習内容として、春期の田植えと秋期の稲刈りを行う。日本の主食であるコメの栽培を学び、イネ栽培を体験することで、水田の構造、日本で水田稲作が成立する要因、稲という植物の生育特性を深く理解し、我が国における今後の稲作の在り方について学ぶことを目的とする。 |
| 到達目標 | ① 日本の地形・気象条件と稲作との関係を説明できる。 ② 稲作における種々作業の必要性、意義、効果を理解し、説明できる。 ③ イネという作物の生理・生態的、形態的特性を説明できる。 ④ 農業生産に及ぼす気象、土壌、病害虫、雑草などの環境要因の影響について知り、説明できる。 |
| 授業方法と留意点 | 5回の講義と枚方キャンパスの農学部附属農場での実習を行う。講義は遠隔講義とする。実習は模擬水田（コンテナ利用）を使い、苗の移植、生育観察そして収穫の3回とする。9月以降は野菜栽培の実習を2回行う。実習は3密を可能な限り回避するよう、1回の実習時間における学生数の半減、少人数グループ編成でおこなう。 |

| 科目学習の効果 (資格) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|--|----------------|---------|-----------|---|-------|--|--------------|---|-----|---------------------------|----------------|---|-----|-------------------------|----------------|---|-----|----------|----------------|---|-----|----------|----------------|---|-----|-------------------------------|------------|---|-----|-----------|----------------|---|-----|-------------------------------|------------|---|-----|---------------------|----------------|----|-----|--------|----------------|----|-----|-------------|----------------|----|-----|--------------------------------|------------|----|-----|-----------|----------------|----|-----|-----------|----------------|----|-----|-----------------|------------|
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>本演習の内容と目的の説明 日本の稲作の歴史、栽培品種、栽培理論、稲作文化等について概説</td> <td>事前：次回実習内容の確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>春合宿</td> <td>講義（移動中）日本のコメ生産および消費状況について</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>春合宿</td> <td>講義 訪問施設の農業生産、人材育成等の業務内容</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>春合宿</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>春合宿</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>春合宿</td> <td>討論会 テーマ「コメの消費量を増やすには」（年ごとに変更）</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>春合宿</td> <td>実習 野菜園の管理</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>春合宿</td> <td>見学・研修 周辺地域の農村景観と農村社会・稲作文化に触れる</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>秋合宿</td> <td>講義（移動中）コメの稈性と糯性について</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 稲刈り</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 稲刈り はさ掛け</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>秋合宿</td> <td>討論会 テーマ「我が家の雑煮とお餅について」（年ごとに変更）</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 秋野菜の管理</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 果樹園の管理</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>水田の多面的機能と価値について</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> </tbody> </table> | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | ガイダンス | 本演習の内容と目的の説明 日本の稲作の歴史、栽培品種、栽培理論、稲作文化等について概説 | 事前：次回実習内容の確認 | 2 | 春合宿 | 講義（移動中）日本のコメ生産および消費状況について | 事前：講義及び実習内容の予習 | 3 | 春合宿 | 講義 訪問施設の農業生産、人材育成等の業務内容 | 事前：講義及び実習内容の予習 | 4 | 春合宿 | 実習 田植え実習 | 事前：講義及び実習内容の予習 | 5 | 春合宿 | 実習 田植え実習 | 事前：講義及び実習内容の予習 | 6 | 春合宿 | 討論会 テーマ「コメの消費量を増やすには」（年ごとに変更） | 事後：レポートの提出 | 7 | 春合宿 | 実習 野菜園の管理 | 事前：講義及び実習内容の予習 | 8 | 春合宿 | 見学・研修 周辺地域の農村景観と農村社会・稲作文化に触れる | 事後：レポートの提出 | 9 | 秋合宿 | 講義（移動中）コメの稈性と糯性について | 事前：講義及び実習内容の予習 | 10 | 秋合宿 | 実習 稲刈り | 事前：講義及び実習内容の予習 | 11 | 秋合宿 | 実習 稲刈り はさ掛け | 事前：講義及び実習内容の予習 | 12 | 秋合宿 | 討論会 テーマ「我が家の雑煮とお餅について」（年ごとに変更） | 事後：レポートの提出 | 13 | 秋合宿 | 実習 秋野菜の管理 | 事前：講義及び実習内容の予習 | 14 | 秋合宿 | 実習 果樹園の管理 | 事前：講義及び実習内容の予習 | 15 | まとめ | 水田の多面的機能と価値について | 事後：レポートの提出 |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | ガイダンス | 本演習の内容と目的の説明 日本の稲作の歴史、栽培品種、栽培理論、稲作文化等について概説 | 事前：次回実習内容の確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 春合宿 | 講義（移動中）日本のコメ生産および消費状況について | 事前：講義及び実習内容の予習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 春合宿 | 講義 訪問施設の農業生産、人材育成等の業務内容 | 事前：講義及び実習内容の予習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 春合宿 | 実習 田植え実習 | 事前：講義及び実習内容の予習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 春合宿 | 実習 田植え実習 | 事前：講義及び実習内容の予習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 春合宿 | 討論会 テーマ「コメの消費量を増やすには」（年ごとに変更） | 事後：レポートの提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 春合宿 | 実習 野菜園の管理 | 事前：講義及び実習内容の予習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 春合宿 | 見学・研修 周辺地域の農村景観と農村社会・稲作文化に触れる | 事後：レポートの提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 秋合宿 | 講義（移動中）コメの稈性と糯性について | 事前：講義及び実習内容の予習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 秋合宿 | 実習 稲刈り | 事前：講義及び実習内容の予習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 秋合宿 | 実習 稲刈り はさ掛け | 事前：講義及び実習内容の予習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 秋合宿 | 討論会 テーマ「我が家の雑煮とお餅について」（年ごとに変更） | 事後：レポートの提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 秋合宿 | 実習 秋野菜の管理 | 事前：講義及び実習内容の予習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 秋合宿 | 実習 果樹園の管理 | 事前：講義及び実習内容の予習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | まとめ | 水田の多面的機能と価値について | 事後：レポートの提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|------|----------------------------|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 土壌学や植物栄養学の学習につながる内容を含んでいる。 |

| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 別途、指示する | | | 2 | | | | 3 | | | |
|-----|---|-----|------|-----|------|---|---------|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 別途、指示する | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 別途、指示する | | | 2 | | | | 3 | | | |
|-----|---|-----|------|-----|------|---|---------|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 別途、指示する | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|--------------------|---|
| 授業形態 | 対面授業 |
| Teams コード | |
| Moodle コース名および登録キー | |
| 連絡手段 | 学内メール |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： |
| 評価方法 (基準) | レポート (100%) で評価し、60%以上で合格とする。 |
| 学生へのメッセージ | 実習を通して、作物を栽培するための準備、管理方法、収穫がどのように行われているかを体感してください。また、作物栽培の楽しさと大変さを体験してください。 |
| 担当者の研究室等備考 | 園芸科学研究室 (寺林、北村)、作物科学研究室 (川崎)、生産生態基盤学研究室 (山川、佐野) |

| | | | |
|----------------|------------|----------|-------------------------|
| 科目名 | 生物学 | 科目名 (英文) | Fundamentals of Biology |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 山田 徳広 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1008a0 | | |

| 授業概要・目的 | <p>栄養学と食品学は、生物学の知識を基に構築されている。栄養学と食品学を学ぶうえでの必要最小限の有機化学の知識を学修した後に、生物学の中の人体に関係する部分を網羅的に学修する。最後に、環境と生態、生物多様性、進化の基礎についても学修する。具体的には、細胞の構造、酵素、生体内での代謝、体内でのたんぱく質の働き、遺伝、血液、主要臓器である肝臓と腎臓の働き、体内環境の維持機構、生体防御機構、神経系、環境と生態、生物多様性、進化についての基礎的知識を学修する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|--|---------------------------------------|---------------------------|----|-------|--------|-----------|---|-------------------------|---------------------|---------------------------|---|-----------|---------------------------------------|---------------------------|---|-------|----------------|---------------------------|---|----|----------------|---------------------------|---|-----|-----------------------|---------------------------|---|-----|----------|---------------------------|---|---------------------|--------------------------|---------------------------|---|------|-----------------------|---------------------------|---|------|---------|---------------------------|----|-------|-----------|---------------------------|----|--------|-------------------|---------------------------|----|---------|-----------------------|---------------------------|----|------|----|---------------------------|----|------|-------------------------------------|---------------------------|----|------------|----------------|---------------------------|
| 到達目標 | <p>① 生体を構成する分子について説明できる。 ② 細胞の構造と各種細胞内小器官の基本的働きについて説明できる。 ③ 酵素の基本的特徴について説明できる。 ④ 生体エネルギーとは何かについて説明できる。 ⑤ 光合成と窒素固定と栄養とのかかわりについて説明ができる。 ⑥ 生体内におけるたんぱく質の基礎的働きについて説明できる。 ⑦ 遺伝現象と生殖、発生の基礎について説明できる。 ⑧ 血液、肝臓、腎臓の基本的な働きについて説明できる。 ⑨ 体内環境の維持の基礎について説明できる。 ⑩ 免疫機構の基礎について説明できる。 ⑪ 神経伝達の基礎について説明できる。 ⑫ 環境と生態、生物多様性、進化の基礎について説明できる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 下記の授業計画に従い、Web方式で実施する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | 「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「基礎栄養学」、「臨床栄養学」などの科目を理解するために必要な基礎的科目です。管理栄養士に必要な基礎的知識の一つです。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生体を構成する元素</td> <td>生体を構成する主な元素と基本的な原子団</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生体を構成する物質</td> <td>生体を構成する主な元素と分子 (水、タンパク質、脂質、糖質、核酸、無機質)</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>細胞の構造</td> <td>細胞の構造と各種細胞内小器官</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>酵素</td> <td>酵素とは何か、酵素反応の特徴</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>代謝①</td> <td>エネルギー通貨ATP、呼吸とエネルギー産生</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>代謝②</td> <td>光合成と窒素固定</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>さまざまな生命活動にかかわるタンパク質</td> <td>タンパク質の立体構造と機能、各種タンパク質の働き</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>遺伝子①</td> <td>DNAの構造、遺伝子とゲノム、DNAの複製</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>遺伝子②</td> <td>遺伝情報の発現</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>生殖・発生</td> <td>生殖、発生のしくみ</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>体液の恒常性</td> <td>血液の成分と働き、肝臓と腎臓の働き</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>体内環境の維持</td> <td>自立神経系、内分泌系、体温調節、血糖の調節</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>生体防御</td> <td>免疫</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>環境応答</td> <td>神経細胞による情報伝達のしくみ、中枢神経、神経系による骨格筋の運動調節</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>地球環境と生物多様性</td> <td>環境と生態、生物多様性、進化</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | 1 | 生体を構成する元素 | 生体を構成する主な元素と基本的な原子団 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | 2 | 生体を構成する物質 | 生体を構成する主な元素と分子 (水、タンパク質、脂質、糖質、核酸、無機質) | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | 3 | 細胞の構造 | 細胞の構造と各種細胞内小器官 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | 4 | 酵素 | 酵素とは何か、酵素反応の特徴 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | 5 | 代謝① | エネルギー通貨ATP、呼吸とエネルギー産生 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | 6 | 代謝② | 光合成と窒素固定 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | 7 | さまざまな生命活動にかかわるタンパク質 | タンパク質の立体構造と機能、各種タンパク質の働き | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | 8 | 遺伝子① | DNAの構造、遺伝子とゲノム、DNAの複製 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | 9 | 遺伝子② | 遺伝情報の発現 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | 10 | 生殖・発生 | 生殖、発生のしくみ | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | 11 | 体液の恒常性 | 血液の成分と働き、肝臓と腎臓の働き | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | 12 | 体内環境の維持 | 自立神経系、内分泌系、体温調節、血糖の調節 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | 13 | 生体防御 | 免疫 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | 14 | 環境応答 | 神経細胞による情報伝達のしくみ、中枢神経、神経系による骨格筋の運動調節 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | 15 | 地球環境と生物多様性 | 環境と生態、生物多様性、進化 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 生体を構成する元素 | 生体を構成する主な元素と基本的な原子団 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 生体を構成する物質 | 生体を構成する主な元素と分子 (水、タンパク質、脂質、糖質、核酸、無機質) | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 細胞の構造 | 細胞の構造と各種細胞内小器官 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 酵素 | 酵素とは何か、酵素反応の特徴 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 代謝① | エネルギー通貨ATP、呼吸とエネルギー産生 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 代謝② | 光合成と窒素固定 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | さまざまな生命活動にかかわるタンパク質 | タンパク質の立体構造と機能、各種タンパク質の働き | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 遺伝子① | DNAの構造、遺伝子とゲノム、DNAの複製 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 遺伝子② | 遺伝情報の発現 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 生殖・発生 | 生殖、発生のしくみ | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 体液の恒常性 | 血液の成分と働き、肝臓と腎臓の働き | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 体内環境の維持 | 自立神経系、内分泌系、体温調節、血糖の調節 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 生体防御 | 免疫 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 環境応答 | 神経細胞による情報伝達のしくみ、中枢神経、神経系による骨格筋の運動調節 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 地球環境と生物多様性 | 環境と生態、生物多様性、進化 | 次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実務経験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 全ての専門コア科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい教養のための 生物学</td> <td>赤坂 甲治 (著)</td> <td>裳華房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 新しい教養のための 生物学 | 赤坂 甲治 (著) | 裳華房 | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 新しい教養のための 生物学 | 赤坂 甲治 (著) | 裳華房 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>好きになる生物学 (KS 好きになるシリーズ)</td> <td>吉田邦久 著</td> <td>講談社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 好きになる生物学 (KS 好きになるシリーズ) | 吉田邦久 著 | 講談社 | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 好きになる生物学 (KS 好きになるシリーズ) | 吉田邦久 著 | 講談社 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業形態 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Teams コード | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 連絡手段 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|---------------|---|
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： |
| 評価方法 (基準) | 各授業の後に科す課題（70%）と、期末に課す課題（30%）で評価する。 |
| 学生への メッセージ | 一生懸命勉強してください。 |
| 担当者の 研究室等 | 応用栄養学研究室 |
| 備考 | |

| | | | |
|---------------|------------|----------|----------------------------|
| 科目名 | 生物学演習 | 科目名 (英文) | Exercises in Basic Biology |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 岸本 良美 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2○, DP3○ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1009a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 本演習では、「生物学」の講義と連動し、栄養学と食品学を学ぶうえで重要な、人体を中心とした生物学の演習問題に取り組み、基礎的理解を深めるとともに応用能力、問題解決能力を養う。また同時に生物学の基礎に関する様々な問いかけに触れることで、背景となる周辺知識を学び、生物学の根幹となる考え方がどのように生まれてきたかを追体験して、理解を深めることを目的とする。 |
| 到達目標 | ① 生物学の基礎知識を組み合わせて、演習で扱う応用問題に解答することができる。 ② 生物学の応用問題を解く上で鍵となった考え方、根拠について説明できる。 |
| 授業方法と留意点 | 本演習は、課題提供型の遠隔授業（主に Teams を使用）として実施する。「生物学」の講義と連動しているため、受講者は必ず、同じ回の「生物学」の講義を受講してから本演習を受講すること。毎回インターネット上に提示する課題を各自解く。解説ビデオの視聴と、質疑応答を行い、不明点を解消する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「基礎栄養学」、「臨床栄養学」などの科目を理解するために必要な基礎的科目です。管理栄養士に必要な基礎的知識の一つです。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | はじめに | 生物学の基礎演習問題を解き、自分の理解度を把握する。生物学で学ぶポイントを整理する。 | 事前：「生物学」の講義内容を復習しておく 事後：解けなかった問題を復習する |
| 2 | 生体を構成する物質 | 生体を構成する主な元素と分子（水、タンパク質、脂質、糖質、核酸、無機質）に関する演習問題を解く。 | 事前：「生物学」の講義内容を復習しておく 事後：解けなかった問題を復習する |
| 3 | 細胞の構造 | 細胞の構造と各種細胞内小器官に関する演習問題を解く。 | 事前：「生物学」の講義内容を復習しておく 事後：解けなかった問題を復習する |
| 4 | 酵素 | 酵素とは何か、酵素反応の特徴に関する演習問題を解く。 | 事前：「生物学」の講義内容を復習しておく 事後：解けなかった問題を復習する |
| 5 | 代謝① | エネルギー通貨 ATP、呼吸とエネルギー産生に関する演習問題を解く。 | 事前：「生物学」の講義内容を復習しておく 事後：解けなかった問題を復習する |
| 6 | 代謝② | 光合成と窒素固定に関する演習問題を解く。 | 事前：「生物学」の講義内容を復習しておく 事後：解けなかった問題を復習する |
| 7 | さまざまな生命活動にかかわるタンパク質 | タンパク質の立体構造と機能、各種タンパク質の働きに関する演習問題を解く。 | 事前：「生物学」の講義内容を復習しておく 事後：解けなかった問題を復習する |
| 8 | 遺伝子① | DNA の構造、遺伝子とゲノム、DNA の複製に関する演習問題を解く。 | 事前：「生物学」の講義内容を復習しておく 事後：解けなかった問題を復習する |
| 9 | 遺伝子② | 遺伝情報の発現に関する演習問題を解く。 | 事前：「生物学」の講義内容を復習しておく 事後：解けなかった問題を復習する |
| 10 | 生殖・発生 | 生殖、発生のしくみに関する演習問題を解く。 | 事前：「生物学」の講義内容を復習しておく 事後：解けなかった問題を復習する |
| 11 | 体液の恒常性 | 血液の成分と働き、肝臓と腎臓の働きに関する演習問題を解く。 | 事前：「生物学」の講義内容を復習しておく 事後：解けなかった問題を復習する |
| 12 | 体内環境の維持 | 自立神経系、内分泌系、体温調節、血糖の調節に関する演習問題を解く。 | 事前：「生物学」の講義内容を復習しておく 事後：解けなかった問題を復習する |
| 13 | 生体防御 | 免疫に関する演習問題を解く。 | 事前：「生物学」の講義内容を復習しておく 事後：解けなかった問題を復習する |
| 14 | 環境応答 | 神経細胞による情報伝達のしくみ、中枢神経、神経系による骨格筋の運動調節に関する演習問題を解く。 | 事前：「生物学」の講義内容を復習しておく 事後：解けなかった問題を復習する |
| 15 | 地球環境と生物多様性 | 環境と生態、生物多様性、進化に関する演習問題を解く。 | 事前：「生物学」の講義内容を復習しておく 事後：解けなかった問題を復習する |

| | |
|------|-----|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 生物学 |

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|--------------|------|------|
| | 1 | 新しい教養のための生物学 | 赤坂甲治 | 裳華房 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------------------------|------|------|
| | 1 | 好きになる生物学 (KS 好きになるシリーズ) | 吉田邦久 | 講談社 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|------|--|
| 授業形態 | |
|------|--|

| | |
|-----------|--|
| Teams コード | |
|-----------|--|

| | |
|--------------------|--|
| Moodle コース名および登録キー | |
|--------------------|--|

| | |
|------|--|
| 連絡手段 | |
|------|--|

| | |
|---------|---|
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： |
|---------|---|

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 毎回の課題の評価と授業への取り組み (50%)、学期末に課すレポート (50%) により総合的に評価し、60%以上で合格とする。 |
|-----------|--|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 生物学の基礎を身につければ、この後の専門科目や研究の大きな力となります。 「生物学」の講義と合わせて、本演習に主体的に取り組んで、深い理解を体得してください。 |
|-----------|--|

| | |
|------|----------|
| 担当者の | 基礎栄養学研究室 |
|------|----------|

| | |
|------|--|
| 研究室等 | |
| 備考 | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|---------------------------|
| 科目名 | 化学 | 科目名 (英文) | Fundamentals of Chemistry |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 喜多 大三 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1010a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>化学的知識・思考は、食品学および栄養学領域における基礎・専門科目を理解する上で欠かせない。本講義では、化学の基礎知識を確実なものとするとともに、大学における専門科目の理解に不可欠な化学の知識を修得することを目的とする。「化学」では、物質の成り立ちから、理論化学、無機化学、有機化学に関する基本事項を学修し、専門課程・卒業研究における化学的な課題に対処する能力を身につける。また、同時期開講の「化学演習」において、「化学」にて講義した基本事項について、問題演習を通じて理解する。</p> <p>SDGs 2, 3, 4</p> |
| 到達目標 | <p>① 教科書に記載された無機化合物の構造式を書くことができる。 ② 元素の電子配置が説明できる。 ③ 化学結合が説明できる。 ④ 水溶液の濃度、pHなどの計算ができる。 ⑤ 主な有機化合物の種類と性質を説明できる。</p> |
| 授業方法と留意点 | 本講義では遠隔授業を行ない、化学の基礎知識を深める。具体的には、授業ごとの到達目標を決め、それに沿った授業内容を配信する。講義後にはその日の授業内容に関する小テストを遠隔方式で実施する。その他、必要に応じて追加の演習問題などの課題を課す。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 本講義で化学を学ぶことにより、化学の基礎的知識や考え方を主体的に身につけることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | ガイダンス 原子の構造と性質 | <p>アイスブレイク 自己紹介、アクティブブックダイアログ (ABD) 読書会、QFT (question formation technique)、シンク=ペア=シェア法などを説明する。</p> <p>原子、同位体、原子量、同素体、水素原子モデル、電子配置、周期表、周期表と元素の性質の周期性などについて学ぶ。</p> <p>教科書の第1章を ABD 読書会方式で受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。</p> | <p>事前：教科書の第1章を読んでおく。</p> <p>事後：第1回講義内容と第1回小テストの理解</p> |
| 2 | 原子の電子構造 | <p>原子の電子殻 軌道の形、電子配置などについて学ぶ。</p> <p>原子軌道、混成軌道などについて学ぶ。</p> <p>教科書の第2章を ABD 読書会方式で受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。</p> | <p>事前：前回の授業と小テストの理解及び教科書の第2章を読んでおく。</p> <p>事後：第2回講義内容と第2回小テストの理解</p> |
| 3 | 無機化合物 | <p>典型元素、遷移元素の性質、無機化合物の種類と性質などについて学ぶ。</p> <p>教科書の第3章を ABD 読書会方式で受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。</p> | <p>事前：前回の授業と小テストの理解及び教科書の第3章を読んでおく。</p> <p>事後：第3回講義内容と第3回小テストの理解</p> |
| 4 | 化学結合 | <p>化学結合と電気陰性度などについて学ぶ。イオン結合、共有結合、無機化合物の化学式などについて学ぶ。</p> <p>教科書の第4章を ABD 読書会方式で受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。</p> | <p>事前：前回の授業と小テストの理解及び教科書の第4章を読んでおく。</p> <p>事後：第4回講義内容と第4回小テストの理解</p> |
| 5 | 物質の量と状態 | <p>原子量と分子量、モル、アボガドロ定数、濃度、物質の三態などについて学ぶ。</p> <p>教科書の第5章を ABD 読書会方式で受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。</p> | <p>前回の授業と小テストの理解及び教科書の第5章を読んでおく。</p> <p>事後：第5回講義内容と第5回小テストの理解</p> |
| 6 | 溶液の化学 | <p>溶解度、浸透圧、コロイドなどについて学ぶ。</p> <p>教科書の第6章を ABD 読書会方式で受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。</p> | <p>事前：前回の授業と小テストの理解及び教科書の第6章を読んでおく。</p> <p>事後：第6回講義内容と第6回小テストの理解</p> |
| 7 | 酸塩基平衡 | <p>水のイオン積、酸塩基の水溶液の pH などについて学ぶ。</p> <p>教科書の第7章-1を ABD 読書会方式で受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。</p> | <p>事前：前回の授業と小テストの理解及び教科書の第7章を読んでおく。</p> <p>事後：第7-1回講義内容と第7回小テストの理解</p> |
| 8 | 酸化還元反応 | <p>酸化と還元、酸化還元反応などについて学ぶ。</p> <p>教科書の第7章-2を ABD 読書会方式で</p> | <p>事前：前回の授業と小テストの理解及び教科書の第8章を読んでおく。</p> <p>事後：第7回-2講義内容と第7回小テストの理解</p> |

| | | | | |
|-------------------|---|---|---------------------------|--|
| | | | 受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。 | |
| 9 | 無機化学のまとめ | 基礎化学(第1回～第8回まで)の復習 今までの8項目について、グループ別にポスター発表する。 | 受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。 | 事前：第1回～第8回の授業と小テストの理解及び教科書の第1～8章を読んでおく。 事後：第9回講義内容と第9回小テストの理解 |
| 10 | 有機化合物の構造 | 有機化合物の結合、炭化水素の種類と置換基の種類、芳香族化合物などについて学ぶ。 教科書の第8章をABD読書会方式で受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。 | 受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。 | 事前：前回の授業と小テストの理解及び教科書の第8章を読んでおく。 事後：第10回講義内容と第10回小テストの理解 |
| 11 | 異性体と立体化学 | 異性体、構造異性体、立体異性体、光学異性体などを学ぶ。 教科書の第9章をABD読書会方式で受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。 | 受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。 | 事前：前回の授業と小テストの理解及び教科書の第9章を読んでおく。 事後：第9章の講義内容と第11回小テストの理解 |
| 12 | 有機化学反応 | 有機化合物の起こす求核反応・求電子反応などについて学ぶ。 教科書の第10章をABD読書会方式で受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。 | 受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。 | 事前：前回の授業と小テストの理解及び教科書の第10章を読んでおく。 事後：第10章の講義内容と第12回小テストの理解 |
| 13 | 糖類と脂質 | 単糖類と二糖類、多糖類、脂質、ホルモン、生体膜などについて学ぶ。 教科書の第12章をABD読書会方式で受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。 | 受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。 | 事前：前回の授業と小テストの理解及び教科書の第12章を読んでおく。 事後：第12章の講義内容と第13回小テストの理解 |
| 14 | アミノ酸とタンパク質 | 炭水化物、アミノ酸、たんぱく質などの化学構造について学ぶ。 教科書の第13章をABD読書会方式で受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。 | 受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。 | 事前：前回の授業と小テストの理解及び教科書の第13章を読んでおく。 事後：第13章の講義内容と第14回小テストの理解 |
| 15 | 核酸-DNAとRNA | 核酸の構造、遺伝子とRNAの構造、遺伝子、RNAの機能などについて学ぶ。 教科書の第14章をABD読書会方式で受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。 | 受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。 | 事前：前回の授業と小テストの理解及び教科書の第14章を読んでおく。 事後：第14回講義内容と第15回小テストの理解 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | 生化学、食品化学、基礎栄養学、食品衛生学、解剖生理学、薬理学、調理学Ⅲ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | コ・メディカル化学 | 齋藤勝裕・荒井貞夫・久保勘二 | 裳華房 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 講義時に配布する資料 | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teamsコード | | | | |
| Moodleコース名および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法(基準) | 各講義の学習確認小テスト(50%)、課題レポート(50%)で評価し、60%以上で合格とする。 | | | |
| 学生へのメッセージ | この授業は自らが主体的に学ぶ科目ですので、事前・事後学習、グループでの対話、小テストなどを通して、わからないところを解決してから、次に進んでいきましょう。 | | | |
| 担当者の研究室等 | 枚方キャンパス農学部8号館 2F 栄養薬理学研究室 | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|---------------|------------|----------|------------------------------|
| 科目名 | 化学演習 | 科目名 (英文) | Exercises in Basic Chemistry |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 平原 嘉規 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2○, DP3○ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1011a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 化学的知識・思考は、食品学および栄養学領域における基礎・専門科目を理解する上で欠かせない。本講義では、化学の基礎知識を確実なものとするともに、大学における専門科目の理解に不可欠な化学の知識を修得することを目的とする。「化学演習」では、同時期開講する「化学」にて講義した物質の成り立ち、理論化学、無機化学、有機化学に関する基本事項について、問題演習を通じて完全に理解し、専門課程・卒業論文研究における化学的な課題に対処する能力を身につける。 |
| 到達目標 | ① 教科書に記載された無機化合物の構造式を書くことができる。 ② 元素の電子配置について問題を通して説明することができる。 ③ 化学結合について問題を通して説明することができる。 ④ 水溶液の濃度、pHなどの計算問題を解くことができる。 ⑤ 主な有機化合物の種類と性質について問題を通して説明できる。 |
| 授業方法と留意点 | 本講義では、web方式により演習を通して化学の基礎知識を深める。具体的には、授業ごとの到達目標を決め、それに沿った解説、演習問題をwebで配信し、受講者各自で問題を解いた後、解答の解説をweb方式で行う。講義後にはその日の内容のポイントや感想などをレポートまとめて決められた日時までにwebによって提出する。各講義では前回の授業に関する小テストをweb方式で実施する。その他、必要に応じて追加の演習問題などの課題を課す。 |
| 科目学習の効果(資格) | 受講者は化学の基礎知識や学ぶ方法を演習によって身につけることができる。 |

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|------------|---|--|---|
| | 1 | 原子の構造と性質 | 原子の構造、原子核と同位体、質量数、放射能と放射線などについて問題を通して学ぶ。 | 事前：化学の第1回の授業内容を復習しておく。 事後：第1回の授業内容を理解しておく。 |
| 2 | 原子の電子構造 | 原子の電子殻、軌道の形、電子配置、価電子などについて問題を通して学ぶ。 | 事前：前回の授業内容と化学の第2回の授業内容の復習をしておく。 事後：第2回授業内容を理解しておく。第1回小テストの内容を理解しておく。 | |
| 3 | 周期表と元素 | 電子配置と周期表、典型元素と遷移元素、周期性などについて問題を通して学ぶ。 | 事前：前回の授業内容と化学の第3回の授業内容の復習をしておく。 事後：第3回授業内容を理解しておく。第2回小テストの内容を理解しておく。 | |
| 4 | 化学結合 | イオン結合、金属結合、共有結合、配位結合、結合の極性などについて問題を通して学ぶ。 | 事前：前回の授業内容と化学の第4回の授業内容の復習をしておく。 事後：第4回授業内容を理解しておく。第3回小テストの内容を理解しておく。 | |
| 5 | 物質の量と状態 | 原子量と分子量、モル、濃度、物質の三態などについて問題を通して学ぶ。 | 事前：前回の授業内容と化学の第5回の授業内容の復習をしておく。 事後：第5回授業内容を理解しておく。第4回小テストの内容を理解しておく。 | |
| 6 | 溶液の化学 | 溶解と溶媒和、溶解度、浸透圧、コロイドなどについて問題を通して学ぶ。 | 事前：前回の授業内容と化学の第6回の授業内容の復習をしておく。 事後：第6回授業内容を理解しておく。第5回小テストの内容を理解しておく。 | |
| 7 | 酸塩基平衡 | 水のイオン積、酸塩基の水溶液のpHなどについて問題を通して学ぶ。 | 事前：前回の授業内容と化学の第7回の授業内容の復習をしておく。 事後：第7回授業内容を理解しておく。第6回小テストの内容を理解しておく。 | |
| 8 | 酸化還元反応 | 酸化と還元、酸化還元反応などについて問題を通して学ぶ。 | 事前：前回の授業内容と化学の第8回の授業内容の復習をしておく。 事後：第8回授業内容を理解しておく。第7回小テストの内容を理解しておく。 | |
| 9 | 無機化合物のまとめ | 基礎化学(第1回～第8回まで)の復習 今までの8項目について、化学の第9回の授業で学習したテーマに沿った演習問題を解く。 | 事前：第1回～第8回の授業と小テストを理解しておく。 事後：第9回授業内容を理解しておく。第8回小テストの内容を理解しておく。 | |
| 10 | 有機化合物の構造 | 有機化合物の結合、炭化水素の種類と置換基の種類、芳香族化合物などについて問題を通して学ぶ。 | 事前：前回の授業内容と化学の第10回の授業内容の復習をしておく。 事後：第10回授業内容を理解しておく。第9回小テストの内容を理解しておく。 | |
| 11 | 異性体と立体化学 | 異性体、構造異性体、立体異性体、光学異性体などについて問題を通して学ぶ。 | 事前：前回の授業内容と化学の第11回の授業内容の復習をしておく。 事後：第11回授業内容を理解しておく。第10回小テストの内容を理解しておく。 | |
| 12 | 有機化学反応 | 化学反応とエネルギー、反応速度、求核置換反応、求電子置換反応、付加反応などについて問題を通して学ぶ。 | 事前：前回の授業内容と化学の第12回の授業内容の復習をしておく。 事後：第12回授業内容を理解しておく。第11回小テストの内容を理解しておく。 | |
| 13 | 糖類と脂質 | 単糖類と二糖類、多糖類、脂質、ホルモン、生体膜などについて問題を通して学ぶ。 | 事前：前回の授業内容と化学の第13回の授業内容の復習をしておく。 事後：第13回授業内容を理解しておく。第12回小テストの内容を理解しておく。 | |
| 14 | アミノ酸とタンパク質 | アミノ酸、たんぱく質などについて問題を通して学ぶ。 | 事前：前回の授業内容と化学の第14回の授業内容の復習をしておく。 事後：第14回授業内容を理解しておく。第13回小テストの内容を理解しておく。 | |
| 15 | 核酸-DNAとRNA | 核酸の構造、遺伝子とRNAの構造、遺伝 | 事前：前回の授業内容と化学の第15 | |

| | | | | |
|-----------------------|---|-------------------------|--|------|
| | | 子、RNAの機能などについて問題を通して学ぶ。 | 回の授業内容の復習をしておく。 事後：第15回授業内容を理解しておく。第14、15回小テストの内容を理解しておく。 | |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | 生化学、食品化学、基礎栄養学、食品衛生学、解剖生理学、薬理学、調理学Ⅲ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 講義内容に関するwebを配信する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | コ・メディカル化学 | 齋藤勝裕・荒井貞夫・久保勘二 | 裳華房 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teamsコード | | | | |
| Moodleコース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 各講義の学習確認小テスト50%及びレポート50%で評価し、60%以上で合格とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | この授業は自らが主体的に演習を解く科目ですので、事前・事後学修、小テストなどを通して、わからないところを解決して、進んでいきましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 枚方キャンパス農学部8号館3階 食品衛生学研究室 | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|----------|------------------------|
| 科目名 | 解剖生理学 | 科目名 (英文) | Anatomy and Physiology |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 坂根 貞樹 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1015a0 | | |

| 授業概要・目的 | 本講義では、生体の構造(解剖学)および機能(生理学)を学修し、人体の精密かつ複雑な構造と機能の基本を細胞、組織、臓器・器官、器官系及び個体のレベルで理解することを目的とする。個体の発生・成長・老化の過程や、臓器・器官の協調による生体調節の統合システムについて理解を深め、生体の恒常性を維持する機構を学修する。授業担当者の坂根は、大学病院、教育病院における30年以上の診療経験と学生教育および臨床研修医の卒後研修に従事してきた経験を有しており、臨床における解剖生理学の重要性を十分に認識したうえで、栄養学を学ぶ基礎となる生命の仕組みを理解する能力を養うことを目標とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|-----------------------------------|-------------------|----|-------|--------|-----------|---|------------------------------|-------------------------------|-------------------|---|-------|------------------------|-------------------|---|-------|-----------------|-------------------|---|---------|---------|-------------------|---|------|-----------------------|-------------------|---|------|-----------------------------------|-------------------|---|------|-------------|-------------------|---|---------|-------------------|-------------------|---|------|----------------------|-------------------|----|---------|----------------------|-------------------|----|-------|----------------------|-------------------|----|------|----------------------|-------------------|----|--------|-------------------------|-------------------|----|---------|-------------------|-------------------|----|-------|----------|-------------------|
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> ① 人体を構成する臓器・器官について列挙でき、その位置や構造や機能を説明できる。 ② 臓器・器官を構成する特徴的な組織・主な細胞の機能について説明できる。 ③ 細胞の基本構造と、それを構成する細胞内小器官について説明できる。 ④ 生体内情報伝達システム、細胞間情報伝達システムについて説明できる。 ⑤ 体内環境の恒常性維持機構(体液組成・血圧・呼吸・体温など)について説明できる。 ⑥ 人体の防御機構について説明できる。 ⑦ 栄養素の消化吸収について説明できる。 ⑧ 人体に関する知識を今後学修する栄養学、薬理学、病態学等に活用できるよう修得する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 下記の授業計画に従って、パワーポイントを用い、ICTツールを活用した遠隔授業を実施する。授業中に小テストおよび課題を提示し、指定期間内に回答の送信を求める。回答状況で出席確認を行い、提出課題の内容で評価する。解剖生理学実習の内容に関連したテーマで授業を進め、知識の定着化を図る。教科書で不十分な内容に関しては教員が講義資料を作成しPFDファイル等で別途準備する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果(資格) | 管理栄養士国家試験の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の分野に該当し、資格取得に活かせる。「解剖生理学」は、人体の解剖と機能の理解に必要な基礎的知識の一つです。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>解剖生理学(基礎医学)を学ぶための心得 細胞と組織</td> <td>基礎医学を学ぶ; ガイダンス 細胞と組織の構造と機能</td> <td>小テストの回答および指定課題の提出</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>消化器系1</td> <td>口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸の構造と機能</td> <td>小テストの回答および指定課題の提出</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>消化器系2</td> <td>肝臓、胆のう、膵臓の構造と機能</td> <td>小テストの回答および指定課題の提出</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>骨格系・筋肉系</td> <td>骨、筋肉の構造</td> <td>小テストの回答および指定課題の提出</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>循環器系</td> <td>心臓、主な動脈・静脈、リンパ系の構造と機能</td> <td>小テストの回答および指定課題の提出</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>内分泌系</td> <td>視床下部・下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・膵臓・松果体の構造と機能</td> <td>小テストの回答および指定課題の提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>泌尿器系</td> <td>腎臓・尿路の構造と機能</td> <td>小テストの回答および指定課題の提出</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>生殖器系・発生</td> <td>女性生殖器・男性生殖器の構造と機能</td> <td>小テストの回答および指定課題の提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>呼吸器系</td> <td>鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺の構造と機能</td> <td>小テストの回答および指定課題の提出</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>皮膚・感覚器系</td> <td>温痛覚器・皮膚の構造と機能、リンパ性器官</td> <td>小テストの回答および指定課題の提出</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>中枢神経系</td> <td>大脳、間脳、脳幹、小脳、脊髄の構造と機能</td> <td>小テストの回答および指定課題の提出</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>末梢神経</td> <td>脊髄神経・脳神経・自律神経系の構造と機能</td> <td>小テストの回答および指定課題の提出</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>神経感覚器系</td> <td>平衡聴覚器、視覚器、味覚器、嗅覚器の構造と機能</td> <td>小テストの回答および指定課題の提出</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>血液・造血器系</td> <td>血球と血漿、脾臓・骨髄の構造と機能</td> <td>小テストの回答および指定課題の提出</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>生体防御系</td> <td>免疫・アレルギー</td> <td>小テストの回答および指定課題の提出</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | 1 | 解剖生理学(基礎医学)を学ぶための心得 細胞と組織 | 基礎医学を学ぶ; ガイダンス 細胞と組織の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | 2 | 消化器系1 | 口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | 3 | 消化器系2 | 肝臓、胆のう、膵臓の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | 4 | 骨格系・筋肉系 | 骨、筋肉の構造 | 小テストの回答および指定課題の提出 | 5 | 循環器系 | 心臓、主な動脈・静脈、リンパ系の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | 6 | 内分泌系 | 視床下部・下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・膵臓・松果体の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | 7 | 泌尿器系 | 腎臓・尿路の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | 8 | 生殖器系・発生 | 女性生殖器・男性生殖器の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | 9 | 呼吸器系 | 鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | 10 | 皮膚・感覚器系 | 温痛覚器・皮膚の構造と機能、リンパ性器官 | 小テストの回答および指定課題の提出 | 11 | 中枢神経系 | 大脳、間脳、脳幹、小脳、脊髄の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | 12 | 末梢神経 | 脊髄神経・脳神経・自律神経系の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | 13 | 神経感覚器系 | 平衡聴覚器、視覚器、味覚器、嗅覚器の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | 14 | 血液・造血器系 | 血球と血漿、脾臓・骨髄の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | 15 | 生体防御系 | 免疫・アレルギー | 小テストの回答および指定課題の提出 |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 解剖生理学(基礎医学)を学ぶための心得 細胞と組織 | 基礎医学を学ぶ; ガイダンス 細胞と組織の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 消化器系1 | 口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 消化器系2 | 肝臓、胆のう、膵臓の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 骨格系・筋肉系 | 骨、筋肉の構造 | 小テストの回答および指定課題の提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 循環器系 | 心臓、主な動脈・静脈、リンパ系の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 内分泌系 | 視床下部・下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・膵臓・松果体の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 泌尿器系 | 腎臓・尿路の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 生殖器系・発生 | 女性生殖器・男性生殖器の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 呼吸器系 | 鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 皮膚・感覚器系 | 温痛覚器・皮膚の構造と機能、リンパ性器官 | 小テストの回答および指定課題の提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 中枢神経系 | 大脳、間脳、脳幹、小脳、脊髄の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 末梢神経 | 脊髄神経・脳神経・自律神経系の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 神経感覚器系 | 平衡聴覚器、視覚器、味覚器、嗅覚器の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 血液・造血器系 | 血球と血漿、脾臓・骨髄の構造と機能 | 小テストの回答および指定課題の提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 生体防御系 | 免疫・アレルギー | 小テストの回答および指定課題の提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実務経験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 解剖生理学実習(前期) 臨床医学概論(後期) 臨床病態学(2年次) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人体の構造と機能: 解剖生理学</td> <td>荒木英爾、藤田守 他</td> <td>建帛社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 人体の構造と機能: 解剖生理学 | 荒木英爾、藤田守 他 | 建帛社 | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 人体の構造と機能: 解剖生理学 | 荒木英爾、藤田守 他 | 建帛社 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>休み時間の解剖生理学</td> <td>加藤征治</td> <td>講談社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 休み時間の解剖生理学 | 加藤征治 | 講談社 | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 休み時間の解剖生理学 | 加藤征治 | 講談社 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業形態 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Teamsコード | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Moodleコース名および登録キー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 連絡手段 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス: | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 講義の学習確認、実習で修得した内容も含めた小テストや課題を授業中に出题する。小テスト・課題への回答は出席確認を兼ねる。評価方法は、小テスト・課題の提出(合わせて40%程度)、および期末のレポート(評価割合60%程度)により、合計60%以上で合格とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 管理栄養士をめざす皆さんが、是非とも知っておくべき医学の基礎知識を興味をもって学んでもらいたいと思います。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の | 臨床医学研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|------|--|
| 研究室等 | |
| 備考 | |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|-----------------------------------|
| 科目名 | 臨床医学概論 | 科目名 (英文) | Introduction to Clinical Medicine |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 坂根 貞樹 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2○, DP3○, DP4○ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1016a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 「臨床医学概論」では、管理栄養士として働くために必要な医学の基礎知識を修得することを目的とする。病気とは何か、問診、症候、臨床検査などの疾患診断に至るプロセスを学修する。また、疾患を人体の構造と機能に関係づけて理解し、生体制御機構と疾患の関連、その診断と治療の基本的な考え方を修得する。さらに医療に従事する者としての基本的な心得、生命倫理や医療安全についても学修する。授業担当者の坂根は、30年以上の総合内科専門医、内分泌代謝科専門医としての診療経験と、医学生や臨床研修医の指導経験を有しており、臨床医の視点で、栄養士に必須と考えられる臨床医学全般に関する実践的な知識の修得を目的としている。 |
| 到達目標 | ① 主要な疾患の症候、診断の基礎、カルテの読み方を理解する。 ② 主要な疾患の検査・診断及び治療の意義・意味を理解する。 ③ 生命倫理について理解する。 |
| 授業方法と留意点 | 下記の授業計画に従い、パワーポイントを用い、ICT ツールを活用した遠隔授業で行う。授業中に小テストおよび課題を提示し、指定期間内の提出を求める。回答の提出状況により、出席の確認と評価を実施する。教科書で不十分な内容に関しては教員が講義資料を作成しPFD ファイル等で別途準備する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 管理栄養士国家試験の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の分野に該当し、資格取得に活かせる。「臨床医学概論」は、ヒトの疾患とその治療法の学びに必要な基礎的知識の一つです。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------|--|-------------------------|
| | | | |
| 1 | 病気とは何か | 病気と疾患、疾患の種類、遺伝背景や環境因子との関連を学ぶ | 小テストの回答および指定課題の提出 |
| 2 | 症候と診察法 | 症状、症候についての問診 (医療面接) から、視診、聴診、打診、神経診察など一連の診察法について学ぶ | 小テストの回答および指定課題の提出 |
| 3 | 臨床検査の意義 | 血液、尿、生化学検査、胸部X線、CT検査など放射線検査、心電図など生理検査の意義と、特殊検査の適応、鑑別診断について学ぶ | 小テストの回答および指定課題の提出 |
| 4 | 診療録の記載 | 診療録 (カルテ) 記載における基本的事項、個人情報の保護や診療情報の共有など留意すべき点を学ぶ | 小テストの回答および指定課題の提出 |
| 5 | 免疫と生体制御 | 免疫システムによる生体制御の観点から疾患の発症を学ぶ | 小テストの回答および指定課題の提出 |
| 6 | 内分泌と生体制御 | 内分泌系のフィードバック機構と病態について学ぶ | 小テストの回答および指定課題の提出 |
| 7 | 神経系と生体制御 | 中枢神経、末梢神経、自律神経による制御システムと疾患の関連について学ぶ | 小テストの回答および指定課題の提出 |
| 8 | 循環器 | 循環動態を評価する生理検査と病態との関連について学ぶ | 小テストの回答および指定課題の提出 |
| 9 | 消化器 | 消化吸収を評価するための臨床検査と病態との関連について学ぶ | 小テストの回答および指定課題の提出 |
| 10 | 呼吸器 | 呼吸機能検査と病態との関連について学ぶ | 小テストの回答および指定課題に関する学習と提出 |
| 11 | 腎・泌尿器 | 腎機能の評価法と病態との関連について学ぶ | 小テストの回答および指定課題の提出 |
| 12 | 血液 | 血液疾患の検査と診断、および遺伝子診断の意義について学ぶ | 小テストの回答および指定課題の提出 |
| 13 | 医療倫理 | 生命倫理、インフォームドコンセント、終末期医療の実際を知る | 小テストの回答および指定課題に関する学習と提出 |
| 14 | 緩和ケア | 緩和ケアとは何か。緩和ケア専門チームの多職種連携の概要を学ぶ | 小テストの回答および指定課題の提出 |
| 15 | 医療安全 | 感染対策、アレルギー対策など医療現場の安全管理体制の概要を学ぶ | 小テストの回答および指定課題の提出 |

| | |
|------|-------------------------|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 解剖生理学 (前期) 解剖生理学実習 (前期) |

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|------------------|----------|------|
| | 1 | 疾病の成り立ち：臨床医学 第4版 | 田中明、加藤昌彦 | 建帛社 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----------------------|-----------|------|
| | 1 | 栄養科学シリーズ NEXT「臨床医学入門」 | 武田英二、河田光博 | 講談社 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業形態 | 対面授業/ Web Folder 及び Teams (教材提供) |
| Teams コード | jx6dtgg |
| Moodle コース名 および登録キー | 臨床医学概論 med2020 |
| 連絡手段 | 学内メール |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： |
| 評価方法 | 講義の学習確認小テスト (指定課題) を各授業中に提示し、ICT ツールでの解答内容で学習態度を評価する。毎回実施する小テストおよび課題提 |

| | |
|-----------|--|
| (基準) | 出 (評価割合 40%)、学期末試験 (評価割合 60%) で総合的に評価し、60%以上で合格とする。 |
| 学生へのメッセージ | 前期で修得した基礎知識を基に、実際に病気の診断に至る過程を勉強します。 期末試験は、前期の必須科目である「解剖生理学」で学んだ基礎知識を含めて、管理栄養士の国家試験に対応した内容で実施します。 |
| 担当者の研究室等 | 臨床医学研究室 |
| 備考 | |

| | | | |
|---------------|------------------|----------|--------------|
| 科目名 | 生化学 | 科目名 (英文) | Biochemistry |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 大塚 正人 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1017a0 | | |

授業概要・目的
 生命現象を化学的に探究するのが生化学である。生体の構成成分と代謝を理解するための元素、化合物の特徴に始まり、細胞の構造、糖質、脂質、たんぱく質(アミノ酸)、核酸などの性質、酵素反応の特徴、生体エネルギー論と、授業を展開していく。次に、解糖系、クエン酸回路(TCA回路)、β-酸化、電子伝達系・酸化的リン酸化、アミノ基転移反応、酸化的脱アミノ反応、尿素回路を中心とした三大栄養素の代謝と、生体内におけるグリコーゲン、トリグリセライド及びコレステロールの生合成を学修する。さらに、遺伝情報の発現とたんぱく質合成並びに免疫システムの基礎を学修する。
 国連の持続可能な開発目標 SDGs の6に対応する。

- 到達目標**
- ① 三大栄養素の構造的特徴についての基礎的事項が説明できる。
 - ② 生体エネルギーについての基礎的事項が説明できる。
 - ③ 三大栄養素の代謝とその関係性について説明できる。
 - ④ 核酸・遺伝現象・たんぱく質合成についての基礎的事項が説明できる。
 - ⑤ 酵素反応の基礎的事項が説明できる。
 - ⑥ ホルモンとその受容体についての基礎的事項が説明できる。
 - ⑦ 免疫に関する基礎的事項が説明できる。

授業方法と留意点
 下記の授業計画に従い、主にパワーポイントおよび板書にて講義を行う。また、各講義前に、前回の講義の小テストを実施する。

科目学習の効果(資格)
 生体が生きている仕組みを理解し、栄養素や生体成分の化学的性質と、体内での機能・代謝の基礎を学びます。「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「基礎栄養学」、「臨床栄養学」などの科目を理解するために必要な基礎的科目です。生化学の知識は、栄養学・臨床栄養学と結びつけ医療の現場で発揮することができます。近年では、がんの治療を生化学の知識をもとに、がんセンターなどで医師などと共に研究する管理栄養士も見られます。栄養士、管理栄養士の資格を取得する上でも、とても重要な基礎知識です。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------|-----------------------------------|-----------------------|
| 1 | 三大栄養素の構造と特徴① | 糖質の構造と特徴について アミノ酸の構造と特徴について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 2 | 三大栄養素の構造と特徴② | たんぱく質の構造と特徴について 脂質の構造と特徴について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 3 | 細胞と細胞内小器官 | 細胞、細胞質、各細胞内小器官の特徴と働きについて | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 4 | 生体エネルギー | ATPの生成を中心とした生体エネルギー論について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 5 | 糖質の代謝① | 解糖系、TCA回路と、それに続く電子伝達系・酸化的リン酸化について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 6 | 糖質の代謝② | グリコーゲン合成、糖新生、ウロンサン回路、五炭糖リン酸回路について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 7 | 脂質の代謝① | β-酸化とTCA回路を中心とした脂質代謝について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 8 | 脂質の代謝② | 脂肪酸の合成とコレステロール代謝について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 9 | たんぱく質・アミノ酸の代謝① | アミノ基転移反応と酸化的脱アミノ反応について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 10 | たんぱく質・アミノ酸の代謝② | 尿素回路について 三大栄養素の代謝の関係性について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 11 | 核酸の基礎 | DNA、RNAなどの核酸の基礎について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 12 | 遺伝子発現とたんぱく質の合成 | 遺伝子発現とたんぱく質の合成について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 13 | 酵素反応の特徴① | 酵素の構造的特徴について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 14 | 酵素反応の特徴②、ホルモン | 酵素反応の基礎的事項について ホルモンの作用機構について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 15 | 免疫の基礎 | 液性免疫、細胞性免疫といった免疫機構の基礎について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |

実務経験 関連科目

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-------------------------|--------------|------|
| 1 | 生化学ガイドブック改訂第3版増補 | 遠藤克己、三輪一智 | 南江堂 |
| 2 | 健康・栄養科学シリーズ 基礎栄養学 改訂第5版 | 奥 恒行、柴田克己 編集 | 南江堂 |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|---------|-----|------|
| 1 | 別途、指示する | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

授業形態 対面授業/Moodle
Teams コード af6e012
Moodle コース名 2020年度農学部生化学
および登録キー Land
連絡手段 学内メール
メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
 メールアドレス：
評価方法 各講義前に、前回の講義の学習確認小テストを行う(15回目は講義の最後に実施)。毎回実施する小テスト(15回：評価割合40%)および定期試験

| | |
|---------------|--|
| (基準) | (評価割合 60%) で評価し、60%以上で合格とする。 |
| 学生への メッセージ | 遅刻は厳禁です。毎回 Moodle を使って、講義開始時に小テストを行います。 講義前の予習と講義後の復習は不可欠です。必ず教科書を読んでから、講義に参加してください。 本講義では、生物がどのようなしくみで動いているのか、最新のトピックスなども織り交ぜ、その謎を分子レベルで分かり易く説明します。予習・復習を忘れずに、興味を持ってしっかりと理解するように努めて下さい。 |
| 担当者の 研究室等 | 薬学部 1 号館 5 階大塚教授室 |
| 備考 | |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|--------------|
| 科目名 | 微生物学 | 科目名 (英文) | Microbiology |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 高松 宏治 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1018a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 様々な微生物 (細菌、ウイルス、寄生虫など) のうち、人間にとって有用・有益な微生物と、食中毒や食品介在性感染症の原因となる微生物の構造、増殖機構、汚染源、伝播機構などの基本的知識並びにそれらによる感染症の病態や予防に関する知識を得ることを目的とする。また、栄養管理上問題となる感染性疾患 (肝炎、腎障害など) の概略についても学修する。 |
| 到達目標 | ① 微生物の基本的な構造ならびに性質を学び、食品微生物や病原微生物の特徴を学修する。 ② 食品加工などに利用される微生物の作用や疾病における発症メカニズムについて理解する。 ③ 食品の微生物管理や食品を介する感染症の発生予防に関する実践的な知識を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | PowerPoint を用いて解説する。授業で使った PowerPoint ファイルを PDF に変換して Teams や WebFolder にアップロードし、学生が印刷又はパソコンなどで利用できるようにする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 食品・飲料の品質や安全性に影響する微生物の特徴と、それらの防除について理解するために必要な知識です。また、人体と微生物の関わりや感染症について理解するために必要な基礎的科目です。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------|--|---|
| | | | |
| 1 | 微生物の基礎 | 微生物とは何か? 微生物の発見と微生物学の歴史について概説する | 事前: 教科書・教材の該当範囲を確認する 事後: 講義内容をノートにまとめる |
| 2 | 微生物の分類 | 微生物分類の基礎として、ウイルス、細菌、真菌、原虫、寄生虫の違いについて概説する | 事前: 教科書・教材の該当範囲を確認する 事後: 講義内容をノートにまとめる |
| 3 | 生活と微生物 | 微生物を利用した食品や医薬品などの生産、食品の変敗や感染症などについて概説する | 事前: 教科書・教材の該当範囲を確認する 事後: 講義内容をノートにまとめる |
| 4 | 微生物の取扱い | 微生物の検出、分離、培養について概説する | 事前: 教科書・教材の該当範囲を確認する 事後: 講義内容をノートにまとめる |
| 5 | 微生物制御と衛生管理 | 有用微生物を適切に利用し、有害微生物による被害を防ぐ理論と技術について概説する | 事前: 教科書・教材の該当範囲を確認する 事後: 講義内容をノートにまとめる |
| 6 | 病原微生物 | 感染症や食中毒を引き起こす微生物について概説する | 事前: 教科書・教材の該当範囲を確認する 事後: 講義内容をノートにまとめる |
| 7 | 生体防御機構 | 生体防御に関わる器官、細胞、分子について概説する | 事前: 教科書・教材の該当範囲を確認する 事後: 講義内容をノートにまとめる |
| 8 | 感染症の治療 | 感染症 (食品由来を含む) の治療について概説する | 事前: 教科書・教材の該当範囲を確認する 事後: 講義内容をノートにまとめる |
| 9 | 感染症の予防 | 感染症 (食品由来を含む) の予防について概説する | 事前: 教科書・教材の該当範囲を確認する 事後: 講義内容をノートにまとめる |
| 10 | ウイルスの特徴 | ウイルスの構造、分類、増殖の仕組みについて解説する | 事前: 教科書・教材の該当範囲を確認する 事後: 講義内容をノートにまとめる |
| 11 | 代表的な病原性ウイルス | 代表的なウイルス感染症 (食品由来を含む) について解説する | 事前: 教科書・教材の該当範囲を確認する 事後: 講義内容をノートにまとめる |
| 12 | 細菌の特徴 | 細菌の構造、分類、増殖の仕組みについて解説する | 事前: 教科書・教材の該当範囲を確認する 事後: 講義内容をノートにまとめる |
| 13 | 代表的な病原性細菌 | 代表的な細菌感染症について解説する | 事前: 教科書・教材の該当範囲を確認する 事後: 講義内容をノートにまとめる |
| 14 | 真菌、原虫、寄生虫の特徴 | 真菌、原虫、寄生虫の構造、分類、増殖の仕組みについて解説する | 事前: 教科書・教材の該当範囲を確認する 事後: 講義内容をノートにまとめる |
| 15 | 代表的な病原性真菌、原虫、寄生虫 | 代表的な真菌感染症、原虫感染症、寄生虫感染症について解説する | 事前: 教科書・教材の該当範囲を確認する 事後: 講義内容をノートにまとめる |

| | |
|------|--|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | |

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|------------|------------|------|
| | 1 | 微生物学 (第3版) | 小林秀光・白石淳 編 | 化学同人 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------|-----|------|
| | 1 | 別途、指示する | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|--------------------|---|
| 授業形態 | 対面授業 / Web Folder 及び Teams (教材提供) |
| Teams コード | 7ikzcell |
| Moodle コース名および登録キー | |
| 連絡手段 | 学内メール |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス: |
| 評価方法 (基準) | 定期試験 (100%) で評価し、60%以上で合格とする。 |
| 学生へのメッセージ | 微生物学は生活に密着した学問です。日々の暮らしのなかで微生物の存在を意識しながら学習すると、楽しく学べると思います。 |
| 担当者の | 枚方キャンパス1号館5階微生物学研究室 |

| | |
|------|--|
| 研究室等 | |
| 備考 | |

| | | | |
|---------------|------------------|----------|------------------------------------|
| 科目名 | 解剖生理学実習 | 科目名 (英文) | Practice in Anatomy and Physiology |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 坂根 貞樹・野原 綾 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1023a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 本実習では、個体レベル及び個体の機能を構成する組織・器官レベルにおいて正常な人体の仕組みを修得すること、様々な「生命現象」の観察・測定方法や結果の解析方法を修得することを目的とする。並行して開講する解剖生理学講義と連携しながら、さらなる知識の定着を図る。また、今後学修する「臨床病態学」を理解するための基本的知識・手技を修得する。具体的には、人体模型標本・骨格標本、実験動物の解剖を通して生体の器官・臓器の位置を正確な知識として定着させる。また、動物組織標本を光学顕微鏡で観察することで組織の特徴や構造を細胞レベルでも学修する。さらに、実験動物やヒトを対象に、バイタルサインや呼吸機能検査、心電図、など実際臨床で用いられる生理学的検査を通して「生命現象」を観察する。これにより栄養、運動、休養などの基本的な生活・生命活動、および環境変化に対する適応機構を理解する。 授業担当者の坂根は、30年以上の臨床経験と研修医の教育・指導経験を有しており、実際の診療における解剖生理学の意義や重要性について解説する。 |
| 到達目標 | ① 生体の構造について器官・組織・細胞レベルで説明でき、それらの生理機能を説明できる。 ② 生理機能検査の意義・原理・方法を説明でき、実施することができる。 ③ 人体に関する知識を栄養学、薬理学、臨床病態学の学修に活用できる。 ④ 基本的な実験操作・手技を修得する。 ⑤ 実験に主体的に取り組み、得られた結果に対して客観的な分析と科学的な考察ができる。 |
| 授業方法と留意点 | 2班に班分けをおこない、40名の少人数で実習する。1回目は1.5時限(135分)および3時限(270分、2回分)の実習を1日で実施。以後、3時限(2回分)の実習を毎週行い、1.5時限(135分授業)[3時間]×15回=計45時間分の授業内容を5週間で集中的に実施する。スケッチチェック・口頭試問は原則として実習中に行うが、不足分は期限内に課題として提出する。並行して同時期に開講する「解剖生理学」では本実習のスケジュールに対応した順序で系統講義を行い、実習内容にも配慮した小テストを実施する。 |
| 科目学習の効果(資格) | 管理栄養士国家試験の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の分野に該当し、資格取得に活かせる。「解剖生理学」は、人体の解剖と機能の理解に必要な基礎的知識の一つです。 |

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|-----------------------|--|---|---|
| | 1 | 人体・骨格模型の観察 | オリエンテーション 人体模型・骨格模型の観察・スケッチ | 事前学習：主要な臓器・脈管・骨・筋の位置・連絡について予習する。 事後学習：スケッチに基づき、当日の復習を行う。 評価：スケッチブック |
| 2 | 組織学実習1 人体 | 顕微鏡の使用説明 食道・胃 標本の観察・スケッチ | 第1回実習内容についての口頭試問 事前学習：担当範囲についての予習 事後学習：スケッチ内容に基づき当日の内容の復習を行う。 評価：スケッチチェック・口頭試問 | |
| 3 | 組織学実習1 人体 | 小腸・大腸 標本の観察・スケッチ | 事前学習：担当範囲についての予習 事後学習：スケッチ内容に基づき当日の内容の復習を行う。 評価：スケッチチェック・口頭試問 | |
| 4 | 組織学実習2 人体 | 肝臓・膵臓 標本の観察・スケッチ | 事前学習：担当範囲についての予習 事後学習：スケッチ内容に基づき当日の内容の復習を行う。 評価：スケッチチェック・口頭試問 | |
| 5 | 組織学実習2 人体 | 骨組織・筋組織 標本の観察・スケッチ | 事前学習：担当範囲についての予習 事後学習：スケッチ内容に基づき当日の内容の復習を行う。 評価：スケッチチェック・口頭試問 | |
| 6 | 組織学実習3 人体 | 心臓・血管 標本の観察・スケッチ | 事前学習：担当範囲についての予習 事後学習：スケッチ内容に基づき当日の内容の復習を行う。 評価：スケッチチェック・口頭試問 | |
| 7 | 組織学実習3 人体 | 甲状腺・副腎 標本の観察・スケッチ 泌尿器・生殖器 標本の観察・スケッチ | 事前学習：担当範囲についての予習 事後学習：スケッチ内容に基づき当日の内容の復習を行う。 評価：スケッチチェック・口頭試問 | |
| 8 | ラット解剖 | 解剖の事前講義 ラット雄雌を2名で解剖 心臓・呼吸器系の解剖・観察・スケッチ | 事前学習：第1回～3回実習の復習 事後学習：スケッチ内容を含めたレポート作成 評価：スケッチチェック・口頭試問・レポート評価 | |
| 9 | ラット解剖 | 消化器系・脾臓の解剖・観察・スケッチ 泌尿器・生殖器の解剖・観察・スケッチ | 事前学習：第1回～3回実習の復習 事後学習：スケッチ内容を含めたレポート作成 評価：スケッチチェック・口頭試問・レポート評価 | |
| 10 | 生理学実習1-1 皮膚感覚系 | 皮膚感覚検査 視覚検査 | 事前学習：配布する実習書に基づいて内容を予習する。 事後学習：実習で得られた結果をもとにレポートを作成し提出する。 評価：口頭試問、レポート評価 | |
| 11 | 生理学実習1-2 呼吸器系・循環器系 | 呼吸機能検査 神経学的検査 | 事前学習：配布する実習書に基づいて内容を予習する。 事後学習：実習で得られた結果をもとにレポートを作成し提出する。 評価：口頭試問、レポート評価 | |
| 12 | 生理学実習2-1 身体所見 | 身体測定、安静時・運動時のバイタルサイン | 事前学習：配布する実習書に基づいて内容を予習する。 事後学習：実習で得られた結果をもとにレポートを作成し提出する。 評価：口頭試問、レポート評価 | |
| 13 | 生理学実習2-2 | 心電図検査 | 事前学習：配布する実習書に基づいて内容を予習する。 | |

| | | | | |
|------------------------|---|------------------------|--------------------------------------|--|
| | | 循環器系検査 | | る。 事後学習：実習で得られた結果をもとにレポートを作成し提出する。 評価：口頭試問、レポート評価 |
| | 14 | 生理学実習3 血液検査 | 血糖値、ヘモグロビン値測定 (ヒト 自己血で実施) | 事前学習：配布する実習書に基づいて内容を予習する。 事後学習：実習で得られた結果をもとにレポートを作成し提出する。 評価：口頭試問、レポート評価 |
| | 15 | 生理学実習3 尿検査・唾液検査 | 尿成分分析 唾液アミラーゼ測定 (ヒト 自己尿、唾液で実施) | 事前学習：配布する実習書に基づいて内容を予習する。 事後学習：実習で得られた結果をもとにレポートを作成し提出する。 評価：口頭試問、レポート評価 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | 解剖生理学 (前期) 臨床医学概論 (後期) | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 栄養科学シリーズ NEXT「解剖生理学実習」 | 森田規之、河田光博、松田賢一 | 講談社 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 人体の構造と機能：解剖生理学 | 荒木英爾、藤田 守 他 | 建帛社 |
| | 2 | 栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 | 志村二三夫、岡 純、山田和彦 | 羊土社 |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | <ul style="list-style-type: none"> ・スケッチチェック・口頭試問を完了していないものには単位を与えない。 ・期間内に口頭試問に合格していない場合は、特別な事情を除き、第15回までの実習の前後でのみ対応する。 ・レポート作成にあたり、作成代表者を各班で実習ごとに設定する(但し、受講学生は必ず1回は責任者を担当すること)。レポート評価は、レポート作成責任者と分担者の評価比率に基づき決定する。 ・提出課題(60%)および実習への取り組み(ルーブリック評価・40%)で評価し、60%以上で合格とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | 自分の眼でみて、手を動かし、五感を働かせて生きた知識を修得してください。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 臨床医学研究室 専門は内分泌代謝学 | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|-----------------------------|
| 科目名 | 生化学実験 | 科目名 (英文) | Experiments in Biochemistry |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 大塚 正人, 小林 直木 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1024a0 | | |

| 授業概要・目的 | 生命現象を化学的に探究するのが生化学であるが、講義だけで生化学を理解するのは困難である。本科目は実験を通じて生化学の知識を深めることを目的とする。具体的には、pHと緩衝液、糖質の性質、たんぱく質・アミノ酸の性質、脂質の性質、ビタミン・無機質（ミネラル）の性質を学修し、次に動物の臓器を用いて生体中のグリコーゲン、脂質成分、DNAを定量する。さらに、酵素の基本的性質と酵素反応速度論並びに生体における酸化反応と電子伝達を学修する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|--------------------------------------|-----------------------|----|-------|--------|-----------|---|---------|-----------------------------------|-----------------------|---|---------|------------|-----------------------|---|-----------------|--------------------|-----------------------|---|---------|------------|-----------------------|---|-----------|--------------|-----------------------|---|-------------|----------------|-----------------------|---|----------------|-----------------------|-----------------------|---|----------------|-----------------------|-----------------------|---|------------|--------------------------------------|-----------------------|----|----------|------------------|-----------------------|----|----------|------------------|-----------------------|----|-------|-------------------------|-----------------------|----|-------|--------------------|-----------------------|----|-------|-----------------------|-----------------------|----|--------------|------------------------------|-----------------------|
| 到達目標 | ① pHと緩衝液について説明できる。 ② 五大栄養素定性反応について説明できる。 ③ 肝臓グリコーゲンと筋肉グリコーゲンについて説明できる。 ④ 脂肪組織の脂質成分について説明できる。 ⑤ 肝臓DNAについて説明できる。 ⑥ 各因子の酵素反応への影響が説明できる。 ⑦ 細胞における酸化還元反応が説明できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | ・下記の授業計画に従い、実験を実施する。 ・1回あたり1.5コマ（135分授業）[3時間]×15回＝計45時間の授業とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果（資格） | 生体が生きている仕組みを理解し、栄養素や生体成分の化学的な性質と、体内での機能・代謝の基礎を学びます。「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「基礎栄養学」、「臨床栄養学」などの科目を理解するために必要な基礎的科目です。生化学の知識は、栄養学・臨床栄養学と結びつけ医療の現場で発揮することができます。近年では、がんの治療を生化学の知識をもとに、がんセンターなどで医師などと共に研究する管理栄養士も見られます。栄養士、管理栄養士の資格を取る上でも、とても重要な基礎知識です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>pHと緩衝液</td> <td>pHメーターによるpHの測定をする 緩衝液の調整と働きを学ぶ</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>糖質の定性反応</td> <td>糖質の定性反応を学ぶ</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>たんぱく質・アミノ酸の定性反応</td> <td>たんぱく質・アミノ酸の定性反応を学ぶ</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>脂質の定性反応</td> <td>脂質の定性反応を学ぶ</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ビタミンの定性反応</td> <td>ビタミンの定性反応を学ぶ</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>尿中ミネラルの定性反応</td> <td>尿中ミネラルの定性反応を学ぶ</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>肝臓グリコーゲンの分離と定量</td> <td>ラットの肝臓グリコーゲンを分離して定量する</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>筋肉グリコーゲンの分離と定量</td> <td>ラットの筋肉グリコーゲンを分離して定量する</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>脂肪組織の脂肪酸組成</td> <td>牛脂身から脂質を抽出し、薄層クロマトグラフィーを用いてその組成を確認する</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>肝臓DNAの分離</td> <td>ラットの肝臓からDNAを抽出する</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>肝臓DNAの定量</td> <td>ラットの肝臓のDNA量を定量する</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>酵素反応①</td> <td>反応時間と酵素濃度が酵素反応に及ぼす影響をみる</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>酵素反応①</td> <td>基質濃度が酵素反応に及ぼす影響をみる</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>酵素反応①</td> <td>反応温度とpHが酵素反応に及ぼす影響をみる</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>生体の酸化反応と電子伝達</td> <td>ラットの心臓を用いた生きた細胞における酸化還元反応を学ぶ</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | 1 | pHと緩衝液 | pHメーターによるpHの測定をする 緩衝液の調整と働きを学ぶ | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 2 | 糖質の定性反応 | 糖質の定性反応を学ぶ | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 3 | たんぱく質・アミノ酸の定性反応 | たんぱく質・アミノ酸の定性反応を学ぶ | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 4 | 脂質の定性反応 | 脂質の定性反応を学ぶ | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 5 | ビタミンの定性反応 | ビタミンの定性反応を学ぶ | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 6 | 尿中ミネラルの定性反応 | 尿中ミネラルの定性反応を学ぶ | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 7 | 肝臓グリコーゲンの分離と定量 | ラットの肝臓グリコーゲンを分離して定量する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 8 | 筋肉グリコーゲンの分離と定量 | ラットの筋肉グリコーゲンを分離して定量する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 9 | 脂肪組織の脂肪酸組成 | 牛脂身から脂質を抽出し、薄層クロマトグラフィーを用いてその組成を確認する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 10 | 肝臓DNAの分離 | ラットの肝臓からDNAを抽出する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 11 | 肝臓DNAの定量 | ラットの肝臓のDNA量を定量する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 12 | 酵素反応① | 反応時間と酵素濃度が酵素反応に及ぼす影響をみる | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 13 | 酵素反応① | 基質濃度が酵素反応に及ぼす影響をみる | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 14 | 酵素反応① | 反応温度とpHが酵素反応に及ぼす影響をみる | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 15 | 生体の酸化反応と電子伝達 | ラットの心臓を用いた生きた細胞における酸化還元反応を学ぶ | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | pHと緩衝液 | pHメーターによるpHの測定をする 緩衝液の調整と働きを学ぶ | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 糖質の定性反応 | 糖質の定性反応を学ぶ | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | たんぱく質・アミノ酸の定性反応 | たんぱく質・アミノ酸の定性反応を学ぶ | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 脂質の定性反応 | 脂質の定性反応を学ぶ | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | ビタミンの定性反応 | ビタミンの定性反応を学ぶ | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 尿中ミネラルの定性反応 | 尿中ミネラルの定性反応を学ぶ | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 肝臓グリコーゲンの分離と定量 | ラットの肝臓グリコーゲンを分離して定量する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 筋肉グリコーゲンの分離と定量 | ラットの筋肉グリコーゲンを分離して定量する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 脂肪組織の脂肪酸組成 | 牛脂身から脂質を抽出し、薄層クロマトグラフィーを用いてその組成を確認する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 肝臓DNAの分離 | ラットの肝臓からDNAを抽出する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 肝臓DNAの定量 | ラットの肝臓のDNA量を定量する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 酵素反応① | 反応時間と酵素濃度が酵素反応に及ぼす影響をみる | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 酵素反応① | 基質濃度が酵素反応に及ぼす影響をみる | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 酵素反応① | 反応温度とpHが酵素反応に及ぼす影響をみる | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 生体の酸化反応と電子伝達 | ラットの心臓を用いた生きた細胞における酸化還元反応を学ぶ | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実務経験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生化学実験</td> <td>田代 操 編著</td> <td>化学同人</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 生化学実験 | 田代 操 編著 | 化学同人 | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 生化学実験 | 田代 操 編著 | 化学同人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 別途、指示する | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 別途、指示する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業形態 | Teams「教材・課題配信型」/対面授業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Teamsコード | u316t6o | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Moodleコース名 および登録キー | 2020年度農学部生化学実習 Land | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 連絡手段 | 学内メール | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | 実験に取り組む姿勢（ルーブリック評価・評価割合50%）とレポート（評価割合50%）で評価し、60%以上で合格とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 『生化学実験』では、『生化学』の授業で学んだ内容をより深く理解することを目的とするとともに、生体成分の分析・解析の基本として、分光光度計による定量分析により、酵素活性の分析を行います。これらを通じて実験の原理を理解し、基本操作を身につけてください。またレポート作成を通して、科学データの基本的な報告書の書き方も身につけて下さい。教科書をよく読んで、予習・復習を忘れずに、興味を持ってしっかりと理解するように努めて下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|--------------|-------------------|
| 担当者の 研究室等 | 薬学部 1 号館 5 階大塚教授室 |
| 備考 | |

| | | | |
|---------------|------------------------|----------|----------------------|
| 科目名 | 食品学総論 | 科目名 (英文) | General Food Science |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 水間 智哉 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1026a0 | | |

| 授業概要・目的 | <p>栄養管理を行う際に必要であり、健康に欠かせない食品の成分や性質を学び食品の役割・機能を理解することを目的とする。具体的には、食品の一次機能を担うたんぱく質、炭水化物、脂質、ビタミン、無機質など生命維持に必要な食品成分の化学構造・性質、物性等や栄養特性を理解する。また、色素成分、呈味成分、におい成分などおいしさを感じさせる二次機能、及び人の健康の維持・増進に関わる三次機能を有する特定保健用食品等の成分と作用について学修する。</p> <p>本科目担当者は民間企業で15年以上の製造・品質管理・商品開発を経験しており、その経験を生かした実践的な知識を教授する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|--|-----------------------------|--|----|-------|---------|-----------|---|----------------------------|-----------------------------|--|---|---------------|----------------------------|--|---|--------|----------------------|--|---|-------|----------------------------|--|---|-------|---------|--|---|-------|---------|--|---|-----|--------------|--|---|-----|---------------|--|---|-------|--------------------|--|----|-------|------------|--|----|-----|--------------|--|----|----------|-----------------|--|----|----------|---------------------------|--|----|---------|--------------------|--|----|------|--------------------|--|
| 到達目標 | <p>① 食品の一次、二次及び三次機能について説明することができる。</p> <p>② アミノ酸・ペプチド、たんぱく質、炭水化物、脂質、ビタミン、無機質の種類、構造、性質を化学的に説明することができる。</p> <p>③ 食品中の色、味、におい成分の種類、構造、性質を化学的に説明することができる。</p> <p>④ 特定保健用食品の成分と作用について説明することができる。</p> <p>⑤ 食品の主観的評価（官能評価）の方法について説明することができる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | ICT ツールを利用した遠隔授業を行い、課題により理解を深める。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | 管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人間と食品</td> <td>食品学とは、食物の歴史の変遷、食物連鎖、食料と環境問題</td> <td>授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>食品の一次機能たんぱく質①</td> <td>食品の機能分類、たんぱく質とは、アミノ酸の分類と構造</td> <td>授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>たんぱく質②</td> <td>たんぱく質の分類、性質、たんぱく質の変性</td> <td>授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>炭水化物①</td> <td>炭水化物の定義と分類、食品成分としての炭水化物の役割</td> <td>授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>炭水化物②</td> <td>単糖、オリゴ糖</td> <td>授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>炭水化物③</td> <td>多糖、植物繊維</td> <td>授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>脂質①</td> <td>脂質の定義、分類、脂肪酸</td> <td>授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>脂質②</td> <td>油脂の性質、酸化、リン脂質</td> <td>授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ビタミン①</td> <td>ビタミンの定義、分類、脂溶性ビタミン</td> <td>授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ビタミン②</td> <td>水溶性ビタミンの機能</td> <td>授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>無機質</td> <td>無機質の種類、性質、機能</td> <td>授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>食品の二次機能①</td> <td>水分、水の構造と性質、色素成分</td> <td>授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>食品の二次機能②</td> <td>呈味成分、香り・におい成分の分類、作用、テクチャー</td> <td>授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>食品の三次機能</td> <td>三次機能を持つ主な食品成分とその作用</td> <td>授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>食事設計</td> <td>官能評価（官能検査）の種類と検査手法</td> <td>授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | 人間と食品 | 食品学とは、食物の歴史の変遷、食物連鎖、食料と環境問題 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | 2 | 食品の一次機能たんぱく質① | 食品の機能分類、たんぱく質とは、アミノ酸の分類と構造 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | 3 | たんぱく質② | たんぱく質の分類、性質、たんぱく質の変性 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | 4 | 炭水化物① | 炭水化物の定義と分類、食品成分としての炭水化物の役割 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | 5 | 炭水化物② | 単糖、オリゴ糖 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | 6 | 炭水化物③ | 多糖、植物繊維 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | 7 | 脂質① | 脂質の定義、分類、脂肪酸 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | 8 | 脂質② | 油脂の性質、酸化、リン脂質 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | 9 | ビタミン① | ビタミンの定義、分類、脂溶性ビタミン | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | 10 | ビタミン② | 水溶性ビタミンの機能 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | 11 | 無機質 | 無機質の種類、性質、機能 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | 12 | 食品の二次機能① | 水分、水の構造と性質、色素成分 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | 13 | 食品の二次機能② | 呈味成分、香り・におい成分の分類、作用、テクチャー | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | 14 | 食品の三次機能 | 三次機能を持つ主な食品成分とその作用 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | 15 | 食事設計 | 官能評価（官能検査）の種類と検査手法 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 人間と食品 | 食品学とは、食物の歴史の変遷、食物連鎖、食料と環境問題 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 食品の一次機能たんぱく質① | 食品の機能分類、たんぱく質とは、アミノ酸の分類と構造 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | たんぱく質② | たんぱく質の分類、性質、たんぱく質の変性 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 炭水化物① | 炭水化物の定義と分類、食品成分としての炭水化物の役割 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 炭水化物② | 単糖、オリゴ糖 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 炭水化物③ | 多糖、植物繊維 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 脂質① | 脂質の定義、分類、脂肪酸 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 脂質② | 油脂の性質、酸化、リン脂質 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | ビタミン① | ビタミンの定義、分類、脂溶性ビタミン | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | ビタミン② | 水溶性ビタミンの機能 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 無機質 | 無機質の種類、性質、機能 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 食品の二次機能① | 水分、水の構造と性質、色素成分 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 食品の二次機能② | 呈味成分、香り・におい成分の分類、作用、テクチャー | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 食品の三次機能 | 三次機能を持つ主な食品成分とその作用 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 食事設計 | 官能評価（官能検査）の種類と検査手法 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実務経験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 食品学実験 I | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>食品学 I 食品成分とその機能を正しく理解するために</td> <td>佐藤薫、中島肇 編</td> <td>化学同人</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 食品学 I 食品成分とその機能を正しく理解するために | 佐藤薫、中島肇 編 | 化学同人 | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 食品学 I 食品成分とその機能を正しく理解するために | 佐藤薫、中島肇 編 | 化学同人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>管理栄養士国家試験過去問解説集 5年分徹底解説</td> <td>管理栄養士国試対策研究会</td> <td>中央法規出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 管理栄養士国家試験過去問解説集 5年分徹底解説 | 管理栄養士国試対策研究会 | 中央法規出版 | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 管理栄養士国家試験過去問解説集 5年分徹底解説 | 管理栄養士国試対策研究会 | 中央法規出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業形態 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Teams コード | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Moodle コース名および登録キー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 連絡手段 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 各回の課題(評価割合 30%)およびレポート試験(評価割合 70%) で評価し、総点 60%以上で合格とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への | 食品成分の本質的な理解を目指します。みなさんの今後の勉学の基礎となる内容です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|--------------|---------------|
| メッセージ | |
| 担当者の 研究室等 | 8号館3階 321 研究室 |
| 備考 | |

| | | | |
|----------------|------------------------|----------|------------------------|
| 科目名 | 食品学各論 | 科目名 (英文) | Food Materials Science |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 水間 智哉 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1027a0 | | |

授業概要・目的
 一般に利用されている食品を植物性食品、動物性食品、油糧食品等に分類し、個々の食品についてその性状や含有成分（主要成分や微量成分）の理化学的性質を理解することを目的とする。具体的には、甘味料、調味料、香辛料などの食品添加物、調理加工品、バイオ食品の特性についても学修するとともに、食品の基本的性質を基にした利用法（加工と貯蔵への応用や微生物を利用した発酵食品を含む）についても学修する。「食品学総論」に引き続いて、健康で豊かな食生活を作り上げるための食品及び食品素材の特性に関する知識を高める。また、食品加工のための食品素材の物理的、化学的性質を理解し、「食品加工学実習」へと知識、理解をつなげる。
 本科目担当者は民間企業で15年以上の製造・品質管理・商品開発を経験しており、その経験を生かした実践的な知識を教授する。

到達目標
 ① 食品加工の基礎的知識を修得し、食品加工に関わる技術を総合的に理解する。
 ② 管理栄養士がもつべき基礎知識を修得し、食品表示制度や製品検査などの実践のための基礎を養う。
 ③ 食品中の代表的含有成分、その性質について、説明できる。
 ④ 食品中成分の劣化について、物理的因子、化学的因子を説明できる。

授業方法と留意点
 ICT ツールを利用した遠隔授業を行い、課題により理解を深める。

科目学習の効果 (資格)
 管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|--------------------------|--|
| | | | |
| 1 | 食生活と健康 | 食習慣と生活習慣病 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく |
| 2 | 食品成分表 | 食品表示法の概要、保健機能食品 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく |
| 3 | 穀類 | 米、小麦、とうもろこし | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく |
| 4 | いも類 | いも類の特徴、じゃがいも、さつまいも等 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく |
| 5 | 野菜類 | ビタミン類、クロロフィル、緑黄色野菜 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく |
| 6 | きのこ、藻類 | キノコ類の特徴、フレーバー、アルギン酸、ペクチン | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく |
| 7 | 植物性食品の栄養と加工 (1) | 植物性食品の特徴と分類、野菜類の分類 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく |
| 8 | 植物性食品の栄養と加工 (2) | 果実類の特徴 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく |
| 9 | 動物性食品の栄養と加工 (1) | 食肉の種類、組織、構造、成分、食肉の加工 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく |
| 10 | 動物性食品の栄養と加工 (2) | 卵、牛乳、魚介類、水産食品の鮮度 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく |
| 11 | 油脂、調味料 | 植物性油脂、動物性油脂、加工油脂の特徴 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく |
| 12 | 微生物利用食品 | アルコール飲料、みそ、しょうゆ、納豆 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく |
| 13 | 食品の保存と加工 | 食品保存における物理化学的因子 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく |
| 14 | 食品の保存と成分変化 | たんぱく質の変性、でんぷんの老化、脂質の酸化 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく |
| 15 | 食品加工 | 食品加工の特質 | 授業前に教科書で各講義内容を学習し、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく |

実務経験
 関連科目

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----------------------------|-----------|------|
| | | | |
| 1 | 食品学Ⅱ 食品の分類と特性・用途を正しく理解するために | 佐藤薫、中島肇 編 | 化学同人 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-------------------------|----------------|------|
| | | | |
| 1 | 管理栄養士国家試験過去問解説集 5年分徹底解説 | 管理栄養士国家試験対策研究会 | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

授業形態 対面授業 / Moodle
Teams コード y9mlzci
Moodle コース名 2020年度1年生 食品学各論
および登録キー syokuhin_kakuron
連絡手段 学内メール
メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
 メールアドレス：
評価方法 (基準) 各回の課題（評価割合40%）および定期試験（評価割合60%）で評価し、総点60%以上で合格とする。
学生への 1年生前期で履修した食品学総論の知識が必須です。しっかり復習した後、講義にのぞんでください。

| | |
|--------------|-------------|
| メッセージ | |
| 担当者の 研究室等 | 8号館3階 321教室 |
| 備考 | |

| | | | |
|----------------|------------------------|----------|--------------|
| 科目名 | 食品衛生学 | 科目名 (英文) | Food hygiene |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 平原 嘉親 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1028a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 食品に起因する健康被害を未然に防ぎ、食品の安全を守るために、食品の生産・加工・保存・流通・調理段階で発生する食品衛生上の健康危害を理解して予防するための基礎的知識を修得することを目的とする。具体的には、食品衛生に関する行政制度と関係法規を理解し、病原微生物や農薬、動物性医薬品、食品添加物等の化学物質による食品汚染、動植物に由来する食中毒などに対する衛生管理を学修する。さらに、食品の表示制度について理解し、食品の安全性と健全性を確保するための基本知識を学修する。 授業では、国の食品衛生行政の実務経験を活かして、食品安全に関する具体的事例に基づき、食品衛生を生活に直結した身近なものとして学修する。 |
| 到達目標 | ① 食品衛生に関する行政制度、食品衛生関連法規、リスク分析について説明することができる。 ② 食品の変質の分類と変質の防止方法について説明することができる。 ③ 食中毒原因物質の分類、病原因物質別の予防方法を説明できる。 ④ 食品中の汚染物質について例を挙げて説明することができる。 ⑤ 食品添加物の種類、使い方、安全性評価方法について説明できる。 ⑥ 食品の衛生管理について説明することができる。 ⑦ 食品表示の種類、役割、機能について説明することができ、医薬品との区別を理解できる。 |
| 授業方法と留意点 | 本講義は、対面授業方式により食品衛生の基礎知識を深める。具体的には、授業ごとの到達目標を決め、それに沿った解説や演習問題を行い、受講者各自で問題を解いた後、解答の解説を行う。講義後にはその日の内容の小テストや感想などをレポートとしてまとめて決められた日時までに提出する。その他、必要に応じて追加の演習問題などの課題を課す。小テスト、授業終了時の振り返りシートについても評定とする。また、その他課題がある場合はその提出も授業出席の根拠として含める。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 本講義で、受講者は食品衛生の知識や学ぶ方法を主体的に身につけることができる。 |

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|---------------------------|--|---|-----------------------------------|
| | 1 | 食品衛生と法規 ① | 食品衛生の概要、わが国の法規、食品安全基本法と食品衛生法、リスク分析などについて学ぶ。 | 事前：教科書の第1章を読んでおく 事後：第1回授業内容の理解 |
| 2 | 食品衛生と法規 ② | 食品衛生に関連する法規、日本の食品衛生行政の組織、国際的組織などについて学ぶ。 | 事前：前回の授業の理解と教科書の第1章を読んでおく 事後：第2回授業と第1回小テストの理解 | |
| 3 | 食品の変質 | 食品の変質、微生物による変質、食品成分の変化により生じる有害物質、食品の変質の判定法、食品の変質の防止法などについて学ぶ。 | 事前：前回の授業の理解と教科書の第2章を読んでおく 事後：第3回授業と第2回小テストの理解 | |
| 4 | 食品と微生物 | 微生物とは、微生物の食品への関与、微生物の制御、滅菌・消毒方法などについて学ぶ。 | 事前：前回の授業の理解と教科書の第3章を読んでおく 事後：第4回授業と第3回小テストの理解 | |
| 5 | 食中毒 ① | 食中毒の定義、食中毒の発生状況、微生物性食中毒 (細菌性、ウイルス性) などについて学ぶ。 | 事前：前回の授業の理解と教科書の第4章を読んでおく 事後：第5回授業と第4回小テストの理解 | |
| 6 | 食中毒 ② | 食品と寄生虫疾患、魚介類・肉類・野菜・水から感染する寄生虫、人獣共通感染症による食中毒などについて学ぶ。 | 事前：前回の授業の理解と教科書の第4章を読んでおく 事後：第6回授業と第5回小テストの理解 | |
| 7 | 食中毒 ③ | 化学物質及び自然毒による食中毒、食中毒の原因調査・統計的手法などについて学ぶ。 | 事前：前回の授業の理解と教科書の第4章を読んでおく 事後：第7回授業と第6回小テストの理解 | |
| 8 | 食品中の汚染物質等 | カビ毒 (マイコトキシン)、農薬、ダイオキシン、PCB、重金属、放射性物質、異物混入、フードディフェンスなどについて学ぶ。 | 事前：前回の授業の理解と教科書の第5章を読んでおく 事後：8回授業と第7回小テストの理解 | |
| 9 | 食品添加物 | 食品添加物の定義・分類・用途・規格基準などについて学ぶ。 | 事前：前回の授業の理解と教科書の第6章を読んでおく 事後：9回授業と第8回小テストの理解 | |
| 10 | 残留農薬、動物用医薬品、器具・容器包装等 | 農薬、動物用医薬品、器具・容器包装の種類と用途、ポジティブリスト制度、遺伝子組換え食品などについて学ぶ。 | 事前：前回の授業の理解と教科書の第6章を読んでおく 事後：第10回授業と第9回小テストの理解 | |
| 11 | 食品の安全性に関わる他の話題 | 食物アレルギー、BSE、発がん物質、内分泌攪乱化学物質、有機栽培食品、放射線照射食品などについて学ぶ。 | 事前：前回の授業の理解と教科書の第6章を読んでおく 事後：第11回授業と第10回小テストの理解 | |
| 12 | 食品衛生管理 | 食品衛生管理の重要性、HACCP、ISO、集団給食施設等における衛生管理などについて学ぶ。 | 事前：前回の授業の理解と教科書の第7章を読んでおく 事後：第12回授業と第11回小テストの理解 | |
| 13 | 食品表示制度① | 食品表示法、食品表示基準、特定保健食品、特別用途食品、栄養機能食品、機能性表示食品の分類と表示などについて学ぶ。 | 事前：前回の授業の理解と教科書の第8章を読んでおく 事後：第13回授業と第12回小テストの理解 | |
| 14 | 食品表示制度② | 栄養成分表示、虚偽・誇大広告、いわゆる健康食品、医薬品との区別などについて学ぶ。 | 事前：前回の授業の理解と教科書の第8章を読んでおく 事後：第14回授業と第13回小テストの理解 | |
| 15 | 食品の安全性評価、管理及びリスクコミュニケーション | リスク分析 (リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーション) の具体例、食品添加物のリスク評価法、残留農薬基準の設定方法、輸入食品の安全性管理などについて学ぶ。 | 事前：前回の授業の理解と教科書の第1、6章を読んでおく 事後：第15回授業と第14、15回小テストの理解 | |
| 実務経験 | | | | |

| | | | | |
|------------------------|--|------------|-----------|------|
| 関連科目 | 食品衛生学実験、食品の安全性 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 食品衛生学改訂第2版 | 田崎達明 | 羊土社 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 食品安全の事典 | 日本食品衛生学会編 | 朝倉書店 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | 対面授業/Moodle | | | |
| Teams コード | 2gbydui | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | 2020年度1年生食品衛生学 FHYG | | | |
| 連絡手段 | 学内メールを使用 | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 各講義の学習確認小テスト (30%)、振り返りシート (10%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | この授業では、事前・事後学習、小テストなどを通して、わからないところを解決していきましょう。授業では、国の衛生行政の具体的事例に基づき食品衛生を生活と直結した身近なものとして学びます。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 枚方キャンパス農学部8号館3階 食品衛生学研究室 | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------------|----------|-----------------|
| 科目名 | 調理学 | 科目名 (英文) | Cookery Science |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 安藤 真美 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1030a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 調理とは、献立作成から始まり、食品選択・調理操作・供卓までの一連のプロセスを含んでいることを理解し、健全な食生活を送るための調理学の役割と、調理をより効果的に活用するために必要な理論と実際を学修することを目的とする。具体的には、エネルギー源、調理機器、調理操作について大量調理への応用展開も視野に入れて理解し、さらに各種食品の調理性を原理から理解して修得する。また、様々な対象や場面に応じて栄養・嗜好性に加えて経済性や効率性さらには食環境など食を取り巻く生活全体を捉えた食事設計の基礎を学修する。 |
| 到達目標 | ① 調理の意義を説明できる。 ② 各種の調理・調味操作の原理・要点について説明できる。 ③ 各食品の調理性について説明できる。 ④ 食事摂取基準を活用し、様々な対象や場面に応じた1食単位および1日単位の食事設計(献立作成・調理操作手順等)の方法を説明できる。 |
| 授業方法と留意点 | 下記の授業計画に従い、主にパワーポイントを用いた講義をweb配信する。 必要に応じて資料はweb配信する。 各講義前に、前回の講義の確認小テストを行う(15回目は講義の最後に実施)。 |
| 科目学習の効果(資格) | 管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムにおける「D-1. 食べ物と健康の関連の理解」および「D-2. 食事と調理の科学の理解」に該当する。さらに管理栄養士国家試験「食べ物と健康」の分野に該当し、資格取得に活かせる。 |

| | | | | |
|------|----------|-----------------------------|--|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 「調理学」のガイダンス | 調理学で学ぶ内容の概説、調理の意義について | 事前にシラバスを読んでおく。事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する |
| | 2 | おいしさの科学 | 食物の嗜好性(おいしさ)について | 事前にテキストの該当部分を読んでおく。事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する |
| | 3 | 調理器具と非加熱調理操作 | 非加熱調理操作(計量・洗淨・浸漬・切断・成型・磨砕・粉砕・混合・攪拌・圧搾・濾過・冷却・冷凍・解凍など)における調理器具と調理操作について | 事前にテキストの該当部分を読んでおく。事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する |
| | 4 | 調理器具と加熱調理操作 | 加熱調理操作(エネルギー源・伝熱方法・湿式加熱・乾式加熱・誘電加熱・誘導加熱)における調理器具と調理操作および新調理システム(真空調理・クックチル・クックフリーズなど)について | 事前にテキストの該当部分を読んでおく。事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する |
| | 5 | 食品成分表 | 食品成分表の理解と活用について | 事前にテキストの該当部分を読んでおく。事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する |
| | 6 | 植物性食品の調理性(米・小麦・芋類・豆類) | 米・小麦・芋類・豆類の調理特性について | 事前にテキストの該当部分を読んでおく。事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する |
| | 7 | 植物性食品の調理性(野菜類・果物類・きのこ類・海藻類) | 野菜類・果物類・きのこ類・海藻類の調理特性について | 事前にテキストの該当部分を読んでおく。事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する |
| | 8 | 動物性食品の調理性(肉類・魚介類) | 肉類・魚介類の調理特性について | 事前にテキストの該当部分を読んでおく。事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する |
| | 9 | 動物性食品の調理性(卵類・乳類) | 卵類・乳類の調理特性について | 事前にテキストの該当部分を読んでおく。事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する |
| | 10 | 成分抽出素材・その他 | デンプン・ゲル化材料などの調理特性について | 事前にテキストの該当部分を読んでおく。事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する |
| | 11 | 調味料と調味操作 | 調味パーセントの理解と各種調味料の調理特性について | 事前にテキストの該当部分を読んでおく。事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する |
| | 12 | 食事設計(食事摂取基準と食品構成) | 食事摂取基準の理解と活用および食品構成の作成について | 事前にテキストの該当部分を読んでおく。事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する |
| | 13 | 1食単位の食事設計 | 食事摂取基準を活用した1食単位の食事設計(献立作成・調理操作手順など)について | 事前にテキストの該当部分を読んでおく。事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する |
| | 14 | 1日単位の食事設計 | 食事摂取基準を活用した1日単位の食事設計(献立作成・調理操作手順など)について | 事前にテキストの該当部分を読んでおく。事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する |
| 15 | エコ・クッキング | エコ・クッキング(環境に配慮した調理)について | 事前にテキストの該当部分を読んでおく。事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する。また、講義全体を通して目標に対する到達度を評価する | |

| | |
|------|-------------------|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 食品学総論、食品学各論、食品加工学 |

| | | | | |
|-----|----|---------------------------|--------------|----------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 四訂 健康・調理の科学 | 和田淑子・大越ひろ 編著 | 建帛社 |
| | 2 | 栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎 | 坂本裕子・森 美奈子 編 | 化学同人 |
| | 3 | 七訂 日本食品標準成分表 2020 | 香川 明夫 監修 | 女子栄養大出版部 |

| | | | | |
|-----|----|--------------------|----------------------------|----------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 調理と理論 | 山崎 清子・渋川 祥子・島田 キミエ・下村 道子 著 | 同文書院 |
| | 2 | 映像で学ぶ 調理と基礎のサイエンス | 松崎 政三・寺本 あい・藤井 恵子 著 | 学際企画 |
| | 3 | 調理のためのベーシックデータ 第5版 | 松本 伸子 監修 | 女子栄養大出版部 |

| | |
|------------------------|---|
| 授業形態 | |
| Teams コード | |
| Moodle コース名 および登録キー | |
| 連絡手段 | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： |
| 評価方法 (基準) | 毎回実施する小テスト(評価割合40%)および課題(評価割合60%)により、総合的に評価を行う。60%以上で合格とする。 |
| 学生への メッセージ | 講義で学んだことを毎日の食生活の中で常に反映させるよう意識して下さい。 |
| 担当者の 研究室等 | 8号館3階319研究室 |
| 備考 | |

| | | | |
|----------------|------------------------|----------|-------------------------------|
| 科目名 | 食品学実験 I | 科目名 (英文) | Experiments in Food Science I |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 水間 智哉, 小林 直木, 野原 綾 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1031a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>実際の食品を用いて、食品成分表で用いられている手法に基づいて食品の基本的成分である水分、たんぱく質、脂質、炭水化物の分析を行い、重量分析、容量分析、比色分析など食品成分の分析に必要な分析原理や手法を学修し、食品の持つ性質、機能および役割を理解する。実験を通じて、共同実験者とのコミュニケーションをとり自ら実験操作を行う習慣を身につける。また、実験器具や薬品の取り扱い方など食品学実験に必要な基礎知識を修得する。さらに、実験値と食品成分表に記載されている文献値を比較して実験値の意味を理解し、管理栄養士として必携となる食品成分表に記載されている数値の意味の理解を深める。</p> <p>本科目担当者は民間企業で15年以上の製造・品質管理・商品開発を経験しており、その経験を生かした実践的な実験手法を教授する。</p> |
| 到達目標 | <p>① 実験器具や試薬の取り扱いを理解し、安全に実験を行うことができる。</p> <p>② 食品中の水分やたんぱく質を測定することができ、重量分析や改良ケルダール法の原理を説明することができる。</p> <p>③ 食品中の脂質や炭水化物を測定することができ、ソックスレー抽出法や比色分析の原理を説明することができる。</p> <p>④ 食品中のヨウ素価を測定することができ、脂質の変敗について説明することができる。</p> <p>⑤ 実験値から食品成分表に記載されている数値の意味を説明することができる。</p> <p>⑥ コミュニケーションを取り自ら実験操作を進めることができる。</p> |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・実験前に測定する目的、意義や操作方法、測定原理をパワーポイントやプリントを用いて説明した後、班単位で実験を行う。 ・実験終了後、各個人で実習内容のまとめを行い、実習レポートを作成し、指示された期限内に提出する。 ・一部の授業テーマについては課題作成による学習とする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | <ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる。 ・食品企業・公的機関の品質管理・分析業務に直結し、商品開発にも活かせる。 |

| | | | | |
|------|----|----------------------|---------------------------------|--|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | ガイダンス | 食品学実習の目的、内容、実験上の基礎知識と諸注意 | 事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する |
| | 2 | 実験の基礎 | 実験器具、試薬の取り扱い、デシケータ準備 | 事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する |
| | 3 | 水分、灰分測定① | 食品中の水分の定量 (常圧加熱乾燥法) 灰分 (重量分析) | 事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する |
| | 4 | 水分、灰分測定② | 灰分の定量 (乾式灰化法) (550℃法) (重量分析) | 事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する |
| | 5 | 脂質の分析① | 脂質の定量 (ソックスレー抽出法: 抽出) (重量分析) | 事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する |
| | 6 | 脂質の分析② | 脂質の定量 (ソックスレー抽出法: 秤量、恒量、粗脂肪計算) | 事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する |
| | 7 | 脂質の分析③ | ヨウ素価測定 | 事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する |
| | 8 | たんぱく質の分析① (改良ケルダール法) | シュウ酸標準液および水酸化ナトリウム溶液の調製 | 事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する |
| | 9 | たんぱく質の分析② | ケルダール分解装置の設置 試料分解準備 | 事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する |
| | 10 | たんぱく質の分析③ | ケルダール分解装置試料分解 | 事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する |
| | 11 | たんぱく質の分析④ | 水酸化ナトリウム溶液の力価測定 | 事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する |
| | 12 | たんぱく質の分析⑤ | 分解溶液の蒸留および滴定、窒素量計算 | 事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する |
| | 13 | 炭水化物の分析① | アンスロン・硫酸法 (比色分析) | 事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する |
| | 14 | 炭水化物の分析② | アンスロン・硫酸法 (検量線の作成、全糖量の算出)、差し引き法 | 事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する |
| | 15 | まとめ | 食品成分表との比較、ディスカッション、総評 | 事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する |

| | |
|------|------------------|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 食品学総論・各論など食品関連科目 |

| | | | | |
|-----|----|-------------|--------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 実験プライマリーガイド | 倉沢新一他 | 化学同人 |
| | 2 | 食品学実験 | 中谷延二、菊崎泰枝 編著 | 光生館 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|----------------------------------|--------|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 日本食品標準成分表 2015年版 (七訂) 分析マニュアル・解説 | 安井明美他編 | 建帛社 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|--------------------|---|
| 授業形態 | |
| Teams コード | |
| Moodle コース名および登録キー | |
| 連絡手段 | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス: |

| | |
|---------------|--|
| 評価方法 (基準) | 毎回の実習後1週間後に、実習内容をまとめたレポートを提出する。実習内容の目的、方法、結果、考察、参考文献を記載すること。このレポート(60%)、実習中の内容(ルーブリック評価・20%)及び提出課題(20%)で評価し、60%以上で合格とする。 |
| 学生への メッセージ | 食品企業の食品管理・開発現場では日常業務ともいえる重要な分析手法を学びます。 |
| 担当者の 研究室等 | 8号館3階 321教室 |
| 備考 | 1年前期に同時進行する食品学総論と関連付けながら進めていきます。 食品成分表(女子栄養大学出版)を持ってきてください。 |

| | | | |
|----------------|------------------------|----------|--------------------------------|
| 科目名 | 食品学実験Ⅱ | 科目名 (英文) | Experiments in Food Science II |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 水間 智哉, 野原 綾 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1032a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 「食品学実験Ⅰ」における学修を踏まえて、実際の食品に微量含まれる無機質とビタミンの定量分析を行う。また、比色法によるビタミンC及び鉄の分析、原子吸光法によるマグネシウム、高速液体クロマトグラフィー法によるビタミンCの測定法をそれぞれ修得し、それらの測定原理を理解することを目的とする。具体的には、実験を通じて、食品の栄養特性に関する知識を高める。また、食品機能性の評価指標として抗酸化活性の測定を行い、機能性評価と消化酵素阻害活性における活性測定の意義を理解する。 本科目担当者は民間企業で15年以上の製造・品質管理・商品開発を経験しており、その経験を生かした実践的な実験手法を教授する。 |
| 到達目標 | ① 食品学の基礎知識を修得し、食品各成分の分析手法を実習により理解する。 ② 管理栄養士がもつべき分析にかかる基礎知識を修得し、食品成分含量や機能性評価のための基礎知識を養う。 ③ ビタミンの分析手法である比色法、および液体クロマトグラフィー法の原理を説明できる。 |
| 授業方法と留意点 | ・第1回目(実験ガイダンス)は、ICTツールを利用した遠隔授業とする。 ・実習前に、Power Point およびプリントで実習内容を説明する。 ・説明後、実習を各班4-5人で実施し、実習結果をノートに記述する。 ・1回あたり1.5コマ(135分授業)[3時間]×15回=計45時間の授業とする。 |
| 科目学習の効果(資格) | 管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる。 企業ニーズが高い食品の高度分析法を修得することで、あらゆる食品企業勤務に対応できる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|-------------------------|---|
| | | | |
| 1 | 実験ガイダンス | 実験ノートの記述法の確認、薬品の安全な使用方法 | ピペット、天秤の使用法について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく |
| 2 | 分析機器 | 分光光度計の使い方、各種分析機器の原理 | ランバートベアの法則について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく |
| 3 | 鉄の分析 | キレート法を用いた鉄の分析 | キレートについて事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく |
| 4 | 鉄の分析 | 大豆中の鉄の分析 | 検量線について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく |
| 5 | マンガンの定量 | 原子吸光法 | 原子吸光について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく |
| 6 | ポリフェノール含量の測定 | お茶のポリフェノール含量の測定 | ポリフェノールについて事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく |
| 7 | ビタミンC定量のための試薬調整 | ビタミンCの定量の原理と薬品 | ビタミンCについて事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく |
| 8 | ビタミンCの定量 | 比色法を用いたビタミンCの定量 | 酸化と還元について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく |
| 9 | ビタミンCの劣化 | ビタミンCの酵素的劣化 | ビタミンの劣化について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく |
| 10 | ビタミンCのHPLCによる定量 | 液体クロマトグラフィー | カラムについて事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく |
| 11 | 抗酸化活性 | DPPHラジカル消去能 | 抗酸化活性について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく |
| 12 | 酵素的褐変 | 果実の色の変化 | 酵素的褐変について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく |
| 13 | 酵素反応 | α-グルコシダーゼ酵素反応 | 酵素反応速度について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく |
| 14 | カテキン | カテキンの酵素反応阻害 | 阻害について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく |
| 15 | 実験データの整理 | エクセルを用いたデータ整理 | 表計算について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく |

実務経験

関連科目 食品学総論・各論など食品関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|--------|-----|------|
| | 1 | 実験プリント | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|-------------|-------------------------|--------------|-----------|
| | 1 | 食品学実験書 | 藤田修三、山田和彦/編著 | 医歯薬出版株式会社 |
| 2 | 食品加工、食品機能実験 | 大田英明、松井利郎、船越淳子、武曾歩、山本久美 | 東京学芸大学 | |
| 3 | | | | |

授業形態 Teams「教材・課題配信型」/対面授業

Teams コード tj0uzp1

Moodle コース名 および登録キー 2020年度1年生 食品学実験Ⅱ syokuhin_jikken

連絡手段 学内メール

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス:

評価方法(基準) 毎回の実習後に実習結果を、レポートにまとめる。また、実習中に与えた課題についても答える。レポートの提出は、1週間後の実習前までとする。レポート(80%)、実習中の内容(ルーブリック評価・20%)で評価し、60%以上で合格とする。

学生への 健康志向など消費者ニーズの高まりは、食品分析の高度化を推し進めることになりました。

| | |
|----------|---|
| メッセージ | 原子吸光分析や液体クロマトグラフィーなど先端機器を使用する高度な分析手法も取り扱います。 |
| 担当者の研究室等 | 8号館3階 321研究室 |
| 備考 | 食品学実験Ⅰで修得した実験内容を再確認しておいてください。 新しい実験項目ですが、実験に取り組む姿勢や基礎的技法は同じです。 |

| | | | |
|----------------|------------------------|----------|-------------------------------|
| 科目名 | 調理学実習 I | 科目名 (英文) | Practice in Cookery Science I |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 安藤 真美, 織田 奈央子, 古野 幸子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1035a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 食品の調理性に関する実践的知識と基本的調理操作に関する基礎的能力を育成すること、および食の様々な場面において必要な基本的マナーと、安全・衛生面に関する正しい理解と認識を深めることを目的とする。具体的には、代表的な調理器具の扱い方と調理操作（ゆでる、煮る、蒸す、炒める、揚げる等）の基本を修得し、食品の特性や調理に伴う栄養の損失を考えた食品の組み合わせ方について学修する。また、調味%を理解することにより、調味の標準化に関する基礎的事項を修得する。さらに、栄養価計算をとおして、食品の栄養面の特徴や1食当たりの使用量および食品成分表の理解と活用能力を育成する。 |
| 到達目標 | ① 代表的な調理器具を使用し代表的な調理操作ができる。 ② 食品の調理性および味付けの基本をふまえ、調味割合として調味の標準化ができる。 ③ 食品の調理性や調理に伴う栄養の損失を考えた食品の組み合わせ方について説明できる。 ④ 食品の栄養面の特徴や1食当たりの使用量を理解し、食品成分表を使用して栄養価計算ができる。 |
| 授業方法と留意点 | ・授業計画に従い、Webによる説明と実習を行う。 ・必要に応じて教員によるデモンストレーションおよびDVDなどによる画像を使用し、理解を深める。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムにおける「D-2. 食事と調理の科学の理解」に該当する。さらに管理栄養士国家試験「食べ物と健康」の分野に該当し、資格取得に活かせる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------|--|--|
| | | | |
| 2 | レポートの書き方 | レポートの書き方の説明（調味料の概量・調味パーセント・作業スケジュール・栄養価計算など） | 事前にテキストの該当部分を読んでおく。事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する |
| 3 | 計量器具の扱い方と食品重量 | 計量スプーンの扱い方と食品重量に対する重量感覚に関する実習 | 事前にテキストの該当部分を読んでおく。事後、テキストおよび配布プリントを使って実技も含めて復習する |
| 4 | 包丁の扱い方 | 包丁の種類や扱い方の基本に関する実習 | 事前にテキストの該当部分を読んでおく。事後、テキストおよび配布プリントを使って実技も含めて復習する |
| 5 | 日本料理（ご飯の炊き方、煮干しのだしとり方、青菜のゆで方） | 実習内容：ご飯、味噌汁、だし巻き卵、青菜のおひたし | 事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える。事後、実習内容に関するレポートをまとめる |
| 6 | 西洋料理（ひき肉料理の基本、サラダの基本） | 実習内容：Hamburg Steak、Salade de Legumes | 事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える。事後、実習内容に関するレポートをまとめる |
| 7 | 中華料理（湯菜・炒菜・拌菜の基礎） | 実習内容：黄花湯 青椒炒牛肉絲 香芹拌菜 | 事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える。事後、実習内容に関するレポートをまとめる |
| 8 | 日本料理（すし飯の作り方、乾物の扱い方、一番出しのとり方） | 実習内容：ちらしずし、菊花豆腐の吸い物 | 事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える。事後、実習内容に関するレポートをまとめる |
| 9 | 西洋料理（ホワイトソースの作り方） | 実習内容：Macaroni Gratin、Fruits Salad、lemonade | 事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える。事後、実習内容に関するレポートをまとめる |
| 10 | 中華料理（点心の基礎） | 実習内容：鍋貼餃子、酸辣菜、川粉条 | 事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える。事後、実習内容に関するレポートをまとめる |
| 11 | 日本料理（希釈卵液の熱凝固、吉野鶏について） | 実習内容：ご飯、煮魚、茶碗蒸し、吉野鶏とみつばの吸い物 | 事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える。事後、実習内容に関するレポートをまとめる |
| 12 | 和菓子（寒天の扱い方、白玉粉の扱い方、煎茶の入れ方） | 実習内容：白玉あんみつ、そばボーロ、煎茶 | 事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える。事後、実習内容に関するレポートをまとめる |
| 13 | 洋菓子（卵の熱凝固、紅茶の入れ方） | 実習内容：Pudding、Cookie、Tea | 事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える。事後、実習内容に関するレポートをまとめる |
| 14 | 中華菓子（卵の起泡性、中国茶の入れ方） | 実習内容：鶏蛋?、石花凍、中国茶 | 事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える。事後、実習内容に関するレポートをまとめる |
| 15 | 実技試験（切り方） | 基本的な切り方の確認 | 事前に基本的な切り方の再確認しておく（実技を含む）。事後、実習全体を通して目標に対する到達度を評価する |

| | |
|------|-----|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 調理学 |

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|--------------------|-------------------|---------------------|------|
| | 1 | 映像で学ぶ 調理と基礎のサイエンス | 松崎 政三、寺本 あい、藤井 恵子 著 | 学際企画 |
| 2 | 七訂 日本食品標準成分表 2020 | 香川 明夫 監修 | 女子栄養大出版部 | |
| 3 | 調理のためのベーシックデータ 第5版 | 松本 伸子 監修 | 女子栄養大出版部 | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|--------------------------|--------------|------|
| | 1 | 栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基 | 坂本裕子、森 美奈子 編 | 化学同人 |

| | | | | |
|------------------------|--|-------------------------|----------------------------|------|
| | | 礎 | | |
| | 2 | 調理と理論 | 山崎 清子、渋川 祥子、島田 キミエ、下村 道子 著 | 同文書院 |
| | 3 | 食べ物と健康, 給食の運営 調理学実習 第2版 | 大谷貴美子、饗庭照美、松井元子、村元由佳里 編 | 講談社 |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | レポートなどの提出物(評価割合40%)、授業に取り組む姿勢(評価割合30%)、実技試験(評価割合30%)で評価し、60%以上で合格とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | 事前実施内容を配布するため、必ずよく読んで必要な準備をして実習に臨んでください。 日常的な調理経験が多いほど実習で学んだことが効果的に身に付くため、普段の生活においてできるだけ調理する機会をもつようによろしくご協力をお願いします。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 8号館3階319研究室 | | | |
| 備考 | 実習に臨む服装等が不適切な場合は実習参加を認めません。 レポートはコメントをつけて返却します。 食材準備の都合上、順番や内容が変更になることがあります。 | | | |

| | | | |
|---------------|------------------------|---------|--------------------------------|
| 科目名 | 調理学実習Ⅱ | 科目名(英文) | Practice in Cookery Science II |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 安藤 真美, 新名 洋美 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1036a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 「調理学実習Ⅰ」で修得した基礎的知識と技術をもとに、和・洋・中・その他の各様式の食事を題材とした実践的調理実習を通して、食品の調理性、様々な対象や場面に応じて嗜好性、生体利用性等に配慮した食事設計について応用力・発展力を身につけることを目的とする。具体的には、立案した食事計画の実際を経験することにより、食事計画の「計画(Plan)」「実践(Do)」「評価(Check)」「改善(Action)」を行う。さらに、日本の食文化の継承を視野に入れた正月料理などの行事食やもてなしの食事、世界各国の食文化をふまえた各種料理を調理することにより、歴史的背景や伝統を考慮したうえで調理する力を養う。 |
| 到達目標 | ① 日常食の献立作成の基本、1食あたりの食品の使用量を考慮した1食単位および1日単位の食事設計と調理ができる。 ② 食品成分表を食事摂取のアセスメントと食事計画に活用できる。 ③ 日本の伝統的食品の特性に応じた正月料理や日本料理等食文化をふまえた調理ができる。 ④ 世界各国の食文化・歴史的背景・伝統を考慮した調理ができる。 |
| 授業方法と留意点 | ・下記の授業計画に従い、実習を行う。 ・基本的な実習の流れは「調理学実習Ⅰ」と同様であるが、日本および世界各国の食文化をふまえた内容を主とする。 ・必要に応じて教員によるデモンストレーションおよびDVDなどによる画像を使用し、理解を深める。 ・さらに、グループワークとして様々な対象や場面に応じて嗜好性、生体利用性等に配慮した食事設計について検討する。 ・立案した食事計画を調理・試食することにより実践的な技術を学修する。 ・1回あたり1.5コマ(135分授業)[3時間]×15回=計45時間の授業と |
| 科目学習の効果(資格) | 管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムにおける「D-2. 食事と調理の科学的理解」に該当する。さらに管理栄養士国家試験「食べ物と健康」の分野に該当し、資格取得に活かせる。 |

| | | | | |
|------|------|-----------------------|--|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 「調理学実習Ⅱ」のガイダンス | 「調理学実習Ⅱ」で学ぶ内容の概説 | 事前にシラパスを読んでおく。事後、テキストおよび配布したプリントを使って復習する |
| | 2 | 献立作成(日常食) | グループワークによる日常食の献立作成 | 事前に「調理学」で学んだ献立作成について復習する。事後は、グループ毎に献立を完成させる |
| | 3 | 日本料理(もち米の調理、揚げ調理について) | 実習内容: 赤飯、天ぷら、赤だし | 事前にテキストおよびプリントを元に、作業スケジュールを考える。事後、実習内容に関するレポートをまとめる |
| | 4 | 西洋料理(鱈の三枚おろし) | 実習内容: 鱈のムニエル、フルーツサラダ、カボチャスープ | 事前にテキストおよびプリントを元に、作業スケジュールを考える。事後、実習内容に関するレポートをまとめる |
| | 5 | 中華料理(小麦粉の生物的膨化) | 実習内容: 包子(2種)、石花凍 | 事前にテキストおよびプリントを元に、作業スケジュールを考える。事後、実習内容に関するレポートをまとめる |
| | 6 | 献立実習(日常食) | 第2回で立案した日常食の献立実習 | 事前に実習準備をしておく。事後は、修正・改善すべき点をまとめレポートをまとめる |
| | 7 | 献立報告会(日常食) | 第2回および第6回をふまえたグループ毎による日常食の献立報告会 | 事前に報告準備をしておく。事後は、他班の発表をうけて修正・追加すべき点をまとめる |
| | 8 | 献立作成(行事食) | グループワークによる行事食の献立作成 | 事前に行事食について調べておく。事後は、グループ毎に献立を完成させる |
| | 9 | 諸外国料理 | 実習内容: パエリア、生春巻き、杏仁豆腐 | 事前にテキストおよびプリントを元に、作業スケジュールを考える。事後、実習内容に関するレポートをまとめる |
| | 10 | 行事食(正月料理) | 実習内容: 雑煮、三祝肴 | 事前にテキストおよびプリントを元に、作業スケジュールを考える。事後、実習内容に関するレポートをまとめる |
| | 11 | 行事食(クリスマス料理) | 実習内容: Roast Chicken, Canape, Grape Punch | 事前にテキストおよびプリントを元に、作業スケジュールを考える。事後、実習内容に関するレポートをまとめる |
| | 12 | 行事食(節分料理) | 実習内容: すし、梅そうめんの吸い物 | 事前にテキストおよびプリントを元に、作業スケジュールを考える。事後、実習内容に関するレポートをまとめる |
| | 13 | 献立実習(行事食) | 第8回で立案した行事食の献立実習 | 事前に実習準備をしておく。事後は、修正・改善すべき点をまとめレポートをまとめる |
| | 14 | 献立報告会(行事食) | 第8回および第13回をふまえたグループ毎による行事食の献立報告会 | 事前に報告準備をしておく。事後は、他班の発表をうけて修正・追加すべき点をまとめる |
| 15 | 実技試験 | 試験内容を事前に提示し実施 | 事前に提示した実技試験の内容を確認しておく(実技を含む)。事後、実習全体を通して目標に対する到達度を評価する | |

| | |
|------|------------|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 調理学、調理学実習Ⅰ |

| | | | | |
|-----|----|---------------------------|---------------------|----------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 映像で学ぶ 調理と基礎のサイエンス | 松崎 政三、寺本 あい、藤井 恵子 著 | 学際企画 |
| | 2 | 栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎 | 坂本裕子、森 美奈子 | 化学同人 |
| | 3 | 七訂 日本食品標準成分表 2020 | 香川 明夫 監修 | 女子栄養大出版部 |

| | | | | |
|-----|----|--------------------|------------------|----------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 調理のためのベーシックデータ 第5版 | 松本 伸子 監修 | 女子栄養大出版部 |
| | 2 | 調理と理論 | 山崎 清子、渋川 祥子、島田 キ | 同文書院 |

| | | | | |
|------------------------|---|-------------------------|---|-----|
| | 3 | 食べ物と健康, 給食の運営 調理学実習 第2版 | ミエ、下村 道子 著 大谷貴美子、饗庭照美、松井元子、 村元由佳里 編 | 講談社 |
| 授業形態 | 対面授業 | | | |
| Teams コード | 9gh4w5g | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | 学内メール | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | レポート(評価割合50%)、授業に取り組む姿勢(ルーブリック評価・評価割合30%)、実技試験(評価割合20%)で評価し、60%以上で合格とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | 事前に実施内容を配布するため、必ずよく読んで必要な準備をして実習に臨んでください。 また、日常的な食経験の積み重ねが重要であるため、学んだ内容を意識して生活して下さい。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 8号館3階319研究室 | | | |
| 備考 | 実習に臨む服装等が不適切な場合は実習参加を認めません。 レポートはコメントをつけて返却します。 食材準備の都合上、順番や内容が変更になることがあります。 | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|-----------------|
| 科目名 | 基礎栄養学 | 科目名 (英文) | Basic Nutrition |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 山田 徳広, 岸本 良美 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1038a0 | | |

| 授業概要・目的 | <p>栄養学の基礎を学ぶ。始めに栄養とは何か、栄養と身体活動とのバランスの重要性を理解し、メタボリックシンドロームと栄養との関係、個々人の身体状況に応じた栄養（テラーメイドの栄養管理）の大切さを学修する。次に、各栄養素の特徴と代謝の概要を含め、摂食行動、消化器系の特徴、各栄養素の消化・吸収と体内動態について学修し、たんぱく質、糖質、脂質、ビタミン、無機質（ミネラル）、水・電解質、食物繊維といった各栄養素の生体での役割について学びを深めていく。さらに、エネルギー代謝並びに遺伝と栄養についても学ぶ。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---|--|-----------------------|----|-------|---------|-----------|---|-------------------------|------------------------|-----------------------|---|------------------|-----------|-----------------------|---|--------|----------------|-----------------------|---|--------|----------------|-----------------------|---|----------|-------------------------|-----------------------|---|-------|-----------|-----------------------|---|-------------------|---------------------|-----------------------|---|-------|--------------|-----------------------|---|----------|-----------------------------|-----------------------|----|----------------------|--|-----------------------|----|----------|-------------------------|-----------------------|----|----------|-----------------|-----------------------|----|----------|----------------|-----------------------|----|----------|-------------------|-----------------------|----|----------|--------------|-----------------------|
| 到達目標 | <p>① 食事の意義、栄養と健康・疾病との関係についての基礎的事項が説明できる。 ② 摂食行動についての基礎的事項が説明できる。 ③ 五大栄養素の栄養についての基礎的事項が説明できる。 ④ 食物繊維と難消化性オリゴ糖についての基礎的事項が説明できる。 ⑤ 水・電解質の役割についての基礎的事項が説明できる。 ⑥ エネルギー代謝についての基礎的事項が説明できる。 ⑦ 遺伝子発現と栄養についての説明できる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>下記の授業計画に従い、主にパワーポイントおよび板書にて講義を行う。また、各講義前に、前回の講義の小テストを実施する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果（資格） | <p>管理栄養士国家試験「基礎栄養学」に該当し、資格取得に活かせる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>栄養の概念</td> <td>食事の意義、栄養と健康・疾病との関係について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>摂食行動</td> <td>摂食行動について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>消化と吸収①</td> <td>各消化器の構造と特徴について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>消化と吸収②</td> <td>各栄養素の消化と吸収について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>たんぱく質の栄養</td> <td>たんぱく質とアミノ酸の働きと栄養評価法について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>糖質の栄養</td> <td>糖質の働きについて</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>食物繊維と難消化性オリゴ糖について</td> <td>食物繊維と消化性オリゴ糖の働きについて</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>脂質の栄養</td> <td>各脂質成分の働きについて</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ビタミンの栄養①</td> <td>脂溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ビタミンの栄養② ミネラルの栄養①</td> <td>水溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について 多量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ミネラルの栄養②</td> <td>微量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>水・電解質の役割</td> <td>水・電解質の役割と脱水について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>エネルギー代謝①</td> <td>エネルギー代謝の概念について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>エネルギー代謝②</td> <td>エネルギー消費量の測定方法について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>遺伝子発現と栄養</td> <td>遺伝子発現と栄養について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | 栄養の概念 | 食事の意義、栄養と健康・疾病との関係について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 2 | 摂食行動 | 摂食行動について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 3 | 消化と吸収① | 各消化器の構造と特徴について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 4 | 消化と吸収② | 各栄養素の消化と吸収について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 5 | たんぱく質の栄養 | たんぱく質とアミノ酸の働きと栄養評価法について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 6 | 糖質の栄養 | 糖質の働きについて | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 7 | 食物繊維と難消化性オリゴ糖について | 食物繊維と消化性オリゴ糖の働きについて | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 8 | 脂質の栄養 | 各脂質成分の働きについて | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 9 | ビタミンの栄養① | 脂溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 10 | ビタミンの栄養② ミネラルの栄養① | 水溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について 多量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 11 | ミネラルの栄養② | 微量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 12 | 水・電解質の役割 | 水・電解質の役割と脱水について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 13 | エネルギー代謝① | エネルギー代謝の概念について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 14 | エネルギー代謝② | エネルギー消費量の測定方法について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | 15 | 遺伝子発現と栄養 | 遺伝子発現と栄養について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 栄養の概念 | 食事の意義、栄養と健康・疾病との関係について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 摂食行動 | 摂食行動について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 消化と吸収① | 各消化器の構造と特徴について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 消化と吸収② | 各栄養素の消化と吸収について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | たんぱく質の栄養 | たんぱく質とアミノ酸の働きと栄養評価法について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 糖質の栄養 | 糖質の働きについて | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 食物繊維と難消化性オリゴ糖について | 食物繊維と消化性オリゴ糖の働きについて | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 脂質の栄養 | 各脂質成分の働きについて | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | ビタミンの栄養① | 脂溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | ビタミンの栄養② ミネラルの栄養① | 水溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について 多量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | ミネラルの栄養② | 微量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 水・電解質の役割 | 水・電解質の役割と脱水について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | エネルギー代謝① | エネルギー代謝の概念について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | エネルギー代謝② | エネルギー消費量の測定方法について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 遺伝子発現と栄養 | 遺伝子発現と栄養について | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実務経験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 全ての専門コア科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>健康・栄養科学シリーズ 基礎栄養学 改訂第5版</td> <td>奥 恒行、柴田克己 編集</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生化学ガイドブック改訂第3版増補</td> <td>遠藤克己、三輪一智</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 健康・栄養科学シリーズ 基礎栄養学 改訂第5版 | 奥 恒行、柴田克己 編集 | 南江堂 | 2 | 生化学ガイドブック改訂第3版増補 | 遠藤克己、三輪一智 | 南江堂 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 健康・栄養科学シリーズ 基礎栄養学 改訂第5版 | 奥 恒行、柴田克己 編集 | 南江堂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 生化学ガイドブック改訂第3版増補 | 遠藤克己、三輪一智 | 南江堂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 別途、指示する | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 別途、指示する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業形態 | 対面授業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Teams コード | 3z5mko | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 連絡手段 | 学内メール | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | 各講義前に、前回の講義の学習確認小テストを行う（15回目は講義の最後に実施）。毎回実施する小テスト（15回：評価割合40%）および定期試験（評価割合60%）で評価し、60%以上で合格とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 一生懸命勉強してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 応用栄養学研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|-----------------------------|
| 科目名 | 基礎栄養学実習 | 科目名 (英文) | Practice in Basic Nutrition |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 山田 徳広, 岸本 良美, 矢野 真友美 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1039a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 栄養現象を、実験を通じて学修することを目的とする。試験管内の In vitro の実験系と、動物、ヒトを使った In vivo 実験を用いる。具体的には、In vitro の実験系において唾液とラット小腸膜酵素を用いたときでんぶんの消化性、でんぶんとセルロースを消化酵素または硫酸で消化したときの糖の結合様式による分解性の違い、生卵とゆで卵を用いたたんぱく質の加熱変性が消化性に及ぼす影響、脂質消化における胆汁酸の重要性などを学修する。ラットを用いた実験系においては、反転腸管を用いた小腸における栄養素の吸収、食事が肝臓の脂質並びにグリコーゲン濃度に及ぼす影響などを学修する。ヒト試験においては、たんぱく質摂取量が尿中尿素排泄量に及ぼす影響と食後血糖の推移及びエネルギー代謝の測定方法などを学修する。 |
| 到達目標 | ① でんぶんの消化機構について説明できる。 ② 糖質の結合様式の違いによる消化性の違いについて説明できる。 ③ たんぱく質の変性が、たんぱく質の消化性に及ぼす影響について説明できる。 ④ 胆汁酸の役割について説明できる。 ⑤ グルコースの吸収機構について説明できる。 ⑥ 絶食が肝臓グリコーゲン量に及ぼす影響について説明できる。 ⑦ 正常肝と脂肪肝の脂質組成の違いについて説明できる。 ⑧ 高たんぱく質食と低たんぱく質食摂取の尿中尿素量の違いについて説明できる。 ⑨ 水溶性食物繊維の血糖への影響について説明できる。 ⑩ アミノ酸スコアの計算方法を修得する。 ⑪ タイムスタディ法によるエネルギー消費量の計算方法を修得する。 ⑫ 間接熱量計によるエネルギー消費量と基質代謝の測定方法を修得する。 |
| 授業方法と留意点 | ・下記の授業計画に従い、実験と実習を実施する。 ・1回あたり1.5コマ(135分授業) [3時間] ×15回=計45時間の授業とする。 |
| 科目学習の効果(資格) | 管理栄養士国家試験「基礎栄養学」に該当し、資格取得に活かせる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|--|-----------------------|
| | | | |
| 1 | でんぶんの消化 | 唾液と腸液によるでんぶんの消化を測定する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 2 | でんぶんとセルロースの消化 | でんぶんとセルロースの消化性の違いを測定する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 3 | たんぱく質の消化性 | 生卵とゆで卵の消化性の違いを確認する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 4 | 胆汁酸の働き | 胆汁酸を加えたときと、加えないときの脂肪の消化性を確認する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 5 | 小腸からのグルコース吸収 | ラット反転腸管を用いてグルコース吸収性を測定する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 6 | 絶食ラットの肝臓グリコーゲンの分離と定量 | 絶食ラットの肝臓グリコーゲンを分離して定量する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 7 | 正常肝と脂肪肝からの脂質の抽出 | 正常食または高脂肪食を摂取したラットの肝臓から脂質成分を抽出する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 8 | 正常肝と脂肪肝の脂質成分 | 正常食または脂肪肝の脂質成分を、薄層クロマトグラフィーを用いて確認する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 9 | 高たんぱく質食と低たんぱく質食摂取による尿中尿素量の変化 | 高たんぱく質食または低たんぱく質食摂取時の尿中尿素濃度を測定する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 10 | 高たんぱく質食と低たんぱく質食摂取による尿中クレアチニン量の変化とクレアチニン補正 | 前週に採取した尿のクレアチニン濃度を測定し、前週に測定した尿中尿素濃度をクレアチニン補正する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 11 | 血糖曲線 | ブドウ糖 75g を溶かした水を飲んだ後の血糖曲線の推移を確認する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 12 | 水溶性食物繊維の血糖曲線への影響 | 水溶性食物繊維とブドウ糖 75g を溶かした水を飲んだ後の血糖曲線の推移を確認する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 13 | タンパク質の栄養価の求め方 | アミノ酸スコアを計算する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 14 | タイムスタディ法によるエネルギー消費量の計算 | タイムスタディ法によるエネルギー消費量を計算する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |
| 15 | 間接熱量計によるエネルギー消費量と基質代謝の測定 | 間接熱量計によるエネルギー消費量と基質代謝を測定する | 配布した資料などを事前・事後に学習しておく |

| | |
|------|-----------|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 全ての専門コア科目 |

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|--------|-----|------|
| | 1 | 配布プリント | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------|-----|------|
| | 1 | 別途、指示する | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業形態 | 対面授業 |
| Teams コード | emki3zg |
| Moodle コース名 および登録キー | |
| 連絡手段 | 学内メール |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： |
| 評価方法 (基準) | 実験に取り組む姿勢(ルーブリック評価・評価割合50%)とレポート(評価割合50%)で評価し、60%以上で合格とする。 |
| 学生への メッセージ | 一生懸命勉強してください。 |
| 担当者の 研究室等 | 応用栄養学研究室 |
| 備考 | |

| | | | |
|----------------|--|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎ゼミナール | 科目名 (英文) | Freshman Seminar |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 喜多 大三 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1087a0 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | 本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4 |
| 到達目標 | ① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する |

| | |
|------------------|--|
| 科目学習の 効果 (資格) | ①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。 |
|------------------|--|

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|---|--|---|--|
| | 1 | ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施 | 自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針 | 事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。 |
| 2 | 第2章大学の学びのながれを知ろう | 大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 3 | 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) | 大学での主体的で深い学びの方法、ノートの書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 4 | 第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために | 第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 5 | 第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。 | 入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 6 | 課題学習① 文章力の基本を身につける | ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク | 事前・事後：授業内で、指示する。 | |
| 7 | 課題学習② 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 8 | 課題学習③ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 9 | 課題学習④ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 10 | 課題学習⑤ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤ | 事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。 | |

| | | | | |
|------------------------|---|------------------------|---|---|
| | | | 前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク | 事後：授業内で指示する。 |
| | 11 | 課題学習⑥ | 各ゼミナール担任独自の課題① | 事前・事後：授業内で、指示する。 |
| | 12 | 課題学習⑦ | 各ゼミナール担任独自の課題② | 同上 |
| | 13 | 課題学習⑧ | 各ゼミナール担任独自の課題③ | 同上 |
| | 14 | 課題学習⑨ | 各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成 | 授業内にて、事前・事後指導について指示する。 |
| | 15 | 課題学習⑩ 学修成果の発表 | 基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。 | 事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | 全ての教科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | First Year Study Guide | | 摂南大学教務委員会 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 別途、指示する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎ゼミナール | 科目名 (英文) | Freshman Seminar |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 藤林 真美 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1087a0 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | 本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4 |
| 到達目標 | ① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する |

| | |
|--------------|--|
| 科目学習の効果 (資格) | ①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。 |
|--------------|--|

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|---|--|---|--|
| | 1 | ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施 | 自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針 | 事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。 |
| 2 | 第2章大学の学びのながれを知ろう | 大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 3 | 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) | 大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 4 | 第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために | 第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 5 | 第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。 | 入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 6 | 課題学習① 文章力の基本を身につける | ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク | 事前・事後：授業内で、指示する。 | |
| 7 | 課題学習② 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 8 | 課題学習③ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 9 | 課題学習④ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 10 | 課題学習⑤ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤ | 事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。 | |

| | | | | |
|------------------------|---|------------------------|---|---|
| | | | 前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク | 事後：授業内で指示する。 |
| | 11 | 課題学習⑥ | 各ゼミナール担任独自の課題① | 事前・事後：授業内で、指示する。 |
| | 12 | 課題学習⑦ | 各ゼミナール担任独自の課題② | 同上 |
| | 13 | 課題学習⑧ | 各ゼミナール担任独自の課題③ | 同上 |
| | 14 | 課題学習⑨ | 各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成 | 授業内で、事前・事後指導について指示する。 |
| | 15 | 課題学習⑩ 学修成果の発表 | 基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。 | 事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | 全ての教科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | First Year Study Guide | | 摂南大学教務委員会 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 別途、指示する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎ゼミナール | 科目名 (英文) | Freshman Seminar |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 安藤 真美 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1087a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4 |
| 到達目標 | ① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する |
| 科目学習の効果 (資格) | ①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。 |

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|---|--|---|--|
| | 1 | ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施 | 自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針 | 事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。 |
| 2 | 第2章大学の学びのながれを知ろう | 大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 3 | 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) | 大学での主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 4 | 第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために | 第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 5 | 第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。 | 入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 6 | 課題学習① 文章力の基本を身につける | ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク | 事前・事後：授業内で、指示する。 | |
| 7 | 課題学習② 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 8 | 課題学習③ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 9 | 課題学習④ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 10 | 課題学習⑤ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤ | 事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。 | |

| | | | | |
|------------------------|---|------------------------|---|---|
| | | | 前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク | 事後：授業内で指示する。 |
| | 11 | 課題学習⑥ | 各ゼミナール担任独自の課題① | 事前・事後：授業内で、指示する。 |
| | 12 | 課題学習⑦ | 各ゼミナール担任独自の課題② | 同上 |
| | 13 | 課題学習⑧ | 各ゼミナール担任独自の課題③ | 同上 |
| | 14 | 課題学習⑨ | 各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成 | 授業内にて、事前・事後指導について指示する。 |
| | 15 | 課題学習⑩ 学修成果の発表 | 基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。 | 事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | 全ての教科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | First Year Study Guide | | 摂南大学教務委員会 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 別途、指示する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎ゼミナール | 科目名 (英文) | Freshman Seminar |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 小川 俊夫 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1087a0 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | 本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4 |
| 到達目標 | ① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する |

| | |
|--------------|--|
| 科目学習の効果 (資格) | ①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。 |
|--------------|--|

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|---|--|---|--|
| | 1 | ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施 | 自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針 | 事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。 |
| 2 | 第2章大学の学びのながれを知ろう | 大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 3 | 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) | 大学での主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 4 | 第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために | 第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 5 | 第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。 | 入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 6 | 課題学習① 文章力の基本を身につける | ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク | 事前・事後：授業内で、指示する。 | |
| 7 | 課題学習② 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 8 | 課題学習③ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 9 | 課題学習④ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 10 | 課題学習⑤ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤ | 事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。 | |

| | | | | |
|------------------------|---|------------------------|---|---|
| | | | 前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク | 事後：授業内で指示する。 |
| | 11 | 課題学習⑥ | 各ゼミナール担任独自の課題① | 事前・事後：授業内で、指示する。 |
| | 12 | 課題学習⑦ | 各ゼミナール担任独自の課題② | 同上 |
| | 13 | 課題学習⑧ | 各ゼミナール担任独自の課題③ | 同上 |
| | 14 | 課題学習⑨ | 各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成 | 授業内にて、事前・事後指導について指示する。 |
| | 15 | 課題学習⑩ 学修成果の発表 | 基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。 | 事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | 全ての教科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | First Year Study Guide | | 摂南大学教務委員会 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 別途、指示する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎ゼミナール | 科目名 (英文) | Freshman Seminar |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 黒川 通典 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1087a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4 |
| 到達目標 | ① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する |
| 科目学習の効果 (資格) | ①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。 |

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|---|--|---|--|
| | 1 | ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施 | 自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針 | 事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。 |
| 2 | 第2章大学の学びのながれを知ろう | 大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 3 | 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) | 大学での主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 4 | 第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために | 第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 5 | 第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。 | 入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 6 | 課題学習① 文章力の基本を身につける | ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク | 事前・事後：授業内で、指示する。 | |
| 7 | 課題学習② 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 8 | 課題学習③ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 9 | 課題学習④ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 10 | 課題学習⑤ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤ | 事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。 | |

| | | | | |
|------------------------|---|------------------------|---|---|
| | | | 前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク | 事後：授業内で指示する。 |
| | 11 | 課題学習⑥ | 各ゼミナール担任独自の課題① | 事前・事後：授業内で、指示する。 |
| | 12 | 課題学習⑦ | 各ゼミナール担任独自の課題② | 同上 |
| | 13 | 課題学習⑧ | 各ゼミナール担任独自の課題③ | 同上 |
| | 14 | 課題学習⑨ | 各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成 | 授業内にて、事前・事後指導について指示する。 |
| | 15 | 課題学習⑩ 学修成果の発表 | 基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。 | 事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | 全ての教科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | First Year Study Guide | | 摂南大学教務委員会 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 別途、指示する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎ゼミナール | 科目名 (英文) | Freshman Seminar |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 坂根 貞樹 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1087a0 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | 本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4 |
| 到達目標 | ① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する |

| | |
|--------------|--|
| 科目学習の効果 (資格) | ①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。 |
|--------------|--|

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|---|--|---|--|
| | 1 | ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施 | 自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針 | 事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。 |
| 2 | 第2章大学の学びのながれを知ろう | 大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 3 | 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) | 大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 4 | 第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために | 第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 5 | 第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。 | 入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 6 | 課題学習① 文章力の基本を身につける | ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク | 事前・事後：授業内で、指示する。 | |
| 7 | 課題学習② 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 8 | 課題学習③ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 9 | 課題学習④ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 10 | 課題学習⑤ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤ | 事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。 | |

| | | | | |
|------------------------|---|------------------------|---|---|
| | | | 前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク | 事後：授業内で指示する。 |
| | 11 | 課題学習⑥ | 各ゼミナール担任独自の課題① | 事前・事後：授業内で、指示する。 |
| | 12 | 課題学習⑦ | 各ゼミナール担任独自の課題② | 同上 |
| | 13 | 課題学習⑧ | 各ゼミナール担任独自の課題③ | 同上 |
| | 14 | 課題学習⑨ | 各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成 | 授業内にて、事前・事後指導について指示する。 |
| | 15 | 課題学習⑩ 学修成果の発表 | 基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。 | 事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | 全ての教科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | First Year Study Guide | | 摂南大学教務委員会 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 別途、指示する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎ゼミナール | 科目名 (英文) | Freshman Seminar |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 樽井 雅彦 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1087a0 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | 本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4 |
| 到達目標 | ① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する |

| | |
|--------------|--|
| 科目学習の効果 (資格) | ①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。 |
|--------------|--|

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|---|--|---|--|
| | 1 | ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施 | 自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針 | 事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。 |
| 2 | 第2章大学の学びのながれを知ろう | 大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 3 | 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) | 大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 4 | 第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために | 第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 5 | 第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。 | 入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 6 | 課題学習① 文章力の基本を身につける | ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク | 事前・事後：授業内で、指示する。 | |
| 7 | 課題学習② 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 8 | 課題学習③ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 9 | 課題学習④ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 10 | 課題学習⑤ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤ | 事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。 | |

| | | | | |
|------------------------|---|------------------------|---|---|
| | | | 前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク | 事後：授業内で指示する。 |
| | 11 | 課題学習⑥ | 各ゼミナール担任独自の課題① | 事前・事後：授業内で、指示する。 |
| | 12 | 課題学習⑦ | 各ゼミナール担任独自の課題② | 同上 |
| | 13 | 課題学習⑧ | 各ゼミナール担任独自の課題③ | 同上 |
| | 14 | 課題学習⑨ | 各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成 | 授業内で、事前・事後指導について指示する。 |
| | 15 | 課題学習⑩ 学修成果の発表 | 基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。 | 事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | 全ての教科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | First Year Study Guide | | 摂南大学教務委員会 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 別途、指示する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎ゼミナール | 科目名 (英文) | Freshman Seminar |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 水間 智哉 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1087a0 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | 本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4 |
| 到達目標 | ① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する |

| | |
|--------------|--|
| 科目学習の効果 (資格) | ①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。 |
|--------------|--|

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|--|--|---|--|
| | 1 | ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施 | 自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針 | 事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。 |
| 2 | 第2章大学の学びのながれを知ろう | 大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 3 | 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) | 大学での主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 4 | 第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために | 第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 5 | 第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?, L&RTEST、資格試験を意識しよう。 | 入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 6 | 課題学習① 文章力の基本を身につける | ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク | 事前・事後：授業内で、指示する。 | |
| 7 | 課題学習② 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 8 | 課題学習③ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 9 | 課題学習④ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 10 | 課題学習⑤ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤ | 事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。 | |

| | | | | |
|------------------------|---|------------------------|---|---|
| | | | 前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク | 事後：授業内で指示する。 |
| | 11 | 課題学習⑥ | 各ゼミナール担任独自の課題① | 事前・事後：授業内で、指示する。 |
| | 12 | 課題学習⑦ | 各ゼミナール担任独自の課題② | 同上 |
| | 13 | 課題学習⑧ | 各ゼミナール担任独自の課題③ | 同上 |
| | 14 | 課題学習⑨ | 各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成 | 授業内で、事前・事後指導について指示する。 |
| | 15 | 課題学習⑩ 学修成果の発表 | 基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。 | 事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | 全ての教科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | First Year Study Guide | | 摂南大学教務委員会 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 別途、指示する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎ゼミナール | 科目名 (英文) | Freshman Seminar |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 山田 徳広 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1087a0 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | 本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4 |
| 到達目標 | ① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する |

| | |
|--------------|--|
| 科目学習の効果 (資格) | ①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。 |
|--------------|--|

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|---|--|---|--|
| | 1 | ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施 | 自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針 | 事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。 |
| 2 | 第2章大学の学びのながれを知ろう | 大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 3 | 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) | 大学での主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 4 | 第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために | 第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 5 | 第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。 | 入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授授業内容の振り返り。 | |
| 6 | 課題学習① 文章力の基本を身につける | ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク | 事前・事後：授業内で、指示する。 | |
| 7 | 課題学習② 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 8 | 課題学習③ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 9 | 課題学習④ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 10 | 課題学習⑤ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤ | 事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。 | |

| | | | | |
|------------------------|---|------------------------|---|---|
| | | | 前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク | 事後：授業内で指示する。 |
| | 11 | 課題学習⑥ | 各ゼミナール担任独自の課題① | 事前・事後：授業内で、指示する。 |
| | 12 | 課題学習⑦ | 各ゼミナール担任独自の課題② | 同上 |
| | 13 | 課題学習⑧ | 各ゼミナール担任独自の課題③ | 同上 |
| | 14 | 課題学習⑨ | 各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成 | 授業内にて、事前・事後指導について指示する。 |
| | 15 | 課題学習⑩ 学修成果の発表 | 基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。 | 事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | 全ての教科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | First Year Study Guide | | 摂南大学教務委員会 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 別途、指示する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎ゼミナール | 科目名 (英文) | Freshman Seminar |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 吉井 英文 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1087a0 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | 本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4 |
| 到達目標 | ① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する |

| | |
|--------------|--|
| 科目学習の効果 (資格) | ①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。 |
|--------------|--|

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|---|--|---|--|
| | 1 | ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施 | 自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針 | 事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。 |
| 2 | 第2章大学の学びのながれを知ろう | 大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 3 | 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) | 大学での主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 4 | 第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために | 第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 5 | 第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。 | 入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 6 | 課題学習① 文章力の基本を身につける | ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク | 事前・事後：授業内で、指示する。 | |
| 7 | 課題学習② 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 8 | 課題学習③ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 9 | 課題学習④ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 10 | 課題学習⑤ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤ | 事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。 | |

| | | | | |
|------------------------|---|------------------------|---|---|
| | | | 前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク | 事後：授業内で指示する。 |
| | 11 | 課題学習⑥ | 各ゼミナール担任独自の課題① | 事前・事後：授業内で、指示する。 |
| | 12 | 課題学習⑦ | 各ゼミナール担任独自の課題② | 同上 |
| | 13 | 課題学習⑧ | 各ゼミナール担任独自の課題③ | 同上 |
| | 14 | 課題学習⑨ | 各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成 | 授業内にて、事前・事後指導について指示する。 |
| | 15 | 課題学習⑩ 学修成果の発表 | 基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。 | 事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | 全ての教科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | First Year Study Guide | | 摂南大学教務委員会 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 別途、指示する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎ゼミナール | 科目名 (英文) | Freshman Seminar |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 畦西 克己 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1087a0 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | 本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4 |
| 到達目標 | ① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する |

| | |
|------------------|--|
| 科目学習の 効果 (資格) | ①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。 |
|------------------|--|

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|--|--|---|--|
| | 1 | ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施 | 自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針 | 事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。 |
| 2 | 第2章大学の学びのながれを知ろう | 大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 3 | 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) | 大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 4 | 第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために | 第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 5 | 第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?, L&RTEST、資格試験を意識しよう。 | 入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 6 | 課題学習① 文章力の基本を身につける | ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク | 事前・事後：授業内で、指示する。 | |
| 7 | 課題学習② 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 8 | 課題学習③ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 9 | 課題学習④ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 10 | 課題学習⑤ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤ | 事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。 | |

| | | | | |
|------------------------|---|------------------------|---|---|
| | | | 前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク | 事後：授業内で指示する。 |
| | 11 | 課題学習⑥ | 各ゼミナール担任独自の課題① | 事前・事後：授業内で、指示する。 |
| | 12 | 課題学習⑦ | 各ゼミナール担任独自の課題② | 同上 |
| | 13 | 課題学習⑧ | 各ゼミナール担任独自の課題③ | 同上 |
| | 14 | 課題学習⑨ | 各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成 | 授業内にて、事前・事後指導について指示する。 |
| | 15 | 課題学習⑩ 学修成果の発表 | 基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。 | 事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | 全ての教科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | First Year Study Guide | | 摂南大学教務委員会 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 別途、指示する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎ゼミナール | 科目名 (英文) | Freshman Seminar |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 岸本 良美 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1087a0 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | 本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4 |
| 到達目標 | ① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する |

| | |
|--------------|--|
| 科目学習の効果 (資格) | ①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。 |
|--------------|--|

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|---|--|---|--|
| | 1 | ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施 | 自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針 | 事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。 |
| 2 | 第2章大学の学びのながれを知ろう | 大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 3 | 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) | 大学での主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 4 | 第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために | 第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 5 | 第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。 | 入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 6 | 課題学習① 文章力の基本を身につける | ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク | 事前・事後：授業内で、指示する。 | |
| 7 | 課題学習② 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 8 | 課題学習③ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 9 | 課題学習④ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 10 | 課題学習⑤ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤ | 事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。 | |

| | | | | |
|------------------------|---|------------------------|---|---|
| | | | 前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク | 事後：授業内で指示する。 |
| | 11 | 課題学習⑥ | 各ゼミナール担任独自の課題① | 事前・事後：授業内で、指示する。 |
| | 12 | 課題学習⑦ | 各ゼミナール担任独自の課題② | 同上 |
| | 13 | 課題学習⑧ | 各ゼミナール担任独自の課題③ | 同上 |
| | 14 | 課題学習⑨ | 各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成 | 授業内で、事前・事後指導について指示する。 |
| | 15 | 課題学習⑩ 学修成果の発表 | 基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。 | 事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | 全ての教科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | First Year Study Guide | | 摂南大学教務委員会 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 別途、指示する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎ゼミナール | 科目名 (英文) | Freshman Seminar |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 平原 嘉親 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1087a0 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | 本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4 |
| 到達目標 | ① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する |

| | |
|--------------|--|
| 科目学習の効果 (資格) | ①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。 |
|--------------|--|

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|--|--|---|--|
| | 1 | ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施 | 自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針 | 事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。 |
| 2 | 第2章大学の学びのながれを知ろう | 大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 3 | 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) | 大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 4 | 第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために | 第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 5 | 第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?, L&RTEST、資格試験を意識しよう。 | 入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 6 | 課題学習① 文章力の基本を身につける | ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク | 事前・事後：授業内で、指示する。 | |
| 7 | 課題学習② 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 8 | 課題学習③ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 9 | 課題学習④ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 10 | 課題学習⑤ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤ | 事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。 | |

| | | | | |
|------------------------|---|------------------------|---|---|
| | | | 前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク | 事後：授業内で指示する。 |
| | 11 | 課題学習⑥ | 各ゼミナール担任独自の課題① | 事前・事後：授業内で、指示する。 |
| | 12 | 課題学習⑦ | 各ゼミナール担任独自の課題② | 同上 |
| | 13 | 課題学習⑧ | 各ゼミナール担任独自の課題③ | 同上 |
| | 14 | 課題学習⑨ | 各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成 | 授業内で、事前・事後指導について指示する。 |
| | 15 | 課題学習⑩ 学修成果の発表 | 基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。 | 事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | 全ての教科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | First Year Study Guide | | 摂南大学教務委員会 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 別途、指示する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎ゼミナール | 科目名 (英文) | Freshman Seminar |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 百木 和 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1087a0 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | 本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4 |
| 到達目標 | ① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する |

| | |
|------------------|--|
| 科目学習の 効果 (資格) | ①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。 |
|------------------|--|

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|---|--|---|--|
| | 1 | ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施 | 自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針 | 事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。 |
| 2 | 第2章大学の学びのながれを知ろう | 大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 3 | 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) | 大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 4 | 第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために | 第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 5 | 第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。 | 入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 6 | 課題学習① 文章力の基本を身につける | ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク | 事前・事後：授業内で、指示する。 | |
| 7 | 課題学習② 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 8 | 課題学習③ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 9 | 課題学習④ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 10 | 課題学習⑤ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤ | 事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。 | |

| | | | 前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク | 事後：授業内で指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---|------------------|---|---|----|-----|-----|------|---|------------------------|--|-----------|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 11 | 課題学習⑥ | 各ゼミナール担任独自の課題① | 事前・事後：授業内で、指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 12 | 課題学習⑦ | 各ゼミナール担任独自の課題② | 同上 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | 課題学習⑧ | 各ゼミナール担任独自の課題③ | 同上 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | 課題学習⑨ | 各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成 | 授業内で、事前・事後指導について指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 課題学習⑩ 学修成果の発表 | 基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。 | 事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実務経験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 全ての教科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td>摂南大学教務委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | First Year Study Guide | | 摂南大学教務委員会 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | First Year Study Guide | | 摂南大学教務委員会 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 別途、指示する | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 別途、指示する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業形態 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Teams コード | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 連絡手段 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎ゼミナール | 科目名 (英文) | Freshman Seminar |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 森 美奈子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎ | | |
| 科目ナンバリング | OAF1087a0 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | 本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4 |
| 到達目標 | ① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する |

| | |
|------------------|--|
| 科目学習の 効果 (資格) | ①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。 |
|------------------|--|

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|---|--|---|--|
| | 1 | ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施 | 自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針 | 事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。 |
| 2 | 第2章大学の学びのながれを知ろう | 大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 3 | 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) | 大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 4 | 第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために | 第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 5 | 第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。 | 入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。 | 事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。 | |
| 6 | 課題学習① 文章力の基本を身につける | ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク | 事前・事後：授業内で、指示する。 | |
| 7 | 課題学習② 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 8 | 課題学習③ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 9 | 課題学習④ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク | 同上 | |
| 10 | 課題学習⑤ 文章力の基本を身につける | 文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤ | 事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。 | |

| | | | | |
|------------------------|---|------------------------|---|---|
| | | | 前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク | 事後：授業内で指示する。 |
| | 11 | 課題学習⑥ | 各ゼミナール担任独自の課題① | 事前・事後：授業内で、指示する。 |
| | 12 | 課題学習⑦ | 各ゼミナール担任独自の課題② | 同上 |
| | 13 | 課題学習⑧ | 各ゼミナール担任独自の課題③ | 同上 |
| | 14 | 課題学習⑨ | 各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成 | 授業内にて、事前・事後指導について指示する。 |
| | 15 | 課題学習⑩ 学修成果の発表 | 基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。 | 事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | 全ての教科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | First Year Study Guide | | 摂南大学教務委員会 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 別途、指示する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|---|
| 科目名 | 大学教養入門 | 科目名 (英文) | Introduction to Liberal Arts |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 喜多 大三, 大塚 正人, 加藤 裕介, 戴 容泰思, 藤井 毅, 藤林 真美 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | OHU1401a2 | | |

| | | | | |
|--------------|--|---|---|---|
| 授業概要・目的 | <p>本科目の講義目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することである。授業では教養入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、及びコミュニケーション能力を身につけることを目指す。</p> <p>SDGs 1～17</p> | | | |
| 到達目標 | <p>① 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 ② ABD による読書法を身につけている。 ③ チームワーク能力を身につけ、対話を通じて協働学習をすることができる。 ④ SDGs (Sustainable Development Goals) と UNAI (The United Nations Academic Impact) について基本的な知識を身につけている。 ⑤ 読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 ⑥ コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。</p> | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得する。教養入門書を用いて ABD 読書法を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験する。本科目は、これまでの講義とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるため、諸君が積極的に参加することが大切である。この講義は遠隔授業形式で行う。</p> <p>授業計画は以下の通りとなる。 大学教養入門 6月20日 第1回・第2回：チームビルディング</p> | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>大学生に必要な教養の基礎知識が身につく、ABD 読書法等の協働学習により、文章の要約、プレゼンテーション、対話の基本が身につく。</p> | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 枚方 CP キックオフ 4月18日 (9:20~11:00) | チームビルディングの研修プログラム | |
| | 2 | 枚方 CP キックオフ 4月18日 (11:10~12:30) | チームビルディングの研修プログラム | |
| | 3 | 枚方 CP キックオフ 9時20分~14時20分 ガイダンス (14:20~14:50) 「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか 4月18日 | チームビルディングの研修プログラム 本科目の特徴、どのような力が身につくのかを知り、授業の概要、目的、到達目標およびスケジュールと ABD 読書法の説明などを受ける。 | 事前：大人の教養の「序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか」を読むこと。 事後：ABD 読書方法の確認と理解をすること。 |
| | 4 | 読解力テスト(事前) 大学教養入門：「第二章 宇宙」 4月25日 | 読解力テスト(事前：20分) 教科書の紹介、本日の概要、チーム作り、授業の約束事、ABD による学習の進め方の説明する。 「第二章 宇宙」章を ABD 法により学修する。 ジグソー法(11~12 チーム単位) | 事前：「大人の教養 第二章 宇宙」を読み、事前学習シートに ①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す ①と②を記入して、提出する。 |
| | 5 | 大学教養入門：「第二章 宇宙」 4月25日 | QFT の説明と実践、振り返りシートの作成と提出 | 事後：「第二章 宇宙」のサマリーシート及び事後学習シートに 380~400 文字で要約し、提出する。 |
| | 6 | 大学教養入門：「第四章 人間と病気」 5月2日 | 「第四章 人間と病気」章を ABD 法により学修する。 解説 協働学習、対話、理解度確認テスト、サマリーシートへの記入。 ジグソー法(11~12 チーム単位) | 事前：「大人の教養 第四章 人間と病気」を読み、事前学習シートに ①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す ①と②を記入して、提出する。 |
| | 7 | 大学教養入門：「第四章 人間と病気」 5月2日 | QFT の説明と実践、振り返りシートの作成と提出 | 事後：「大人の教養 第四章 人間と病気」のサマリーシート及び事後学習シートに 380~400 文字で要約し、提出する。 |
| | 8 | 大学教養入門：「第六章 歴史」 5月9日 | 「第六章 歴史」章を ABD 法により学修する。 解説 協働学習、対話、理解度確認テスト、サマリーシートへの記入。 ジグソー法(11~12 チーム単位) | 事前：「大人の教養 第六章 歴史」を読み、事前学習シートに ①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す ①と②を記入して、提出する。 |
| | 9 | 大学教養入門：「第六章 歴史」 5月9日 | QFT の説明と実践、振り返りシートの作成と提出 | 事後：「大人の教養 第六章 歴史」を事後学習シートに 380~400 文字で要約し、提出する。 |
| | 10 | 世界を知る教養：国際連合： | SDGs の概要、SDGs ゲーム、理解度確認 | 事前：「SDGs と国連アカデミックインパクト」を読 |

| | | サステイナブルディベロップメントゴールズ (Sustainable Development Goals : SDGs) 6月20日 | テスト、振り返りシートへの記入。 | み、事前学習シートに (①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す) ①と②を記入して、提出する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|--|--|--|---|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 11 | 世界を知る教養：国際連合アカデミックインパクト (UN academic impact) 6月20日 | 国連の役割と歴史、本学の取り組み、理解度確認テスト、振り返りシートへの記入。 振り返りレポート①(SDGs及び国連アカデミックインパクト)の作成 | 事後：「SDGs及び国連アカデミックインパクト」のサマリーシート及び事後学習シートに380～400文字で要約し、提出する。 また、振り返りレポート①の作成を提出する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 12 | 自分を知る教養：「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教育 6月27日 | 解説 協働学習、プレゼンテーション、対話、理解度確認テスト、振り返りシートへの記入。 ジグソー法(11～12チーム単位) | 事前：アドラー心理学入門「第二章アドラー心理学の育児と教育」を読み、事前学習シートに (①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す) ①と②を記入して、提出する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | 自分を知る教養：「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教育 6月27日 | QFTの説明と実践、振り返りシートの作成と提出 | 事後：アドラー心理学入門「第二章アドラー心理学の育児と教育」のサマリーシート及び事後学習シートに380～400文字で要約し、提出する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | 自分を知る教養：「アドラー心理学入門」第三章 横の関係と健康なパーソナリティ 7月4日 | 解説 協働学習、プレゼンテーション、対話、理解度確認テスト、振り返りシートへの記入。 ジグソー法(11～12チーム単位) QFTの実践、振り返りシートの作成と提出 | 事前：アドラー心理学入門「第三章 横の関係と健康なパーソナリティ」を読み、事前学習シートに (①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す) ①と②を記入して、提出する。 事後：アドラー心理学入門「第二章アドラー心理学の育児と教育」のサマリーシート及び事後学習シートに380～400文字で要約し、提出する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 大学教養入門：まとめ 読解力テスト(事後) 7月4日 | グループワーク 「教養とは何か」に関する振り返りレポート②の作成 読解力テスト(事後：20分) 事後アンケート | 振り返りレポート②の作成と提出する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実務経験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 摂南大学で開講されている科目すべて。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業形態 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Teams コード | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 連絡手段 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | リーディングスキルテスト(個人10%)、事前学習シート(個人10%)、事後学習シート(個人10%)、ふりかえりシート(個人20%)、理解度確認テスト(個人10%)、大学教入門まとめレポート(個人40%) 以上の評価点の合計で60%以上を合格する。定期試験は実施しない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | この科目は2018年から寝屋川キャンパスで開講されている科目で、全国に先駆けて実施する摂南大学独自の教養科目です。大学生としてふさわしい教養の基礎と主体的な学習方法が身につく、さらに学部学科を超えて友人を作ることが出来るでしょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 喜多 大三 (農学部8号館2F) 大塚 正人 (薬学部1号館5F) 加藤 裕介 (農学部8号館3F) 戴 容泰思 (農学部8号館2F) 藤井 毅 (農学部8号館2F) 藤林 真美 (農学部8号館3F) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|------------------------------|
| 科目名 | 日本語表現法 | 科目名 (英文) | Japanese Reading and Writing |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | A |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 山岡 亮太 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | OJA1402a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。 |
| 到達目標 | 適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。 |
| 授業方法と留意点 | 「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 |
| 科目学習の効果(資格) | 授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。 |

| | | | | |
|------|--------------------|----------------------------|---------------------------------|--------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 導入 文章の書き方1 | 授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ | 教科書・資料の復習(1時間) |
| | 2 | 文章の書き方2 | わかりやすい文章の書き方を学ぶ | 教科書・資料の復習(1時間) |
| | 3 | 事実と意見 | 事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ | 教科書・資料の復習(1時間) |
| | 4 | 【課題1】説明文 | ある事物について、論理的に説明する文章を書く | 事前・教科書・資料の見直し(1時間) |
| | 5 | 構成 | レポートなどの文章構成を学ぶ | 教科書・資料の復習(1時間) |
| | 6 | 要約 | 要旨の要約の作成方法を学ぶ | 教科書・資料の復習(1時間) |
| | 7 | フィードバック | 課題1のフィードバック | 課題1を見直す(1時間) |
| | 8 | 文章を引用する | 文章を引用する方法を学ぶ | 教科書・資料の復習(1時間) |
| | 9 | 図表を引用する | 図表を引用する方法を学ぶ | 教科書・資料の復習(1時間) |
| | 10 | 引用の復習 意見を述べる | 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ | 教科書・資料の復習(1時間) |
| | 11 | 【課題2】論説文 | 資料を引用して意見を述べる文章を書く | 事前・教科書・資料の見直し(1時間) |
| | 12 | レポートの書き方1・2 | レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明 | 教科書・資料の復習(1時間) |
| | 13 | フィードバック | 課題2のフィードバック | 課題2を見直す(1時間) |
| | 14 | 【レポート】 | レポートを提出する | レポートを作成する(1時間) |
| 15 | レポートの講評 小テストの復習 | レポートについて講評する 小テストの復習テスト | 小テストの復習(1時間) | |

| | |
|------|-------------------|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | すべての授業の日本語による課題作成 |

| | | | | |
|-----|----|-------------|--------------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 大学生の日本語文章表現 | 摂南大学教育イノベーションセンター編 | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業形態 | |
| Teams コード | |
| Moodle コース名 および登録キー | |
| 連絡手段 | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス: |
| 評価方法 (基準) | 課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。 |
| 学生への メッセージ | 日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。 |
| 担当者の 研究室等 | 1号館2階(非常勤講師室) |
| 備考 | 事前事後学習時間の目安は15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。 |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|------------------------------|
| 科目名 | 日本語表現法 | 科目名 (英文) | Japanese Reading and Writing |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | B |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 三次 亜紀子 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | OJA1402a2 | | |

| 授業概要・目的 | 文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---|---------------------------------|--------------------|----|-------|--------|-----------|---|---------------|---------------------------------|----|---|---------|-----------------|-------|---|-------|--------------------------|-------|---|----------|------------------------|---------|---|----|----------------|-------|---|----|---------------|-------|---|---------|-------------|---------|---|---------|--------------|-------|---|---------|--------------|-------|----|-----------------|--------------------|-------|----|----------|--------------------|---------|----|-------------|----------------------------|-------|----|---------|-------------|---------|----|--------|-----------|-----------|----|--------------------|----------------------------|--------------------|
| 到達目標 | 適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。 数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。 遠隔授業(教材・課題提供型授業)にて実施する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果(資格) | 授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入 文章の書き方1</td> <td>授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ</td> <td>――</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文章の書き方2</td> <td>わかりやすい文章の書き方を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>事実と意見</td> <td>事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>【課題1】説明文</td> <td>ある事物について、論理的に説明する文章を書く</td> <td>これまでの復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>構成</td> <td>レポートなどの文章構成を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>要約</td> <td>要旨の要約の作成方法を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>フィードバック</td> <td>課題1のフィードバック</td> <td>課題1を見直す</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>文章を引用する</td> <td>文章を引用する方法を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>図表を引用する</td> <td>図表を引用する方法を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>引用の復習 意見を述べる</td> <td>考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>【課題2】論説文</td> <td>資料を引用して意見を述べる文章を書く</td> <td>これまでの復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>レポートの書き方1・2</td> <td>レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>フィードバック</td> <td>課題2のフィードバック</td> <td>課題2を見直す</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>【レポート】</td> <td>レポートを提出する</td> <td>レポートを作成する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>レポートの講評 小テストの復習</td> <td>レポートについて講評する 小テストの復習テスト</td> <td>これまでの復習 小テストの復習</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | 1 | 導入 文章の書き方1 | 授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ | ―― | 2 | 文章の書き方2 | わかりやすい文章の書き方を学ぶ | 前回の復習 | 3 | 事実と意見 | 事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ | 前回の復習 | 4 | 【課題1】説明文 | ある事物について、論理的に説明する文章を書く | これまでの復習 | 5 | 構成 | レポートなどの文章構成を学ぶ | 前回の復習 | 6 | 要約 | 要旨の要約の作成方法を学ぶ | 前回の復習 | 7 | フィードバック | 課題1のフィードバック | 課題1を見直す | 8 | 文章を引用する | 文章を引用する方法を学ぶ | 前回の復習 | 9 | 図表を引用する | 図表を引用する方法を学ぶ | 前回の復習 | 10 | 引用の復習 意見を述べる | 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ | 前回の復習 | 11 | 【課題2】論説文 | 資料を引用して意見を述べる文章を書く | これまでの復習 | 12 | レポートの書き方1・2 | レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明 | 前回の復習 | 13 | フィードバック | 課題2のフィードバック | 課題2を見直す | 14 | 【レポート】 | レポートを提出する | レポートを作成する | 15 | レポートの講評 小テストの復習 | レポートについて講評する 小テストの復習テスト | これまでの復習 小テストの復習 |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 導入 文章の書き方1 | 授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ | ―― | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 文章の書き方2 | わかりやすい文章の書き方を学ぶ | 前回の復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 事実と意見 | 事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ | 前回の復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 【課題1】説明文 | ある事物について、論理的に説明する文章を書く | これまでの復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 構成 | レポートなどの文章構成を学ぶ | 前回の復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 要約 | 要旨の要約の作成方法を学ぶ | 前回の復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | フィードバック | 課題1のフィードバック | 課題1を見直す | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 文章を引用する | 文章を引用する方法を学ぶ | 前回の復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 図表を引用する | 図表を引用する方法を学ぶ | 前回の復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 引用の復習 意見を述べる | 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ | 前回の復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 【課題2】論説文 | 資料を引用して意見を述べる文章を書く | これまでの復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | レポートの書き方1・2 | レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明 | 前回の復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | フィードバック | 課題2のフィードバック | 課題2を見直す | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 【レポート】 | レポートを提出する | レポートを作成する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | レポートの講評 小テストの復習 | レポートについて講評する 小テストの復習テスト | これまでの復習 小テストの復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実務経験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | すべての授業の日本語による課題作成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大学生の日本語文章表現</td> <td>摂南大学教育イノベーションセンター編</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 大学生の日本語文章表現 | 摂南大学教育イノベーションセンター編 | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 大学生の日本語文章表現 | 摂南大学教育イノベーションセンター編 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業形態 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Teams コード | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 連絡手段 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 1号館2階(非常勤講師室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事前事後学習の総時間の目安は15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎英語 I a | 科目名 (英文) | Basic English Ia |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | 1 |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 田中 悠介 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | OEN1403c2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。 |
| 到達目標 | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC, 英検等 |

| | | | | |
|------|----|--|------------------------------|-----------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 講義の進め方、評価方法などを説明 | 教科書・英和辞典を持参すること |
| | 2 | Unit 1: Shared Housing vs. Living Alone -1 | テキスト Unit 1 の精読 | Unit 1 の予習、復習 |
| | 3 | Unit 1: Shared Housing vs. Living Alone -2 | 単語テスト テキスト Unit 1 にかんする議論 | Unit 1 の予習、復習 |
| | 4 | Unit 2: Studying in a Caf? vs. Home -1 | テキスト Unit 2 の精読 | Unit 2 の予習、復習 |
| | 5 | Unit 2: Studying in a Caf? vs. Home -2 | 単語テスト テキスト Unit 2 にかんする議論 | Unit 2 の予習、復習 |
| | 6 | Unit 4: Coming-of-Age Ceremonies -1 | テキスト Unit 4 の精読 | Unit 4 の予習、復習 |
| | 7 | Unit 4: Coming-of-Age Ceremonies -2 | 単語テスト テキスト Unit 4 にかんする議論 | Unit 4 の予習、復習 |
| | 8 | Unit 5: 24/7 Convenience Stores -1 | テキスト Unit 5 の精読 | Unit 5 の予習、復習 |
| | 9 | Unit 5: 24/7 Convenience Stores -2 | 単語テスト テキスト Unit 5 にかんする議論 | Unit 5 の予習、復習 |
| | 10 | Unit 6: Japanese Era Names -1 | テキスト Unit 6 の精読 | Unit 6 の予習、復習 |
| | 11 | Unit 6: Japanese Era Names -2 | 単語テスト テキスト Unit 6 にかんする議論 | Unit 6 の予習、復習 |
| | 12 | Unit 7: Point Cards -1 | テキスト Unit 7 の精読 | Unit 7 の予習、復習 |
| | 13 | Unit 7: Point Cards -2 | 単語テスト テキスト Unit 7 にかんする議論 | Unit 7 の予習、復習 |
| | 14 | Unit 9: Domestic Trip vs. Abroad -1 | テキスト Unit 9 の精読 | Unit 9 の予習、復習 |
| | 15 | Unit 9: Domestic Trip vs. Abroad -2 | 単語テスト テキスト Unit 9 にかんする議論 | Unit 9 の予習、復習 |

| | |
|------|--|
| 実務経験 | |
|------|--|

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|--|---------------------------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Two Sides to Every Discussion 2 | Jonathan Lynch / Kotaro Shitori | 成美堂 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|------|--|
| 授業形態 | |
|------|--|

| | |
|-----------|--|
| Teams コード | |
|-----------|--|

| | |
|------------------------|--|
| Moodle コース名 および登録キー | |
|------------------------|--|

| | |
|------|--|
| 連絡手段 | |
|------|--|

| | |
|---------|---|
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス: |
|---------|---|

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70% |
|----------|--|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | Fake it, till you make it. 最初はできなくて当然ですが、できるまでできるふりを続けましょう。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|-------------|
| 担当者の研究室等 | 1号館2階非常勤講師室 |
|----------|-------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎英語 I a | 科目名 (英文) | Basic English Ia |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | 2 |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 勝井 典子 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | OEN1403c2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。 |
| 到達目標 | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 授業の進め方、評価の仕方、予習・復習の仕方など | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 |
| 2 | Unit 1 Our Aging Society | 文法問題(present tense)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写 |
| 3 | Unit 2 Holiday Memories | 文法問題(past tense)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写 |
| 4 | Unit 3 Sport | 文法問題(progressive forms)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写 |
| 5 | Unit 4 Foreign Workers | 文法問題(perfect tense)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写 |
| 6 | Unit 5 Life Style | 文法問題(articles / pronouns)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写 |
| 7 | Unit 6 Sizes | 文法問題(nouns: countable, uncountable)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写 |
| 8 | Unit 7 Bathrooms | 文法問題(adjectives / adverbs)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写 |
| 9 | Unit 8 Weather and Global Warming | 文法問題(comparisons)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写 |
| 10 | Unit 9 Recycling | 文法問題(prepositions / conjunctions)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写 |
| 11 | Unit 10 Commuting | 文法問題(to-infinitives / gerunds)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写 |
| 12 | Unit 11 Crumbling Britain | 文法問題(auxiliary verbs)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写 |
| 13 | Unit 12 Advertising | 文法問題(passive voice)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写 |
| 14 | Unit 13 Technology and Us | 文法問題(causative verbs)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写 |
| 15 | Unit 14 Cars: Transport or Status | 文法問題(relatives)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写 |

| | |
|------|--------|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 他の英語科目 |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|--|-----------------------------|------|
| | | | |
| 1 | English Indicator 2 <Pre-Intermediate> 英語総合インディケーター<準中級> | Terry O'brien、三原京、立本秀洋、木村博是 | 南雲堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| | | | |
| 1 | 辞書 | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-------------------|---|
| 授業形態 | |
| Teamsコード | |
| Moodleコース名および登録キー | |
| 連絡手段 | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス: |
| 評価方法(基準) | 全学共通英語課題 30% 定期試験 40% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 30% |
| 学生への | 英米のTVドラマ、映画、音楽、本、ポップカルチャーなど、エンタテインメントを入りに、普段から生きた英語に触れるようにしてみましょ |

| | |
|----------|---|
| メッセージ | う。きっと楽しく表現力を向上させることができます。 |
| 担当者の研究室等 | 1号館2階非常勤講師室 |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎英語 I b | 科目名 (英文) | Basic English Ib |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | 1 |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 勝井 典子 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | OEN1404c2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 比較的容易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。 |
| 到達目標 | (1)大学生にとって身近な話題について平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2)PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習に親しむ。 (3)前期はCEFR-J[A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J[A1.3]に英語力が到達することを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|--|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 授業の進め方、評価の仕方、予習・復習の仕方など | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 |
| 2 | Unit 1 College Sports スポーツでストレス解消 | 文法問題(present tense)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: エッセイの音読と書写 |
| 3 | Unit 2 Hip Hop Music ヒップホップ音楽で元気づけ | 文法問題(past tense)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: : エッセイの音読と書写 |
| 4 | Unit 3 Travel 心身の回復とエキゾチックな風景を満喫 | 文法問題(progressive forms)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: : エッセイの音読と書写 |
| 5 | Unit 4 Video Games テレビゲームで現実からの脱出と達成感 | 文法問題(perfect tense)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: : エッセイの音読と書写 |
| 6 | Unit 5 Recycling リサイクルで環境保全のお手伝い | 文法問題(articles / pronouns)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: : エッセイの音読と書写 |
| 7 | Unit 6 Fast Food 安い、早い、便利なファーストフードだが? | 文法問題(nouns: countable, uncountable)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: : エッセイの音読と書写 |
| 8 | Unit 7 Extreme Weather 異常気象に備えて緊急バッグの用意を! | 文法問題(adjectives / adverbs)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: : エッセイの音読と書写 |
| 9 | Unit 8 Medical Tourism 海外での医療サービスにはリスクも! | 文法問題(comparisons)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: : エッセイの音読と書写 |
| 10 | Unit 9 Advertising 購買に大きなインパクトのある広告 | 文法問題(prepositions / conjunctions)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: : エッセイの音読と書写 |
| 11 | Unit 10 Business Travel 企業にも個人にも利点のある出張 | 文法問題(to-infinitives / gerunds)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: : エッセイの音読と書写 |
| 12 | Unit 11 E-commerce オンラインショッピングは便利 | 文法問題(auxiliary verbs)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: : エッセイの音読と書写 |
| 13 | Unit 12 Coffee Shop 『白鯨』に登場する一等航海士が店名に | 文法問題(passive voice)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: : エッセイの音読と書写 |
| 14 | Unit 13 Robots 進化するロボット技術の利点と不安 | 文法問題(causative verbs)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: : エッセイの音読と書写 |
| 15 | Unit 14 SNS ウェブ上で交流できるサービスが続々登場 総括 | 文法問題(relatives)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: エッセイの音読と書写 |

| | |
|------|-------------|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 他の英語に関連する科目 |

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|--|--|------------------------------|------|
| | 1 | English Indicator 3 <Intermediate> 英語総合インディケーター <中級> | Joshua Cohen、三原 京、中村善雄、木村 博是 | 南雲堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition | 西谷 恒志 | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | 辞書 | | |
| 2 | | | | |

| | | | |
|------------------------|---|--|--|
| | 3 | | |
| 授業形態 | | | |
| Teams コード | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | |
| 連絡手段 | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | |
| 評価方法 (基準) | <ul style="list-style-type: none"> ・全学共通英語課題 30% ・平常点 30% ・定期試験 40% ※平常点とは、予習、宿題、小テスト、授業態度（投げかける質問に対する呼応、ペアワークでの積極性、集中度等）などを総合的に評価するものであり、出席点ではない。 | | |
| 学生への メッセージ | 英米のTVドラマ、映画、音楽、本、ポップカルチャーなど、エンタテインメントを入り口に、普段から生きた英語に触れるようにしてみましょう。きっと楽しく表現力を向上させることができます。 | | |
| 担当者の 研究室等 | 1号館2階非常勤講師控室 | | |
| 備考 | 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 自主学習は、試験の準備も含めて合計約30時間とする。 | | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎英語 I b | 科目名 (英文) | Basic English Ib |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | 2 |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 田中 悠介 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | OEN1404c2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。 |
| 到達目標 | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席があった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC, 英検等 |

| | | | | |
|------|----|--|------------------------------|-----------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 講義の進め方、評価方法などを説明 | 教科書・英和辞典を持参すること |
| | 2 | Unit 1: Shared Housing vs. Living Alone -1 | テキスト Unit 1 の精読 | Unit 1 の予習、復習 |
| | 3 | Unit 1: Shared Housing vs. Living Alone -2 | 単語テスト テキスト Unit 1 にかんする議論 | Unit 1 の予習、復習 |
| | 4 | Unit 2: Studying in a Caf? vs. Home -1 | テキスト Unit 2 の精読 | Unit 2 の予習、復習 |
| | 5 | Unit 2: Studying in a Caf? vs. Home -2 | 単語テスト テキスト Unit 2 にかんする議論 | Unit 2 の予習、復習 |
| | 6 | Unit 4: Coming-of-Age Ceremonies -1 | テキスト Unit 4 の精読 | Unit 4 の予習、復習 |
| | 7 | Unit 4: Coming-of-Age Ceremonies -2 | 単語テスト テキスト Unit 4 にかんする議論 | Unit 4 の予習、復習 |
| | 8 | Unit 5: 24/7 Convenience Stores -1 | テキスト Unit 5 の精読 | Unit 5 の予習、復習 |
| | 9 | Unit 5: 24/7 Convenience Stores -2 | 単語テスト テキスト Unit 5 にかんする議論 | Unit 5 の予習、復習 |
| | 10 | Unit 6: Japanese Era Names -1 | テキスト Unit 6 の精読 | Unit 6 の予習、復習 |
| | 11 | Unit 6: Japanese Era Names -2 | 単語テスト テキスト Unit 6 にかんする議論 | Unit 6 の予習、復習 |
| | 12 | Unit 7: Point Cards -1 | テキスト Unit 7 の精読 | Unit 7 の予習、復習 |
| | 13 | Unit 7: Point Cards -2 | 単語テスト テキスト Unit 7 にかんする議論 | Unit 7 の予習、復習 |
| | 14 | Unit 9: Domestic Trip vs. Abroad -1 | テキスト Unit 9 の精読 | Unit 9 の予習、復習 |
| | 15 | Unit 9: Domestic Trip vs. Abroad -2 | 単語テスト テキスト Unit 9 にかんする議論 | Unit 9 の予習、復習 |

実務経験

関連科目

| | | | | |
|-----|----|--|-------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Two Sides to Every Discussion 2 | | |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition- | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

授業形態

Teams コード

Moodle コース名

および登録キー

連絡手段

メールアドレス

メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

メールアドレス:

評価方法 (基準)

全学共通英語課題 30%
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%

学生へのメッセージ

Fake it, till you make it.
最初はできなくて当然ですが、できるまでできるふりをし続けましょう。

担当者の研究室等

1号館2階非常勤講師室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

| | |
|--|--|
| | そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|--|--|

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-------------------|
| 科目名 | 基礎英語 II a | 科目名 (英文) | Basic English Iia |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | 1 |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 田中 悠介 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | OEN1405c2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。 |
| 到達目標 | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点 | e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示された期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者(=課題未提出者)には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC, 英検等 |

| | | | | |
|------|----|---|----------------------|----------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション Unit 11: More Foreign Visitors | テキスト Unit 11 の精読 | Unit 11 の予習、復習 |
| | 2 | Unit 12: New Year's Eve Fireworks | テキスト Unit 12 の精読 | Unit 12 の予習、復習 |
| | 3 | Discussion 1 | テキスト Unit 12 についての議論 | 課題 |
| | 4 | Unit 13: April Fools' Day in Japan | テキスト Unit 13 の精読 | Unit 13 の予習、復習 |
| | 5 | Unit 14: Summer-Vacation Assignments | テキスト Unit 14 の精読 | Unit 14 の予習、復習 |
| | 6 | Discussion 2 | テキスト Unit 14 についての議論 | 課題 |
| | 7 | Unit 15: Halloween Is Best! | テキスト Unit 15 の精読 | Unit 15 の予習、復習 |
| | 8 | Unit 16: Valentine's Day in Japan | テキスト Unit 16 の精読 | Unit 16 の予習、復習 |
| | 9 | Discussion 3 | テキスト Unit 16 についての議論 | 課題 |
| | 10 | Unit 17: Smartphone Lock Screens | テキスト Unit 17 の精読 | Unit 17 の予習、復習 |
| | 11 | Unit 18: YouTube vs. Normal TV | テキスト Unit 18 の精読 | Unit 18 の予習、復習 |
| | 12 | Discussion 4 | テキスト Unit 18 についての議論 | 課題 |
| | 13 | Unit 19: Internet vs. Bricks-and-Mortar | テキスト Unit 19 の精読 | Unit 19 の予習、復習 |
| | 14 | Unit 20: Translation Software | テキスト Unit 20 の精読 | Unit 20 の予習、復習 |
| | 15 | Discussion 5 | テキスト Unit 20 についての議論 | 課題 |

| | |
|------|--------|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 他の英語科目 |

| | | | | |
|-----|----|--|-------------------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Two Sides to Every Discussion 2 | Jonathan Lynch / 委文 光太郎 | 成美堂 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業形態 | Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」 |
| Teams コード | 7btoxr6 |
| Moodle コース名 および登録キー | |
| 連絡手段 | 学内メール |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス: |
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 30% 授業における課題 70% |
| 学生への メッセージ | Fake it, till you make it. 最初はできなくて当然ですが、できるまでできるふりを続けましょう。 |
| 担当者の 研究室等 | 1号館2階非常勤講師室 |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題に要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。課題に関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メールにて対応する。 |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-------------------|
| 科目名 | 基礎英語 II a | 科目名 (英文) | Basic English Iia |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | 2 |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 勝井 典子 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | OEN1405c2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。 |
| 到達目標 | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|-------------------------|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 授業の進め方、評価の仕方、予習・復習の仕方など | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 |
| 2 | Chapter 1: Harry Potter and Chocolate Frogs | 文法問題(I tの用法)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：テキストの音読と書写 |
| 3 | Chapter 2: Peter Rabbit and Pie | 文法問題(品詞)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：テキストの音読と書写 |
| 4 | Chapter 3: Mrs. Rabbit and Herb Tea | 文法問題(分詞構文)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：テキストの音読と書写 |
| 5 | Chapter 4: Winnie-the Pooh and Honey | 文法問題(使役動詞)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：テキストの音読と書写 |
| 6 | Chapter 5: Daddy-Long-Legs and Ice Cream | 文法問題(接続詞)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：テキストの音読と書写 |
| 7 | Chapter 6: Kenji Miyazawa and Tomatoes | 文法問題(否定)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：テキストの音読と書写 |
| 8 | Chapter 7: O. Henry and "Witches' Loaves" | 文法問題(比較)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：テキストの音読と書写 |
| 9 | Chapter 8: The Old Man and Fish | 文法問題(完了形)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：テキストの音読と書写 |
| 10 | Chapter 9: East of Eden and Lettuce | 文法問題(動名詞)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：テキストの音読と書写 |
| 11 | Chapter 10: Laura and Cheese-Making on the Prairie | 文法問題(仮定法)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：テキストの音読と書写 |
| 12 | Chapter 11: Breakfast and Tiffany's | 文法問題(関係詞)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：テキストの音読と書写 |
| 13 | Chapter 12: "Mujina" and "Soba" | 文法問題(不定詞)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：テキストの音読と書写 |
| 14 | Chapter 13: Bridget Jones and Dieting | 文法問題(助動詞)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：テキストの音読と書写 |
| 15 | Chapter 14: Agatha Christie and Apples | 文法問題(受動態)、資料の読解問題を解く | 予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写 |

| | |
|------|--------|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 他の英語科目 |

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|--------------------------------------|--|-------|
| | 1 | A Taste of English: Food and Fiction | Fiona Wall Minami, 田口誠一、 本山ふじ子、原 雅久 | 朝日出版社 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition | 西谷 恒志 | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | 辞書 | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業形態 | Web Folder |
| Teams コード | s08px2a |
| Moodle コース名 および登録キー | |
| 連絡手段 | 学内メール |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： |
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 30% 定期試験 40% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 30% |

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 英語は、継続して学習することが大切です。モチベーションを保つために、例えば、TOEIC の目標スコアの設定、海外旅行の計画など、自分なりに工夫をしましょう。 |
| 担当者の研究室等 | 1号館2階非常勤講師室 |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-------------------|
| 科目名 | 基礎英語 II b | 科目名 (英文) | Basic English IIB |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | 1 |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 勝井 典子 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | OEN1406c2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 比較的容易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。 |
| 到達目標 | (1)大学生にとって身近な話題について平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2)PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習に親しむ。 (3)前期はCEFR-J[A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|-----------------------------|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 授業の進め方、評価の仕方、予習・復習の仕方など | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 |
| 2 | Chapter 1: Daddy's French Toast | 文法問題(時制)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: エッセイの音読と書写 |
| 3 | Chapter 2: New Yorker's Street Food | 文法問題(比較)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: エッセイの音読と書写 |
| 4 | Chapter 3: Fast Food and Obesity | 文法問題(動名詞)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: エッセイの音読と書写 |
| 5 | Chapter 4: Japanese Cuisine in Finland | 文法問題(分詞)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: エッセイの音読と書写 |
| 6 | Chapter 5: A Lunchbox Filled with Love | 文法問題(代名詞)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: エッセイの音読と書写 |
| 7 | Chapter 6: The Last Brownie | 文法問題(仮定法)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: エッセイの音読と書写 |
| 8 | Chapter 7: A Recipe for Happiness | 文法問題(接続詞)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: エッセイの音読と書写 |
| 9 | Chapter 8: Fish & Chips with Daddy | 文法問題(不定詞)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: エッセイの音読と書写 |
| 10 | Chapter 9: Hard to Bite, Hard to Ride | 文法問題(受動態)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: エッセイの音読と書写 |
| 11 | Chapter 10: The Sweetest Treat | 文法問題(疑問詞)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: エッセイの音読と書写 |
| 12 | Chapter 11: Coming Together for Christmas Turkey | 文法問題(前置詞)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: エッセイの音読と書写 |
| 13 | Chapter 12: Making Strawberry Jam with Grandma | 文法問題(使役動詞、知覚動詞)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: エッセイの音読と書写 |
| 14 | Chapter 13: His Favorite Poached Ox Tongue | 文法問題(助動詞)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: エッセイの音読と書写 |
| 15 | Chapter 14: A Spice for Life | 文法問題(関係代名詞、関係副詞)、資料の読解問題を解く | 予習: 次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習: エッセイの音読と書写 |

| | |
|------|-------------|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 他の英語に関連する科目 |

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|---|-----------------------------------|-------|
| | 1 | A Flavor of English: Cinema and Cuisine | Fiona Wall Minami, 松井真帆、 本山ふじ子 | 朝日出版社 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition | 西谷 恒志 | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | 辞書 | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業形態 | Web Folder |
| Teams コード | Fh8jrrx |
| Moodle コース名 および登録キー | |
| 連絡手段 | 学内メール |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス: |
| 評価方法 (基準) | <ul style="list-style-type: none"> ・全学共通英語課題 30% ・平常点 30% ・定期試験 40% |

| | |
|-----------|--|
| | ※平常点とは、予習、宿題、小テスト、授業態度（投げかける質問に対する呼応、ペアワークでの積極性、集中度等）などを総合的に評価するものであり、出席点ではない。 |
| 学生へのメッセージ | 英語は、継続して学習することが大切です。モチベーションを保つために、例えば、目標とする TOEIC スコアや資格の設定、海外旅行の計画など、自分なりに工夫をしましょう。 |
| 担当者の研究室等 | 1 号館 2 階非常勤講師控室 |
| 備考 | 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 自主学習は、試験の準備も含めて合計約 30 時間とする。 |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-------------------|
| 科目名 | 基礎英語 II b | 科目名 (英文) | Basic English IIb |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | 2 |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 田中 悠介 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | OEN1406c2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。 |
| 到達目標 | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示された期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者(=課題未提出者)には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC, 英検等 |

| | | | | |
|------|----|---|----------------------|----------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション Unit 11: More Foreign Visitors | テキスト Unit 11 の精読 | Unit 11 の予習、復習 |
| | 2 | Unit 12: New Year's Eve Fireworks | テキスト Unit 12 の精読 | Unit 12 の予習、復習 |
| | 3 | Discussion 1 | テキスト Unit 12 についての議論 | 課題 |
| | 4 | Unit 13: April Fools' Day in Japan | テキスト Unit 13 の精読 | Unit 13 の予習、復習 |
| | 5 | Unit 14: Summer-Vacation Assignments | テキスト Unit 14 の精読 | Unit 14 の予習、復習 |
| | 6 | Discussion 2 | テキスト Unit 14 についての議論 | 課題 |
| | 7 | Unit 15: Halloween Is Best! | テキスト Unit 15 の精読 | Unit 15 の予習、復習 |
| | 8 | Unit 16: Valentine's Day in Japan | テキスト Unit 16 の精読 | Unit 16 の予習、復習 |
| | 9 | Discussion 3 | テキスト Unit 16 についての議論 | 課題 |
| | 10 | Unit 17: Smartphone Lock Screens | テキスト Unit 17 の精読 | Unit 17 の予習、復習 |
| | 11 | Unit 18: YouTube vs. Normal TV | テキスト Unit 18 の精読 | Unit 18 の予習、復習 |
| | 12 | Discussion 4 | テキスト Unit 18 についての議論 | 課題 |
| | 13 | Unit 19: Internet vs. Bricks-and-Mortar | テキスト Unit 19 の精読 | Unit 19 の予習、復習 |
| | 14 | Unit 20: Translation Software | テキスト Unit 20 の精読 | Unit 20 の予習、復習 |
| | 15 | Discussion 5 | テキスト Unit 20 についての議論 | 課題 |

| | |
|------|--------|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 他の英語科目 |

| | | | | |
|-----|----|--|-------------------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Two Sides to Every Discussion 2 | Jonathan Lynch / 委文 光太郎 | 成美堂 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|--------------------|---|
| 授業形態 | Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」 |
| Teams コード | lhek6p2 |
| Moodle コース名および登録キー | |
| 連絡手段 | 学内メール |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス: |
| 評価方法(基準) | 全学共通英語課題 30% 授業における課題 70% |
| 学生へのメッセージ | Fake it, till you make it. 最初はできなくて当然ですが、できるまでできるふりを続けましょう。 |
| 担当者の研究室等 | 1号館2階非常勤講師室 |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題に要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。課題に関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メールにて対応する。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------------|
| 科目名 | 情報リテラシー I | 科目名 (英文) | Information Literacy I |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 星山 幸子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP3◎ | | |
| 科目ナンバリング | OIL1414a2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 大学生生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。 |
| 到達目標 | 情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。 |
| 授業方法と留意点 | 基本的に、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|--|--|
| | | | |
| 2 | コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集 | 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する | 事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分) |
| 3 | 【Word】 文書の編集と管理 | 文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する | 事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分) |
| 4 | 【Word】 書式の設定 表、リストの作成 | 文字列の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する | 事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分) |
| 5 | 【Word】 課題演習 | テキストの演習問題 (自習あり) | 事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分) |
| 6 | 【PowerPoint】 スライドの作成 | スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 | 事前：作成課題の準備 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (1 時間) |
| 7 | 【PowerPoint】 グループ内での発表 | アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価 | 事前：発表準備 (50 分) 事後：事後課題の完成・提出 (40 分) |
| 8 | 【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理 | ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する | 事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分) |
| 9 | 【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集 | セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える | 事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分) |
| 10 | 【Excel】 関数の利用 | 関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する | 事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分) |
| 11 | 【Excel】 グラフやオブジェクトの作成 | グラフを作成する グラフを書式設定する | 事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分) |
| 12 | 【Excel】 課題演習 | 演習問題 | 事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分) |
| 13 | 応用 | 受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う | 事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分) |
| 14 | 応用 | 受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う | 事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分) |
| 15 | 総合演習 | 模擬問題演習 | 事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分) |

実務経験

| | | | | |
|------------------------|--|---|---------|--------|
| 関連科目 | 情報リテラシーⅡ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618) | 富士通 FOM | FOM 出版 |
| | 2 | よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) | 富士通 FOM | FOM 出版 |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 毎回の実習課題 (60%)、2回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室 (8号館1階) | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------------|
| 科目名 | 情報リテラシーⅡ | 科目名(英文) | Information Literacy II |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 藤木 健史 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3○ | | |
| 科目ナンバリング | OIL1415a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 大学生活で要求される情報リテラシー能力(主として表計算、プレゼンテーション)の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解、現代社会におけるIT(情報技術)の知識を獲得する。コンピュータの機能についてさらに知識を深め、その特性と有用性についてより深く理解するものとする。 |
| 到達目標 | データを活用しやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、WordとExcelの連携で説得力のある文書を作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。 |
| 授業方法と留意点 | 毎回、授業の冒頭の10分間ほどで「IT基礎とモラル&セキュリティ(ITMS)」のミニ講義を行い、その後に演習を行う。Microsoft Word, PowerPointを用いた基礎的な情報リテラシーの技能を演習によって修得するとともに、社会を生き抜くために必要な情報モラルと情報セキュリティの知識を例題を通して体得する。 毎回の課題の提出をもって出席とみなす。出席率が8割に満たない場合は単位を認めない。 授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。 学期中は事前および事後 |
| 科目学習の効果(資格) | 就活時にアピールできるIT系の資格に挑戦するためにも役立つ講義である。 MOS(Microsoft Office Specialist)資格(民間資格)やITパスポート資格(国家資格)の基礎的技能や知識が得られる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|--|--------------------------------|
| | | | |
| 2 | 【IT基礎とモラル&セキュリティ:ITMS】 【Excel】 ワークシートやブックの作成の管理 | ITMS(B02) ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する ワークシートやブックのオプションと表示をカスタマイズする | 事前: 授業テーマの予習 事後: 事後課題の完成・提出 |
| 3 | 【IT基礎とモラル&セキュリティ:ITMS】 【Excel】 セルやセル範囲のデータ管理 | ITMS(B03) セルの参照方式 セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する | 事前: 授業テーマの予習 事後: 事後課題の完成・提出 |
| 4 | 【IT基礎とモラル&セキュリティ:ITMS】 【Excel】 見せる表の作成 | ITMS(B04) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 | 事前: 授業テーマの予習 事後: 事後課題の完成・提出 |
| 5 | 【IT基礎とモラル&セキュリティ:ITMS】 【Excel】 グラフやオブジェクトの作成 | ITMS(B05) グラフを作成する グラフのパーツ グラフを書式設定する | 事前: 授業テーマの予習 事後: 事後課題の完成・提出 |
| 6 | 【IT基礎とモラル&セキュリティ:ITMS】 【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行 | ITMS(B06) 統計関数の利用 論理・情報・文字列操作関数の利用 | 事前: 授業テーマの予習 事後: 事後課題の完成・提出 |
| 7 | 【IT基礎とモラル&セキュリティ:ITMS】 【Excel】 ピボットテーブルによる集計とグラフ化 | ITMS(B07) ピボットテーブルの作成と設定 ピボットグラフの作成と設定 | 事前: 授業テーマの予習 事後: 事後課題の完成・提出 |
| 8 | 【IT基礎とモラル&セキュリティ:ITMS】 【Excel】 表計算の振り返り | ITMS 振り返り 表計算テスト演習 | 事前: 表計算機能の復習 事後: 今までの機能のまとめ |
| 9 | 【IT基礎とモラル&セキュリティ:ITMS】 【GIMP】 画像加工演習 | ITMS(B08) 画像レタッチツールの利用 変形、変換 明度、彩度、色相の変更 スムージング、フィルタリング | 事前: 授業テーマの予習 事後: 事後課題の完成・提出 |
| 10 | 【IT基礎とモラル&セキュリティ:ITMS】 【PowerPoint】 デザインテーマの作成 スライドの作成 | ITMS(B09) デザインテーマの構成について デザインテーマの作成・保存・適用 資料作成 | 事前: 授業テーマの予習 事後: 事後課題の完成・提出 |
| 11 | 【IT基礎とモラル&セキュリティ:ITMS】 【PowerPoint】 スライドの作成 | ITMS(B10) ABDのための文章の要約とスライド作成 | 事前: 授業テーマの予習 事後: 事後課題の完成・提出 |
| 12 | 【IT基礎とモラル&セキュリティ:ITMS】 【PowerPoint】 プレゼンテーション演習 | ITMS(B11) 相互発表 ルーブリック評価 | 事前: 授業テーマの予習 事後: 事後課題の完成・提出 |
| 13 | 【IT基礎とモラル&セキュリティ:ITMS】 | ITMS(B12) 表やグラフなどのオブジェクトを取り | 事前: 授業テーマの予習 事後: 事後課題の完成・提出 |

| | | 【Word & Excel】 連携課題演習 | 込んだ文書作成 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|--|--|---|------------------------------|----|-----|-----|------|---|-------------------------------|--|------|---|------------------|---------|--------|---|----------------------|-----|-------|
| | 14 | 【IT基礎とモラル&セキュリティ ティ:ITMS】 【Word & Excel】 連携課題演習 | モラルとセキュリティの振り返り 表やグラフなどのオブジェクトを取り 込んだ文書作成 | 事前：授業テーマの予習 事後：事後課題の完成・提出 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 【IT基礎とモラル&セキュリティ ティ:ITMS】 【Word & Excel】 まとめと振り返り | ITMS 振り返り 総合テスト演習 | 事前：今までの諸機能の復習 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実務経験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 情報リテラシー I | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Windows10・Office2019による情報処理入門</td> <td></td> <td>実教出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>情報モラル & 情報セキュリティ</td> <td>富士通 FOM</td> <td>FOM 出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>令和02年 栢木先生のITパスポート教室</td> <td>栢木厚</td> <td>技術評論社</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | Windows10・Office2019による情報処理入門 | | 実教出版 | 2 | 情報モラル & 情報セキュリティ | 富士通 FOM | FOM 出版 | 3 | 令和02年 栢木先生のITパスポート教室 | 栢木厚 | 技術評論社 |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | Windows10・Office2019による情報処理入門 | | 実教出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 情報モラル & 情報セキュリティ | 富士通 FOM | FOM 出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 令和02年 栢木先生のITパスポート教室 | 栢木厚 | 技術評論社 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業形態 | Teams「教材・課題配信型」/Web Folder | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Teams コード | gbwkv59 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 連絡手段 | Teams の講義チームにて。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 80%以上の出席率を必要とする。 演習課題(50%)、テスト課題(50%)を総合して評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。 多くの先輩が受講後、独学でMOS (Microsoft Office Specialist マイクロソフト オフィススペシャリスト) に合格しています。資格取得の足掛かりにも有用です。ITパスポート資格の取得も視野に入れましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 授業時間外に質問したい場合、Teams 経由にて問い合わせること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | スポーツ科学 I | 科目名 (英文) | Sports Science I |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 藤林 真美, 樫本 崇士 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP6○ | | |
| 科目ナンバリング | OPH1416a2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的とする。本科目では、スポーツ・身体運動を通して①健康の維持・増進をはかる②運動技能を向上させることができる③マナーやルールを理解することができる④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことを目指す。 SDGs-3, 4, 5 |
| 到達目標 | ①健康の維持・増進をはかる ②運動技能を向上させることができる ③マナーやルールを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる |
| 授業方法と留意点 | 授業方法は、教材・課題提供型とし、Microsoft Teams、Moodleの2つのICTツールを使用する。実技および講義教材を用いて一定期間内に学修し、課題を作成・提出することにより授業目的・到達目標の達成を目指す。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」: コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」: 自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」: 課題解決能力を修得できる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------|-----------------------------|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス | 履修上の注意など (講義室) | ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。 (事後学習時間 30分) |
| 2 | 体力測定① | 体力測定 屋外種目 (グラウンド) | 測定記録評価 (事前事後学習時間 30分) |
| 3 | 体力測定② | 体力測定 屋内種目 (体育館) | 測定記録評価 (事前事後学習時間 30分) |
| 4 | 体力測定集計・評価 | 体力測定の集計・評価 (講義室) | 測定記録評価 各自の体力要素を評価すると共に、今後の課題・解決方法を理解する。 (事前事後学習時間 30分) |
| 5 | 各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム | ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館) | 事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) |
| 6 | 各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム | 基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) |
| 7 | 各コース別実技① ゲーム | 技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) |
| 8 | 各コース別実技① ゲーム | 技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) |
| 9 | 各コース別実技① ゲーム | 技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) |
| 10 | 各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム | ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館) | 事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) |
| 11 | 各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム | 基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) |
| 12 | 各コース別実技② ゲーム | 技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) |
| 13 | 各コース別実技② ゲーム | 技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) |
| 14 | 各コース別実技② ゲーム | 技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) |
| 15 | 各コース別実技② ゲーム | 技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 本科目の振り返り (事前事後学習時間 30分) |

| | |
|------|---|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 解剖生理学、臨床医学概論、生化学、基礎栄養学、生物と環境、応用栄養学、公衆衛生学、分子生物学、臨床栄養学、ゲノムと生命、食品栄養学研究 |

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | なし | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|------------------------|---|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | なし | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 活動点50%、課題点50%として、総合評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 8号館3階 食品栄養学科 運動生理学研究室 | | | |
| 備考 | トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------|
| 科目名 | スポーツ科学Ⅱ | 科目名(英文) | Sports Science II |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 藤林 真美, 瀧 千波 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP6○ | | |
| 科目ナンバリング | OPH1417a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 「スポーツ科学Ⅰ」で培った学修内容を応用し、心技体のさらなる向上を目標とする。①<心>スポーツ活動を通じた成功体験や規範遵守、主体性、自己統制、表現力、協調性、他者受容意識の向上など人間力の醸成を目指す。②<技>スポーツ科学Ⅰよりも高度なスポーツ技術の獲得を目指す。③<体>運動やスポーツが身体へ及ぼす影響やそのメカニズムについて理解し、自らの生活行動の中にスポーツを実践できる能力の育成を目指す。 SDGs-3, 4, 5 |
| 到達目標 | ①健康の維持・増進をはかる ②生涯スポーツへ継続できる ③運動・スポーツの役割や、それらが生体へ及ぼすメカニズムについて理解できる ④多様な背景をもつ人々に対する運動・スポーツの実践方法を身につける |
| 授業方法と留意点 | メンバーを2コースに分け、グラウンドにおいて行う。 開講種目は、フットサル、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど 雨天などの際は、屋内種目を行う場合もある。 |
| 科目学習の効果(資格) | 基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」: コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」: 自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」: 課題解決能力を修得できる。 |

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|------------------------|----------------------------|---|---|
| | 1 | ガイダンス | 履修上の注意など(講義室) コース分け | ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。 (事後学習時間 30分) |
| 2 | 各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム | ルールの説明、基礎技術練習(グラウンドおよび体育館) | 事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) | |
| 3 | 各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム | 基礎技術練習、攻防練習(グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) | |
| 4 | 各コース別実技① ゲーム | 技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) | |
| 5 | 各コース別実技① ゲーム | 技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) | |
| 6 | 各コース別実技① ゲーム | 技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) | |
| 7 | 各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム | ルールの説明、基礎技術練習(グラウンドおよび体育館) | 事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) | |
| 8 | 各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム | 基礎技術練習、攻防練習(グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) | |
| 9 | 各コース別実技② ゲーム | 技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) | |
| 10 | 各コース別実技② ゲーム | 技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) | |
| 11 | 各コース別実技② ゲーム | 技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) | |
| 12 | 各コース別実技③ 基礎練習・簡易ゲーム | ルールの説明、基礎技術練習(グラウンドおよび体育館) | 事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) | |
| 13 | 各コース別実技③ ゲーム | 基礎技術練習、攻防練習(グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) | |
| 14 | 各コース別実技③ ゲーム | 技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分) | |
| 15 | 各コース別実技③ ゲーム | 技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館) | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 本科目の振り返り (事前事後学習時間 30分) | |

| 実務経験 | | | | | | | | | |
|------|--|-----|------|-----|------|---|----|--|--|
| 関連科目 | 解剖生理学、臨床医学概論、生化学、基礎栄養学、生物と環境、応用栄養学、公衆衛生学、分子生物学、臨床栄養学、ゲノムと生命、食品栄養学研究 | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | なし | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | |
| 1 | なし | | | | | | | | |

| | | | | |
|------------------------|---|-----|-----|------|
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | なし | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | Teams「オンライン型」／対面授業 | | | |
| Teams コード | cs2mlcu | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | チャット（チャットが使用不可の場合は学内メール） | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 （基準） | 平常点50％、態度点25％、技能点25％として、総合評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 8号館3階 食品栄養学科 運動生理学研究室 寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室 | | | |
| 備考 | トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと | | | |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|------------|
| 科目名 | 心理学 | 科目名 (英文) | Psychology |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 林 萍萍 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1○, DP4○, DP5○ | | |
| 科目ナンバリング | OHU1418a2 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>【授業概要】 心理学は、人間の行動を予測することを究極的な目標としている。本授業は、これまでに得られた心理学的知見を学ぶことで、自己と他者、そして自分の周囲を取り巻く社会を科学的な視点から見直すことを目指している。これにより、学生の友人や教員との関係の変化に柔軟に対応できるような人間力を得て、他者と接する上での心のあり方やマナーなどの態度について改善されることも期待している。</p> <p>【授業目的】 本講義の目的は下記の3つである。 1) 心理学という学問に対する初歩的な理解ができるようにする。 2) 情報を捉えるメカニズムを理解できるようにする。 3) 自己を探求するための手がかりをつかめるようにする。</p> |
| 到達目標 | <p>本講義の具体的な到達目標として以下の3点を挙げる。 1) 「学問としての心理学」に触れ、通俗的な心理学への誤解を解く。 2) 心理学のいくつかの理論について説明が出来る。 3) 現実場面の現象を見て、心理学の理論で解釈が出来る。</p> |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> Teams と Moodle を用いた遠隔授業で行う。 受講生は、必ず毎週各自 PC やスマホなどを利用して、Teams や Moodle にアクセスすること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------|---|--|
| 1 | イントロダクション | 授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。 | 身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。 |
| 2 | 心理学概論 | 心理学の歴史、発展、学派、研究対象、研究分野、研究方法等について概説します。 | 心理学に対するこれまでのイメージと比較しながら、新たに認識した心理学を考えましょう。教科書第10章を予習してください。 |
| 3 | 心と脳 | 心と脳、脳と行動、脳の特徴・構造、部位の損傷と症状、脳波と自律系反応、睡眠と夢、記憶と脳、発達と脳について解説します。 | 脳に関する写真・ビデオなどを図書館などで見つけ、授業内容を映像で理解してください。3D Brain というアプリをダウンロードして、脳の各構造と機能を学習してください。 |
| 4 | 感覚と知覚(1) | 感覚(視覚・聴覚・味覚・嗅覚・皮膚感覚)の種類と特性、感覚の役割・相互作用・基本特性について解説します。 | 教科書の第5章を事前に予習してください。 |
| 5 | 感覚と知覚(2) | 知覚の体系化、知覚の恒常性、距離・奥行き、動きの知覚、動きの知覚、知覚から認知へについて解説します。 | 教科書の第5章を事前に予習してください。「錯覚」の例を調べてきてA4 1枚のレポートにまとめましょう。 |
| 6 | 学習 | 学習とは、学習の方法、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、二つの条件付けの違いについて解説します。 | 教科書第4章の前半を事前に予習してください。例を挙げながら、二つの条件付けの違いについてレポートにまとめましょう。 |
| 7 | 記憶 | 記憶の過程、短期記憶、長期記憶、系列位置効果、忘却のメカニズムについて解説します。 | 教科書第4章の後半を事前に予習してください。 |
| 8 | 思考と言語 | 演繹推論と帰納推論、問題解決、概念とカテゴリ化について解説します。 | 教科書第6章を事前に予習してください。 |
| 9 | 動機づけと情動 | 動機付けの分類、達成と自己実現の動機づけ、フラストレーションと葛藤、情動の種類、情動の認知評価説について解説します。 | 教科書第7章を事前に予習してください。 |
| 10 | パーソナリティ | 精神分析学とパーソナリティ、外見とパーソナリティ、類型論、特性論、血液型とパーソナリティについて解説します。 | 教科書第8章を事前に予習してください。事前に自身のパーソナリティがどのようなものであるかについて、すぐ答えられるようになっておいてください。 |
| 11 | 発達 | 遺伝と環境、行動発達を規定する要因、発達の変化、発達障害について解説します。 | 教科書第3章を事前に予習してください。 |
| 12 | 社会的認知 | 自己の認知(自我と自己、自己評価)、印象形成、帰属過程、クリーの共変動モデルについて解説します。 | 教科書第9章前半を事前に予習してください。 |
| 13 | 対人魅力と対人関係 | 対人魅力の規定要因、自己開示と自己呈示について解説します。 | 教科書第9章9.5を事前に予習してください。 |
| 14 | 社会的影響と集団 | 態度と説得、社会的促進、社会的手抜き、同調、少数派集団の影響、集団意思決定について解説します。 | 教科書第9章9.3と9.4と9.6を事前に予習してください。これまでの授業テーマを見直し、最も興味のあるもの、そしてそれに関わる現象について考えてみてください。 |
| 15 | まとめ | 授業全体のまとめ | 授業後、教科書およびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。 |

| 実務経験 | | | | | | | | | | | | | |
|------|---|--------|--------|-----|------|---|-----------|--------|--------|---|--|--|--|
| 関連科目 | 後期の「心理学Ⅱ」もあわせて取ることを推奨します。 | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>心理学 [第5版]</td> <td>鹿取廣人など</td> <td>東京大学出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 心理学 [第5版] | 鹿取廣人など | 東京大学出版 | 2 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | |
| 1 | 心理学 [第5版] | 鹿取廣人など | 東京大学出版 | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|------------------------|---|-------|--------------|---------|
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 心理学 | 無藤隆など | 有斐閣 |
| | 2 | 心理学概論 | 岡市廣成・鈴木直人（編） | ナカニシヤ出版 |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 【授業内テスト】40% 【授業課題】30% 【教科書を用いた課題（小レポート）】30% ※授業内テストは開講日時から1週間の間しか受験できません。 ※課題に関しては締切があります。締切を必ず守ること。 | | | |
| 学生への メッセージ | 心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めてください。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館6階 経営学部事務室 | | | |
| 備考 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけるようにしてください。 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間かけるようにしてください。 遅刻、講義中の無断退出、私語等は他の受講者の迷惑にもなりますので厳に謹んでください。 配布された資料は各自で管理を行ってください。再配布等は致しません。 前回授業の資料を参照する場合がありますので、直近の授業で配布された資料は持参するように心がけてください。 授業内課題等の提出は、当該授業時間内のみ受け付けます。授業時間外は一切受け付けません。 | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|----------|--------|
| 科目名 | 倫理学 | 科目名 (英文) | Ethics |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 貫井 隆 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1○, DP4○, DP5○ | | |
| 科目ナンバリング | OHU1419a2 | | |

| | |
|---------|--|
| 授業概要・目的 | <p>「他の人のためと思ってやっていることも、実際のところは自分のためでしかないのでは?」「自分よりも困っている人が世界中にいると知っていながら、彼らに寄付せずに自分の買いたいものを買うのは非情なことだろうか?」「価値観は人や文化によって違い優劣はないとしたら、他人にアドバイスしたり批判することは余計なこと、失礼なことだろうか?」</p> <p>このようなことは、別に倫理学者や哲学者でなくとも、誰もがふとしたときに考えたことがある??人によってはよく考えている??ことなのではないかと思います。本授業ではこのような身近なテーマから出発し、現代社会の諸問題(中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー等)に関してこれまでどのような理論や主張がなされてきたかを学び、自分自身の立場・主張について深めることが目的です。</p> |
| 到達目標 | <p>1. 授業で扱う現代社会の諸テーマ(中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー、宗教と道徳の関係、非利己性、寄付の義務等)について『現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで』(ジェームズ・レイチェルズ著、晃洋書房)の議論を参考に、専門的な論点を理解する。</p> <p>2. 上記の諸問題に関して自分なりの考えをまとめる。</p> <p>(※授業ではプリントを配布しますので、『現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで』の購入は必須ではありません)</p> |

| | |
|----------|--|
| 授業方法と留意点 | <p>【授業形式】 毎回プリントを配布し、それに基づく講義を中心とする。しかし、特定のテーマについてピア・ディスカッション(机の隣の人との議論)をしてもらうことがある。また、授業内容に関する小問題を授業中に解いてもらうことがある。</p> <p>【講義時間内のスケジュール(予定)】 前回のコメントシートへの返答(10-20分) コメントシート配布(小問題を配布する場合もある)、今回の講義のポイント解説(10分-20分) 講義(50分程度) コメントシート提出(5分)</p> |
|----------|--|

| | |
|-------------|--|
| 科目学習の効果(資格) | |
|-------------|--|

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|----------------|--|---|--|
| | 1 | 道徳とはどういうことか | <ul style="list-style-type: none"> 道徳は定義できるのか 道徳の最小概念 回復の見込みのない乳児をどのように扱うべきか | 事前：特になし 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています) |
| 2 | 文化的相対主義 | <ul style="list-style-type: none"> 異なる文化はいかにして道徳規範を持つのか 文化的相対主義を本気で受け止めるようになるか 文化的相対主義から何を学ぶことができるか | 事前：前回配布した参考文献を読んできると 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています) | |
| 3 | 倫理における主観主義 | <ul style="list-style-type: none"> 倫理学に証明はあるのか 同性愛の問題 | 事前：前回配布した参考文献を読んできると 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています) | |
| 4 | 道徳は宗教に基づくか | <ul style="list-style-type: none"> 道徳と宗教の関係 道徳は神の命令か キリスト教と中絶の問題 | 事前：前回配布した参考文献を読んできると 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています) | |
| 5 | 心理学的利己主義 | <ul style="list-style-type: none"> 非利己性は可能か 「どんなことも結局自分のためではない」という主張は本当か | 事前：前回配布した参考文献を読んできると 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています) | |
| 6 | 倫理的利己主義 | <ul style="list-style-type: none"> 飢餓救済に寄付する義務はあるのか 「何が人のためになるかは難しい」「自分のためになることだけをやるべきである」という主張は本当か | 事前：前回配布した参考文献を読んできると 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています) | |
| 7 | 功利主義者のアプローチ | <ul style="list-style-type: none"> 安楽死の問題 動物の権利の問題 | 事前：前回配布した参考文献を読んできると 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています) | |
| 8 | 功利主義をめぐる議論 | <ul style="list-style-type: none"> 幸福の問題 結果がすべてか | 事前：前回配布した参考文献を読んできると 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています) | |
| 9 | 絶対的道徳規則はあるのか | <ul style="list-style-type: none"> 普遍的な道徳は可能か | 事前：前回配布した参考文献を読んできると 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています) | |
| 10 | カントと人格の尊重 | <ul style="list-style-type: none"> 「人間の尊厳」という考え 刑罰の理論における応報と功利性 | 事前：前回配布した参考文献を読んできると 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています) | |
| 11 | 社会契約の思想 | <ul style="list-style-type: none"> ホプズの主張 囚人のジレンマ 市民的不服従についての問題 | 事前：前回配布した参考文献を読んできると 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています) | |
| 12 | フェミニズムと気づかひの倫理 | <ul style="list-style-type: none"> 女と男は倫理についての考えが違うか | 事前：前回配布した参考文献を読んできると 事後：配布した穴埋めプリントの復習 | |

| | | | | |
|------------------------|--|---------------------------|--|--|
| | | | | (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています) |
| | 13 | 徳の倫理 | <ul style="list-style-type: none"> 徳の倫理と正しい行動の倫理 様々な徳 | 事前：前回配布した参考文献を読んでくる 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています) |
| | 14 | 満足のいく道徳説とはいかなるものか | <ul style="list-style-type: none"> 思い上がりのない道徳 道徳共同体 正義と公正 | 事前：前回配布した参考文献を読んでくる 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています) |
| | 15 | まとめ | <ul style="list-style-type: none"> 講義のまとめ | 事前：前回配布した参考文献を読んでくる 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています) |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで | ジェームズ・レイチェルズ | 晃洋書房 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 期末試験：60% 授業中の課題：40% | | | |
| 学生への メッセージ | 答えがないと言われて久しい現代社会を生きる上で、簡単に消費されず、長い間参考になるであろう知見を得ることができたと思ってもらえれば幸いです。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師控室 | | | |
| 備考 | <p>参考書等は授業時に適宜紹介します。質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。 非常勤講師室等における相談可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。</p> <p>連絡先： 貫井隆 nukui.takashi.54n★kyoto-u.jp ★は@に変えてください</p> <p>評価基準の40%である「授業中の課題」について： 「授業内容に関する小問題」を授業中に出题しますので、それによって評価します。 「授業内容に関する小問題」を実施する日時は授業中に連絡します</p> | | | |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|-------------|
| 科目名 | 哲学から学ぶ | 科目名 (英文) | Philosophy |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 田中 俊, 担当者未定 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1○, DP4○, DP5○ | | |
| 科目ナンバリング | OHU1420a2 | | |

授業概要・目的
ある事柄が「科学的に正しい」と言われたら、私たちはつい、それが絶対的に正しいのだと思ってしまいがちです。ところがそれにもかかわらず、私たちは日常生活の上では、「科学的に」正しいだけではなく、「将来的に」「倫理的に」「文脈的に」等々、多くの見方を総合して正しいと思われる行動をとらなければなりません。つまり私たちは、科学を単一の基準にして生活することはできないのです。そして、複数の基準は互いに相容れないこともあります。そのため、人生においては正しいか間違っているのか、一概には言えない場面に出くわることになります。こうした割り切れない状況に向き合うために人は「様々な見方同士がどのようにして関わり合っているのか」ということを考えてきました。この営みは「哲学」と呼ばれています。本講義では、その哲学において歴史上どのような問題と考え方が登場したのか、ということを見ていきます。

到達目標
1. 一つの物事には多様な見方が存在するということを学ぶ
2. 哲学の歴史と学説に関する基礎的な知識を学ぶ

授業方法と留意点
「教材・課題提供型授業」の形式で実施する。毎回授業終わりにコメントを提出してもらい (方法は初回授業で指示する)、次回の授業冒頭でそれに対する応答を行う。

科目学習の効果 (資格)
哲学的思考を用いて物事を立体的に理解することができるようになる。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------|------------------|--|
| | | | |
| 1 | 導入 | 講義の進め方や評価基準等の確認 | 予習: シラバスに目を通しておく 復習: 哲学について考える (1時間) |
| 2 | 哲学の始まり | イオニアの自然哲学 | 予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間) |
| 3 | 古代ギリシアにおける知の体系 (1) | プラトンにおける知の分類 | 予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間) |
| 4 | 古代ギリシアにおける知の体系 (2) | アリストテレスの目的論的自然観 | 予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間) |
| 5 | 古代ギリシアにおける知の体系 (3) | アリストテレス以降の学問区分 | 予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間) |
| 6 | 数値化・機械化された自然 (1) | ペイコンの帰納法とガリレイの科学 | 予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間) |
| 7 | 数値化・機械化された自然 (2) | デカルトにおける精神と物体 | 予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間) |
| 8 | 数値化・機械化された自然 (3) | ロックの所有権 | 予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間) |
| 9 | 世界と精神 (1) | スピノザにおける神と人間 | 予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間) |
| 10 | 世界と精神 (2) | ライプニッツのモナド | 予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間) |
| 11 | 世界と精神 (3) | カントにおける合目的性 | 予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間) |
| 12 | 歴史の展開と知 (1) | ルソーの自然状態 | 予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間) |
| 13 | 歴史の展開と知 (2) | ヘーゲルの弁証法 | 予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間) |
| 14 | 歴史の展開と知 (3) | フッサールの生活世界 | 予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間) |
| 15 | まとめ | 講義全体を振り返る | 予習・復習: 講義ノートを見直す (計2時間) |

実務経験

関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----------|-------------|-----|------|
| | 1 | 哲学マップ | 貫成人 | 筑摩書房 |
| 2 | 科学的精神の形成 | ガストン・バシュラール | 平凡社 | |
| 3 | | | | |

授業形態

| | |
|------------------------|--|
| Teams コード | |
| Moodle コース名 および登録キー | |
| 連絡手段 | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： |
| 評価方法 (基準) | 試験 80%、授業内課題（コメント）20%の割合で評価する。 |
| 学生への メッセージ | 一見して奇妙に見える意見も、必ず発言者なりの見方や考え方に基づいています。これは親しい友人でもはるか昔の哲学者でも同じことことです。見慣れない考え方に粘り強く接することによって、人生の可能性（生きている間にできること）が広がります。 |
| 担当者の 研究室等 | |
| 備考 | 講義に関する質問等は授業前後に教室または非常勤講師控室にて対応します。 |

| | | | |
|---------------|------------------|----------|--------------------|
| 科目名 | 地誌学 | 科目名 (英文) | Regional Geography |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 渡邊 英明 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1○, DP4○, DP5○ | | |
| 科目ナンバリング | OHU1421a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野で、系統地理学（人文地理学・自然地理学）とともに地理学の根幹を成す。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。 |
| 到達目標 | さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 講義内容を収録した音声付パワーポイントをオンデマンド配信する。音声付パワーポイントは、Moodle にアップロードする。 |
| 科目学習の効果（資格） | 中学社会・高校地理歴史教員免許 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|---------------|--|
| | | | |
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方 | 講義ノートを復習しておくこと（事後学習 3 時間） |
| 2 | 熱帯気候と住民生活 (1) | 熱帯雨林とサバンナ | 教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間） |
| 3 | 熱帯気候と住民生活 (2) | 熱帯雨林の近年の変化 | 教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間） |
| 4 | 熱帯気候と住民生活 (3) | タンザニアのコーヒー生産 | 教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間） |
| 5 | 熱帯気候と住民生活 (4) | 熱帯雨林の狩猟採集民 | 教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間） |
| 6 | 乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1) | 砂漠と季節河川 | 教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間） |
| 7 | 乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2) | 砂漠ゾウと地域住民 | 教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間） |
| 8 | 乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3) | 乾燥地帯で生きる人々 | 教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間） |
| 9 | 寒帯・冷帯気候と住民生活 (1) | 氷河地形と人々の暮らし | 教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間） |
| 10 | 寒帯・冷帯気候と住民生活 (2) | 極北の狩猟民・イヌイット | 教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間） |
| 11 | 寒帯・冷帯気候と住民生活 (3) | 山岳地帯の住民生活 | 教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間） |
| 12 | 温帯気候と住民生活 (1) | ヨーロッパの自然と住民生活 | 教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間） |
| 13 | 温帯気候と住民生活 (2) | 先進国の都市問題 | 教科書の該当ページを復習しておくこと（事後学習 1.5 時間） |
| 14 | 温帯気候と住民生活 (3) | 日本の自然と住民生活 | 教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間） |
| 15 | 試験（授業内で実施） | 試験 | 教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 3 時間） |

| | |
|------|-------------|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 人文地理学、自然地理学 |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-------------|------|------|
| | | | |
| 1 | 世界がわかる地理学入門 | 水野一晴 | 筑摩書房 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| | | | |
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業形態 | Moodle |
| Teams コード | eng162q |
| Moodle コース名 および登録キー | 2020 地誌学（金 2・渡邊） cdvSNnUbycqsQjZgeb |
| 連絡手段 | 学内メール |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス： |
| 評価方法 （基準） | 試験 70%、授業内課題 30% |
| 学生への メッセージ | 試験および授業内課題は、いずれも Moodle で実施する。 高校で地理（A・B）を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回ノートを取りながら集中して受講してください。 |
| 担当者の 研究室等 | 7 号館 2 階（非常勤講師室）。質問等は学内メールにて対応する。 |
| 備考 | |

| | | | |
|---------------|------------------|----------|-----------------|
| 科目名 | 人文地理学 | 科目名 (英文) | Human Geography |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 麻生 将 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1○, DP4○, DP5○ | | |
| 科目ナンバリング | OHU1422a2 | | |

| | | | | |
|--------------|---|------------------------------|--------------------------------|---|
| 授業概要・目的 | 現代世界・社会の諸問題に地理学がどのように向き合っているかを考えるにあたり、具体的な事例を通して主要な人文地理学の研究成果とアプローチを紹介する。 | | | |
| 到達目標 | ＜地理学的なものの見方・考え方＞について理解し、それをふまえ、身近な問題を捉え直すことができる。 | | | |
| 授業方法と留意点 | 配付資料を用いて、講義形式で行う。授業中に何度か課題を出す。それらの課題に取り組むことで、授業内容をしっかりと復習してほしい。 | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | ガイダンス:地理学を学ぶ意義、地理学から見える世界・現象 | 授業の進め方、授業全体の参考書の紹介など | 中学校(高校での地理選択者は高校地理)までの「地理」の学習内容を振り返る(事後学習)(2時間) |
| | 2 | 地図の読解 | 様々な地図の読解と理解について | 紹介した参考文献を読む(事後学習) テーマに沿った地図(身近な地域の地図またはメンタルマップ)作成の課題に取り組む(事後学習)(2時間) |
| | 3 | 都市の空間現象 | 都市の歴史、現代の都市で生じる様々な現象と課題について | 紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 |
| | 4 | 農村の現状と課題 | 農業地理学の基礎と農村の成り立ちと現状、課題について | 紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 |
| | 5 | 経済地理学①工業 | 工業立地の歴史と現状、将来の変化について | 紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 |
| | 6 | 経済地理学②農業 | 日本と世界の農業の現状と課題について | 紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 |
| | 7 | 経済地理学③商業・流通 | 事業所の立地と流通システム、および経済のグローバル化について | 紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 |
| | 8 | 環境問題と地理学 | 様々なスケールから見た環境問題について | 紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 |
| | 9 | 災害と地理学 | 災害と人間活動との関わりについて | 紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 |
| | 10 | 社会問題と地理学 | 日本と世界の主な社会問題の空間現象について | 紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 |
| | 11 | ジェンダーの地理学 | ジェンダーをめぐる空間現象について | 紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 |
| | 12 | 空間と政治 | 都市における空間の管理と政治的背景について | 紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 |
| | 13 | 文化の広がり | 文化と社会の関わりについて | 紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 |
| | 14 | 生活世界の認識 | メンタルマップ、時間地理学について | 紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 |
| | 15 | まとめ | 授業の総括と定期試験について | 紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | 「自然地理学」「地誌学」 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 人文地理学への招待 | 竹中克行編 | ミネルヴァ書房 |
| | 2 | 地理学概論 | 上野和彦ほか編 | 朝倉書店 |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」 | | | |
| Teamsコード | mcy6ky6 | | | |

| | |
|------------------------|--|
| Moodle コース名 および登録キー | |
| 連絡手段 | dankebitte0605@gmail.com |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： |
| 評価方法 (基準) | 期末レポート70%、平常点30% (平常課題を何度か課す。) |
| 学生への メッセージ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義中の私語、飲食、携帯操作は禁止する。講義の進行を著しく妨害するような態度をとった場合、退室を命ずることがある。 2. 授業では毎回の冒頭で配布するレジュメを用いる。講義形式を基本とするが、簡単なディスカッションを時々行う。高等学校で地理を履修していなかったとしても、初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、問題はない。 3. 中学や高校の地理の授業で用いた地図帳を常時持参することが望ましい。 4. 講義中に何らかの作業を行うことがあるので、マーカーまたは色鉛筆を数色準備しておくこと。 |
| 担当者の 研究室等 | |
| 備考 | 授業外の質問等については、出校日に対応する。 |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|------------|
| 科目名 | 文学から学ぶ | 科目名 (英文) | Literature |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 星 優也 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1○, DP4○, DP5○ | | |
| 科目ナンバリング | OHU1423a2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業では、おもに古代から中世の文学作品について、とくに代表的なものに触れる。『古事記』、『竹取物語』、『今昔物語集』、『源氏物語』、『平家物語』、『太平記』など、一度は聞いたことがある作品についての基本的な知識を学び、原文に触れることで日本の代表的な古典文学について知る。 |
| 到達目標 | 古文への苦手意識をなくし、物語の面白さに触れる。 作品に触れ、その特徴について説明できる。 古典文学の流れを理解する。 |
| 授業方法と留意点 | 基本的に一つの作品について前編・後編の2回に分けて講義するため、必ず参加すること。 プリントを配布するため、適切に管理すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 日本を代表する古典文学に関する知識と理解が深まる。 |

| | | | | |
|------|----|---------------------|---------------------------------|-----------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | ガイダンスー文学を学ぶとはー | 授業の内容説明と進め方について。 | (事後) 授業で取り上げる作品について、辞書で調べる。 |
| | 2 | 『古事記』と『日本書紀』① | 「日本神話」で知られる『古事記』と『日本書紀』に触れる。 | 配布したプリントを読み理解する。 |
| | 3 | 『古事記』と『日本書紀』② | 『古事記』と『日本書紀』の違いを学ぶ。 | 配布したプリントを読み理解する。 |
| | 4 | 『風土記』と神話・昔話① | 風土記の中で代表的な神話に触れる。 | 配布したプリントを読み理解する。 |
| | 5 | 『風土記』と神話・昔話② | 風土記の世界その2。特に「浦島太郎」の話を取り上げる。 | 配布したプリントを読み理解する。 |
| | 6 | 『竹取物語』の世界 | 「かぐや姫」の物語を原文から触れる。 | 配布したプリントを読み理解する。 |
| | 7 | 『源氏物語』を知る①ー光源氏の物語ー | 『源氏物語』の物語に触れる。 | 配布したプリントを読み理解する。 |
| | 8 | 『源氏物語』を知る②ー宇治十帖の世界ー | 『源氏物語』後半の物語に触れる。 | 配布したプリントを読み理解する。 |
| | 9 | 説話集の世界①ー『日本霊異記』ー | 『日本霊異記』の代表的な説話に触れる。 | 配布したプリントを読み理解する。 |
| | 10 | 説話集の世界②ー『今昔物語集』ー | 『今昔物語集』の代表的な説話に触れる。 | 配布したプリントを読み理解する。 |
| | 11 | 軍記物語と「武士」たち | 軍記物語で代表的な初期作品を紹介する。 | 配布したプリントを読み理解する。 |
| | 12 | 『平家物語』の世界① | 『平家物語』の紹介と背景について学ぶ。 | 配布したプリントを読み理解する。 |
| | 13 | 『平家物語』の世界② | 『平家物語』の世界を深く読む。 | 配布したプリントを読み理解する。 |
| | 14 | 『太平記』の世界① | 『太平記』の基本情報と内容について学ぶ。 | 配布したプリントを読み理解する。 |
| | 15 | 『太平記』の世界② | 『太平記』の背景を学び、古代から中世の文学史についてまとめる。 | 配布したプリントを読み理解する。またこれまでのプリントをまとめる。 |

| | |
|------|--|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業形態 | Teams「オンライン型」 |
| Teams コード | gpymyda |
| Moodle コース名 および登録キー | |
| 連絡手段 | 学内メール |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス: |
| 評価方法 (基準) | 授業時のコメント・考察 (60%)、学期末課題 (40%) |
| 学生への メッセージ | 古文が苦手になる経験をしたことがあるかもしれませんが、物語とその歴史的背景を踏まえて読むことで、古典世界の面白さを知ることが出来ます。この機会に、現代とは異なる古典の世界へタイムスリップしてみましょう。 |
| 担当者の 研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
| 備考 | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-----------------------------|
| 科目名 | ボランティア活動論 | 科目名 (英文) | Study of Volunteer Activity |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 池田 清 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1○ | | |
| 科目ナンバリング | OS01426a2 | | |

授業概要・目的
 阪神・淡路大震災（1995）以来、ボランティア活動は、従来の社会福祉の枠を超えて広がり、東日本大震災（2011）以後、その広がり、社会的承認を得ています。しかし、そもそもボランティア活動とは、何なのでしょう。それは、企業の営利活動に対する「ただ働き」でもないし、自己犠牲を伴う「滅私奉公」でもありません。またそれは、自治体また国家「行政の肩代わり」でもありません。災害の現場において、あるいは社会福祉の現場において、ボランティア活動は、どのような社会的・個人的意味をもつのでしょうか。ボランティア活動に関してその多様な意味を問うことは、この社会の中で自分自身の存在を問うことであり、それを通して逆に自分が住んでいるこの社会のあり方を問うことです。この授業では、ボランティア活動の多様な意味に関して、歴史、政治、経済などの枠組みの中で明らかにし、ボランティア活動の基本的知識を身につけることを目標としています。

到達目標
 この授業を履修することによって、受講生は次の点を説明できるようになります。
 (1) ボランティア活動に関して、広い視野から一般的に説明できる。
 (2) ボランティア活動と自分自身とのかかわりに関して説明できる。
 (3) ボランティア活動と自分が生きる社会とのかかわりに関して説明できる。

授業方法と留意点
 WebFolder を使用して、様々な資料を通してボランティア活動の理解を進めます。資料（大学の紀要論文など）に関して、全体的に五回レポートを提出してもらいます。必ず資料を熟読し、課題に臨んでください。

科目学習の効果（資格）

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|------------------|--|---|--|
| | 1 | オリエンテーション | 授業の進め方、成績の評価方法に関して確認すると共に、授業の全体的なテーマ及び個別的なテーマに関して概略を述べます。 | シラバスを熟読して、授業に臨んで下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。 |
| 2 | ボランティア活動概論（1） | 従来のボランティア活動の定義を紹介し、その問題点を指摘します。 | ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。 | |
| 3 | ボランティア活動概論（2） | 従来のボランティア活動の定義を紹介し、その問題点を指摘します。 | ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。 | |
| 4 | ボランティア活動の歴史（日本） | 日本の歴史においてボランティア活動と類似した活動を紹介しします。 | ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。 | |
| 5 | ボランティア活動の歴史（世界） | 世界の歴史においてボランティア活動と類似した活動を紹介しします。 | ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。 | |
| 6 | ボランティア活動と NPO(1) | 阪神・淡路大震災におけるボランティアの働きを具体的に紹介しつつ、行政・企業に対する NPO 誕生の必然性を説明します。 | ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。 | |
| 7 | ボランティア活動と NPO(2) | 東日本大震災におけるボランティアの働きを具体的に紹介しつつ、行政・企業に対する NPO の独自の活動を紹介しします。 | ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。 | |
| 8 | ボランティア活動と心理学 | ボランティア活動を行う個人的動機、あるいは集団的圧力、また「何故、人を助けるのか」、こうした問題を説明しつつ、議論します。 | ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。 | |
| 9 | ボランティア活動と社会学（1） | ボランティア活動を行う「私」とは、何者なのか。近代という歴史観から「私」の実態を説明します。 | ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。 | |
| 10 | ボランティア活動と経済学 | A. スミスの自由放任主義以後の J. M. ケインズの福祉国家論、及びその後の自由主義思想を紹介しします。 | ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。 | |
| 11 | ボランティア活動と人類学 | M. モース及び C1. レヴィ＝ストロースの贈与論を前提にして、ボランティア活動を無償の贈り物とみなす立場を紹介しします。 | ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。 | |
| 12 | ボランティア活動と社会学（2） | ボランティア活動を行う「私」は、何を言い得るのか。被災者、高齢者、障害者、彼らの人権を尊重しつつ、「私」は、どのような「連帯」を形成できるのか、これについて議論します。 | ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。 | |
| 13 | ボランティア活動と法律 | ボランティア活動は、どのような法的基盤を通していいのか、またどのような法的基盤によってその活動を規制されているのか、これを問題とします。 | ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。 | |
| 14 | ボランティア活動と農業問題 | 農業ボランティアの可能性とは何か。繁忙期の農家の手伝いから里山の整備、環境問題まで。その可能性について議論しします。 | ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。 | |
| 15 | まとめ | この授業で学習したことを総括的に振り返ります。 | 事前・事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。 | |

実務経験
関連科目

| | | | | |
|------------------------|---|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 提出されたレポート(20点)×5で評価します。 | | | |
| 学生への メッセージ | ボランティア活動とは何かと問うと、考えれば考えるほど、正体が掴めなくなります。ですから、ボランティア活動論という研究が成立するわけで、一緒にボランティアについて考えてみましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) | | | |
| 備考 | 事前事後の総学習時間の目安は、60時間です。 質問等は出講時に、授業の後また非常勤講師室にて対応します。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|---------------------------|
| 科目名 | 経済学入門 | 科目名 (英文) | Introduction to Economics |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 南 慎二郎 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1○ | | |
| 科目ナンバリング | OS01427a2 | | |

| | |
|---------|--|
| 授業概要・目的 | <p>【授業概要】 経済学は特に近代以降の科学や産業の発展と共に進歩してきた学問であり、私たちの社会の豊かさや直面する課題解決(貧困、社会保障、環境問題など)を求めていく上で、経済学の考え方やそれに基づく政策は密接に関わっています。本講義では経済学の歴史に即して基礎的な考えを学習した上で、現実の具体的な動向や問題のトピックを通じて理解を深めていきます。</p> <p>【講義の目標】 一般教養としての経済学の知識を俯瞰的に把握し、その知識に基づいて社会経済や時事問題を理解して自らで考えられるようになることが目標です。</p> |
|---------|--|

| | |
|------|---|
| 到達目標 | 一般教養としての経済学の知識を俯瞰的に把握し、その知識に基づいて社会経済や時事問題を理解して自らで考えることができる。 |
|------|---|

| | |
|----------|---------------------------|
| 授業方法と留意点 | 「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。 |
|----------|---------------------------|

| | |
|-------------|--|
| 科目学習の効果(資格) | |
|-------------|--|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---------------------------|---|
| 1 | はじめに:講義の全体や進行について 経済学の一般的な考え方、経済学史の流れ | 配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。 | ・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間) |
| 2 | 経済循環をめぐる歴史①:主に古典派経済学とマルクス | 配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。 | ・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間) |
| 3 | 経済循環をめぐる歴史②:シュンペーター | 配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。 | ・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間) |
| 4 | 価値や価格はどのようにして決まるか:価値説と限界効用説、リカードから新古典派へ | 配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。 | ・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間) |
| 5 | ケインズ革命:ケインズの研究・思想とその影響について | 配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。 | ・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間) |
| 6 | 現代経済学の概観:戦後の経済学の流れ、現代の経済学派の関係 | 配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。 | ・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間) |
| 7 | 制度学派:現実社会の制度(慣習や経験・心理に影響される人間行動を含む)を重視する経済学の系譜 | 配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。 | ・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間) |
| 8 | 行動経済学:認知心理学をベースとした新たな経済学の展開 | 配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。 | ・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間) |
| 9 | 戦後の日本経済史:私たちが生活している社会経済の背景として | 配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。 | ・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間) |
| 10 | 労働について:雇用と賃金の決まり方、日本の労働市場、格差や雇用形態や労働災害の問題 | 配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。 | ・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間) |
| 11 | 公害・環境問題について①:利潤追求と節約、外部性と社会的費用、環境問題に対する経済学的アプローチ | 配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。 | ・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間) |
| 12 | 公害・環境問題について②:日本の公害・環境問題の歴史と教訓、具体的な環境問題で考えてみる | 配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。 | ・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間) |
| 13 | 地域と経済:経済学の視点による地域の捉え方や地域発展・地域経済振興のあり方について考えてみる | 配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。 | ・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間) |
| 14 | 経済学と政府の役割:社会保障制度と福祉国家の盛衰、市場の失敗と政府の失敗 | 配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。 | ・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間) |
| 15 | まとめとして:これまでの講義の振り返り、社会を見る手がかりとしての経済思想 | 配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。 | ・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間) |

| | |
|------|--|
| 実務経験 | |
|------|--|

| | |
|------|--|
| 関連科目 | |
|------|--|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |

| | | | | |
|------------------------|--|-----------|------------------|-------------|
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 入門 経済学の歴史 | 根井雅弘 | 筑摩書房(ちくま新書) |
| | 2 | 日本経済論 | 宮川努、細野薫、細谷圭、川上淳之 | 中央経済社 |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 定期試験 60%、講義期間中に実施する小レポート 40%。 (新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、定期試験はレポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。) | | | |
| 学生への メッセージ | 経済学というと競争社会での合理性や効率性を追求するといった冷たいイメージも伴いますが、現実の社会を取り扱うものですから、道徳倫理や公正を重視して、万人の幸福や厚生を求める思想も根幹に持ちます。農学であれば貧困問題に直結する食糧供給や食生活・文化の豊かさとの関係がある仕事ですので、経済学の知識やその思想を学んでおくことは有意義といえます。経済学や数学の予備知識を前提とはせずに授業進行を行います。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室 | | | |
| 備考 | 授業時間内に口頭もしくは紙により質問を受け付けるようにし、次回講義時にフィードバックします。 授業時間外の質問についてはメール等で対応します(初回時にアナウンス)。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-------------------|
| 科目名 | 日本の政治 | 科目名 (英文) | Japanese Politics |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 和田 泰一 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1○ | | |
| 科目ナンバリング | OS01428a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 人間が集団で生活している限り、法や条例、環境、貿易協定の影響を避けて生きることはできません。それらを決定・介入するのが政治であり、皆さんは政治参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。こうしたことは、人間の私的な領域まで積極的に介入してくる福祉国家のなかで環境や国内外の市場に関わろうとする農学部の皆さんには、より深刻な事実として突きつけられる事柄でしょう。 この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治と政治学についての基本的な知識・技能を与えることを一番大きな目的にしています。政治学の中でも、もっとも基本的な事柄である日本政治史、政治体制論、政治過程論、国際政治にあたる内容を授業する予定です。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。 |
| 到達目標 | この授業を通じて学生は、日本の政治・政治学についての基本的な知識・技能を獲得し、いかなる法・政策・立候補者が望ましいか理性的・論理的に判断し、政治に積極的に参加する中でそれを表明していくという政治・政治学に関する思考力・判断力・表現力を育成することができます。 |
| 授業方法と留意点 | オンライン授業で行います。 |
| 科目学習の効果(資格) | 公務員試験や就職活動において、日本の政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識・技能を獲得し、そのメリット・デメリットを判断し、政治的意見として表明することができます。 |

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|------------------------------|---|--|--|
| | 1 | イントロダクション～政治とは何か? | イントロダクションとして、講義の内容と身近な日常生活で現れる政治について授業します。 | 事前学習: 政治・政治学について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。 |
| 2 | 政治と権力～政治とは何か? 正当な権力とは何か? | 身近な日常生活で現れる政治と、マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性とは何かを考えます。 | 事前学習: 教科書の該当箇所(第五章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。 | |
| 3 | 国家と政治システム～システムとは何か? | 政治システムとはどういう構造になっているのか考えます。 | 事前学習: 教科書の該当箇所(第六章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。 | |
| 4 | デモクラシー～デモクラシーの条件とは何か? | さまざまな政治システムがあるなかで、戦後の日本政治の基礎になっているデモクラシーとはいかなる政治システムなのか考えます。 | 事前学習: 教科書の該当箇所(第十八章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。 | |
| 5 | 戦前の日本の政治体制～天皇制と日本が戦争へと向かった理由 | 戦後の日本政治とはまったく異なる戦前の政治体制について授業します。また軍部を戦前の政府が抑えられなかった理由を映像資料を見て考えます。 | 事前学習: 教科書の該当箇所(第十八章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。 | |
| 6 | マスメディアと世論①～政治文化と初期の世論研究 | 世論と政治文化について授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所(第二十一章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。 | |
| 7 | マスメディアと世論②マスメディアの役割とは何か? | マスメディアの役割とそのさまざまな効果について授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所(第二十一章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。 | |
| 8 | 選挙と政党～中選挙区制から小選挙区比例代表並立制へ | 日本の選挙制度を中心に、選挙と政党制について授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所(第二十二章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。 | |
| 9 | 国会と内閣～議院内閣制と今世紀の行政改革 | 行政改革による内閣の権限強化を中心に、日本の国会と内閣について授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所(第十一章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。 | |
| 10 | 国際政治の二つの観点①～アイディアリズム | 国際連盟から国際連合への経過について授業します。また国際連盟から離脱したときの日本の状況について映像資料を見て考えます。 | 事前学習: 教科書の該当箇所(第七章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。 | |
| 11 | 国際政治の二つの観点～リアリズム | 東西冷戦の基盤となるリアリズムの考え方について授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所(第八章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。 | |
| 12 | 冷戦終結後の日本外交①～ | 冷戦終結後の新しい国際秩序を開くこ | 事前学習: 教科書の該当箇所(第八章)を読み、マ | |

| | | | | |
|------------------------|--|--------------------------------------|--|--|
| | | 湾岸戦争とその結果 | とになった湾岸戦争と日本政府の対応について授業します。 | スメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。 |
| | 13 | 冷戦終結後の日本外交②～米国同時多発テロとアフガニスタン戦争、イラク戦争 | 米国同時多発テロをきっかけに生じたアフガニスタン戦争と後のイラク戦争と日本の新法作成について授業します。 | 事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。 |
| | 14 | 冷戦終結後の日本外交③～安全保障体制の転換 | 集団的自衛権の行使の閣議決定を中心に、近年の日本外交の転換について授業します。 | 事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。 |
| | 15 | まとめ | 講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。 | 事前学習:来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく(30分)。 事後学習:試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す(時間の許す限り)。 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | 中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の政治学、社会学、国際政治など。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 政治学 | 久米郁男・川出良枝ほか | 有斐閣 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで— | 仲正昌樹編 | 法律文化社 |
| | 2 | 18歳から考える日本の政治 | 五十嵐仁 | 法律文化社 |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス: | | | |
| 評価方法 (基準) | レポートで評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。 | | | |
| 学生への メッセージ | 新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館10階 和田講師室 | | | |
| 備考 | 予習・復習テストについては次回の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-------------------------------|
| 科目名 | 法学入門 | 科目名 (英文) | Introduction to Jurisprudence |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 安藤 由香里 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1○ | | |
| 科目ナンバリング | OS01429a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 本授業は、法が「日常生活」および「医療従事者」としてどのような機能を果たしているかについて「楽しく」学ぶことを目的とする。 |
| 到達目標 | 1. 社会における法の役割について理解する。 2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。 3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。 |
| 授業方法と留意点 | 教科書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。 毎回、予習・復習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認すること。 |
| 科目学習の効果(資格) | 法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、医療従事者としての社会生活、そして日常生活に必ず役立ちます! |

| | | | | |
|------|----|------------------------|--|--|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 法ってなんだろう? | 遠隔授業(教材・課題提供型授業)にて実施する。講義の目的、進め方、成績評価/私たちの生活と法 | 評価の時期・方法・基準の項も参照のこと |
| | 2 | 人間らしく生きる権利の保障-基本的人権(1) | 基本的人権、プライバシー、自己決定権、信教の自由 | 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認 |
| | 3 | 人間らしく生きる権利の保障-基本的人権(2) | 表現の自由、生存権、法の下での平等 | 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認 |
| | 4 | 現代行政における国民 | 外国人の権利、入国管理 | 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認 |
| | 5 | すべては契約から | 契約の自由、損害賠償、住まいと法律 | 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認 |
| | 6 | いろいろな決済方法 | クレジットカード、連帯保証、自己破産 | 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認 |
| | 7 | 家族と法-結婚・離婚 | 法律婚、事実婚、離婚、親権、監護権 | 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認 |
| | 8 | 家族と法-親子関係 | 扶養、相続、遺言 | 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認 |
| | 9 | 日常生活のアクシデント-交通事故 | 交通事故、自動車、自転車 | 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認 |
| | 10 | 日常生活のアクシデント-医療事故 | インフォームドコンセント、医療過誤 | 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認 |
| | 11 | 日常生活のアクシデント-製造物責任・悪徳商法 | クーリングオフ | 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認 |
| | 12 | 罪と罰-犯罪(1) | 脳死・臓器移植、インフォームドコンセント | 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認 |
| | 13 | 罪と罰-犯罪(2) | インフォームドコンセント、安楽死・尊厳死と刑法 | 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認 |
| | 14 | 労働・社会保障と法 | 労働契約、解雇・失業、子育て、介護 | 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認 |
| | 15 | 総括 | Moodle からテスト | |

| | |
|------|-------|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | 日本国憲法 |

| | | | | |
|-----|----|---------------|--------------|-------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 法学概論-身近な暮らしと法 | 國友順市、畑雅弘(編著) | 嵯峨野書院 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|--------------------|--|
| 授業形態 | Teams「教材・課題配信型」/Moodle |
| Teams コード | 1 限開講: de9f3wq 2 限開講: 2gj9h62 |
| Moodle コース名および登録キー | |
| 連絡手段 | 学内メール |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス: |
| 評価方法(基準) | 1. Moodle からテスト 50% 2. 課題を Moodle に提出する。50% COVID-19 の状況によりレポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります。 |
| 学生へのメッセージ | 毎週金曜授業開始時間までに Moodle に講義資料および課題をアップしますので、翌週火曜 23:59 までに Moodle に課題を提出してください。 法は、私たちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。 医療従事者として知らないではすまされない基礎知識があります。 本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。 |
| 担当者の研究室等 | Email: yukari.ando@edu.setsunan.ac.jp |

| | |
|----|---|
| 備考 | <ol style="list-style-type: none">1. 講義前の予習（教科書を読む。1時間×15回）2. 復習（講義の重要事項をまとめる。1.5時間×15回）3. 自己学習（講義に関連する新聞記事を読む） |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|----------|----------------------------|
| 科目名 | 経営学入門 | 科目名 (英文) | Introduction to Management |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 北 真収 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1○ | | |
| 科目ナンバリング | OS01430a2 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 経営学の基本について全体を網羅して講義を行います。授業で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。 |
| 到達目標 | 経営とは何か、何が課題なのかなど、現実即して経営への疑問を広く理解することが目標です。 |
| 授業方法と留意点 | 事例を紹介しながら経営知識を講義します。理解を助けるためにDVDなども活用します。 学習課題への回答を求めるなど参加を重視します。 授業形態はTeamsを使用。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 経営学検定、中小企業診断士、公務員試験 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------|-------------------------------|--|
| | | | |
| 1 | ガイダンス | 授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します | 事前：シラバスを読んでおく 事後：講義内容を復習する |
| 2 | 企業と社会 | 企業の社会的責任を中心に講義します | 事前：教科書の1章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) |
| 3 | 企業の種類 | 私的企業、公的企業について講義します | 事前：教科書の2章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) |
| 4 | 企業理念と企業文化 | 企業理念や企業文化の形成について講義します | 事前：教科書の3章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) |
| 5 | 企業統治 | 経営者を規律づけるしくみ (ガバナンス) を学びます | 事前：教科書の4章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) |
| 6 | 企業倫理 | 不祥事を未然に防ぐことについて考えます | 事前：教科書の5章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) |
| 7 | 企業戦略、競争戦略 | 企業の成長、競争に打ち勝つ考え方を説明します | 事前：教科書の6章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) |
| 8 | 企業財務 | 資金の調達、運用について説明します | 事前：教科書の7章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) |
| 9 | 合併・買収 (M&A) | 合併・買収の意義や効果を考えます | 事前：教科書の8章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) |
| 10 | イノベーション | 新しい事業の創出、そのプロセスについて講義します | 事前：教科書の9章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) |
| 11 | マーケティング | 製品やサービスの販売 (対象や価値伝達) に関して学びます | 事前：教科書の10章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) |
| 12 | 組織の構造 | 企業が活動できるしくみを学びます | 事前：教科書の11章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) |
| 13 | ものづくり | 多品種少量生産を中心にものづくりの発展について学びます | 事前：教科書の12章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) |
| 14 | 仕事と生活の調和 | ワークライフバランスの必要性、多様な働き方について考えます | 事前：教科書の13章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) |
| 15 | 国際経営 | グローバルな経営組織や経営の現地化について講義します | 事前：教科書の14章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) |

| | |
|------|--|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|----------|------------|------|
| | | | |
| 1 | 実践に学ぶ経営学 | 風間信隆・松田健編著 | 文真堂 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| | | | |
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業形態 | Teams「オンライン型」/Teams「教材・課題配信型」 |
| Teamsコード | 1 限開講：5k0mskk 2 限開講：rhmw6f8 |
| Moodle コース名 および登録キー | |
| 連絡手段 | 学内メール |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： |
| 評価方法 (基準) | 期末レポート50%、小テスト50%で評価します。 |
| 学生へのメッセージ | 代表的な事例を使って経営知識を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。 |
| 担当者の研究室等 | 寝屋川11号館8階 北 真収研究室 (相談時は事前に連絡してください) |
| 備考 | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-----------------|
| 科目名 | 観光学 | 科目名 (英文) | Tourism Studies |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 金 志善 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1○ | | |
| 科目ナンバリング | OS01431a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 本講義では、観光の概念について理解し、観光学の基礎的な専門知識を習得することを目的とします。観光は、今やグローバル産業と言われるまでに大きく成長しました。国内では、訪日外国人が3000万人に達成したことや、東京オリンピックによる経済波及効果が地域活性化にも繋がるなど観光への期待が膨らんでいます。そこで、この授業では、観光の歴史、文化そして経済的側面からその潜在力を捉え、多様な観光産業との関わりやその果たす役割を包括的に理解することを期待します。 |
| 到達目標 | ①観光の歴史的發展を概観しながら、観光産業の機能と役割について理解できる。 ②観光を捉えるための基本的な考え方、社会情勢などの基礎的な知識を身につけることができる。 ③国内観光、海外旅行、外国人の訪日旅行等の現状を理解し、その要点を説明できるようになる。 |
| 授業方法と留意点 | ・講義中心 ・課題（調査、レポートなど） 毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。 |
| 科目学習の効果(資格) | 観光地で起きている問題を自らの課題として考え、自ら関わろうとする態度を養う。 |

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|--------------|--|---|--------------------------------------|
| | 1 | 観光の概念 | 授業の進め方の説明の後、観光の基礎的な概念について学習します。 | これまで思い出に残る旅の経験を列挙する。事前学習1時間、事後学習1時間。 |
| 2 | 観光の歴史 | 人はなぜ旅行に行くのだろうかについて学び、旅のかたちの変遷を学習します。第1回レポートを課します。 | 産業革命以降、人々を運送する手段が発展し、今日に至っている。当時どのような交通手段があったかを調べておくこと。事前学習1時間、事後学習2時間。 | |
| 3 | 宿泊業(1) | 日本のホテルの発達史を学び、現在の宿泊業の特徴と役割を理解します。 | 日本のホテルの今後の方向性について考えをまとめる。事前学習1時間、事後学習1時間。 | |
| 4 | 宿泊業(2) | ホテルチェーンの現状と宿泊業務の基礎について学習します。 | 興味を持っている外資系ホテルチェーンに関して、ネットなどでその歴史と現状について調べてくる。事前学習1時間、事後学習1時間。 | |
| 5 | 旅行業 | 旅行業の仕組みと旅行業の商品について学習します。旅行商品の成り立ち、流通、販売の機能を学び、商品を販売する立場で企画してみます。第2回レポートを課します。 | 旅行業の役割や機能をまとめておくこと。事前学習1時間、事後学習2時間。 | |
| 6 | 地域におけるSDGsとは | SDGsとは何かについて学び、企業がSDGsに取り組むべき課題などについて学びます。 | なぜSDGsは注目されるのかについて調べておく。事前学習1時間、事後学習1時間。 | |
| 7 | 運輸業 | 航空会社・空港・鉄道について学習します。航空会社の歴史と企業が現在置かれている状況をサービス、格安航空会社の台頭などから理解して行きます。第3回レポートを課します。 | 格安航空会社(LCC)について調べる。事前学習1時間、事後学習2時間。 | |
| 8 | メディカルツーリズム | アジアにおけるメディカルツーリズムの現状と各国の事例について学習します。 | 日本においてメディカルツーリズムが難しい理由について調べる。事前学習1時間、事後学習1時間。 | |
| 9 | オーバーツーリズム | オーバーツーリズムとは何か、また、それが地域住民・観光客に及ぼす影響と今後求められる対応策について学習します。第4回レポートを課します。 | 観光公害の問題点について調べておく。事前学習1時間、事後学習2時間。 | |
| 10 | 統合型リゾート(IR) | 統合型リゾート(IR)とは何か。日本のIRの現状と世界のIRについて学習します。 | 統合型リゾート(IR)の課題、その対策などについて調べる。事前学習1時間、事後学習1時間。 | |
| 11 | 観光マーケティング | マーケティングとは何か、観光にマーケティングがなぜ必要なのかについて学習します。第5回レポートを課します。 | 事前に配布する資料を事前に読んでおくこと。事前学習1時間、事後学習2時間。 | |
| 12 | 観光業の環境分析 | 観光業の環境分析、SWOT分析について学習します。 | SWOT分析について復習しておく。事前学習1時間、事後学習1時間。 | |
| 13 | ダークツーリズム | ダークツーリズム概念の登場と拡散について事例を挙げて紹介します。 | ダークツーリズムの役割について調べておく。事前学習1時間、事後学習2時間。 | |
| 14 | コンテンツツーリズム | コンテンツツーリズムによる地域振興について学習します。 | アニメツーリズムについて調べておく。事前学習1時間、事後学習1時間。 | |
| 15 | これまでのまとめ | テストを実施します(1~13回)。 観光の発生過程から現在の発展へのプロセスを学習します。観光のもたらす影響にはどのようなプラスとマイナス面があったか復習します。 | これまでに学んだ内容を復習しておく。事後学習2時間。 | |

| | |
|------|--|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | |

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|------------------------|--|---------|----------|---------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 現代観光総論 | 前田勇 | 学文社 |
| | 2 | 入門観光学 | 竹内正人 | ミネルヴァ書房 |
| | 3 | 新・観光学入門 | 中村忠司・王 静 | 晃洋書房 |
| 授業形態 | Teams「教材・課題配信型」 | | | |
| Teams コード | 38ursel | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | 学内メールを利用 | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | テスト 50%、5回の課題レポート 50% 本授業では、専門に関わる確かな知識・技能を身につけるために、レポートにより課題を出す。レポートは、授業中に提示した課題について、5回提出する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 楽しく観光を学びましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | 非常勤講師室（相談可能時間：月曜日 12時30分～13時10分） stellakim0217@gmail.com | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-------------|
| 科目名 | 教養数学 | 科目名 (英文) | Mathematics |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | A |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 友枝 恭子 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1○ | | |
| 科目ナンバリング | ONA1433a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 教養数学では、農学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる(統計学などの)応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、農学部を含む理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、農学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。 |
| 到達目標 | (1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。 |
| 授業方法と留意点 | Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。理解の促進と達成の度合いをみるため課題演習を適時行う。 |
| 科目学習の効果(資格) | 問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。 |

| | | | | |
|------|----|-----------|-----------------------------|-----------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 微分法の基本 | ・接線と微分係数 ・導関数 | 課題レポート |
| | 2 | 微分法の基本 | ・微分計算の公式 ・1次近似式 | 課題レポート |
| | 3 | 微分法の基本 | ・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ | 課題レポート |
| | 4 | 微分法の基本 | ・速度と加速度 ・運動量保存則 | 課題レポート |
| | 5 | 指数関数と対数関数 | ・指数法則と対数法則 | 課題レポート |
| | 6 | 指数関数と対数関数 | ・グラフ | 課題レポート |
| | 7 | 指数関数と対数関数 | ・簡単な微分方程式 | 課題レポート |
| | 8 | 三角関数 | ・三角関数の復習 ・グラフ | 課題レポート |
| | 9 | 三角関数 | ・加法定理 ・三角関数の微分 | 課題レポート |
| | 10 | 不定積分 | ・基礎的な公式 | 課題レポート |
| | 11 | 不定積分 | ・置換積分 ・部分積分 | 課題レポート |
| | 12 | 定積分 | ・不定積分と定積分 ・面積と定積分 | 課題レポート |
| | 13 | 定積分 | ・定積分の計算 ・置換積分と部分積分 | 課題レポート |
| | 14 | 定積分 | ・表面積と回転体の体積 | 課題レポート |
| | 15 | 微分方程式 | ・変数分離型 ・1階線型 | 課題レポート |

| | |
|------|--|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | |

| | | | | |
|-----|----|---------------|----------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 確率・統計のための数学基礎 | 小林俊公・島田伸一・友枝恭子 | 共立出版 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業形態 | |
| Teams コード | |
| Moodle コース名 および登録キー | |
| 連絡手段 | |

| | |
|---------|---|
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス: |
|---------|---|

| | |
|----------|------------------------------|
| 評価方法(基準) | 課題演習で30% レポート70%の合計によって判断する。 |
|----------|------------------------------|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分です授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|---|
| 担当者の研究室等 | 友枝：寝屋川学舎3号館3階(数学研究室) tomoeda@mpg.setsunan.ac.jp |
|----------|---|

| | |
|----|--|
| 備考 | 事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。 |
|----|--|

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-------------|
| 科目名 | 教養数学 | 科目名 (英文) | Mathematics |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | B |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 芝 暢郎 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1○ | | |
| 科目ナンバリング | ONA1433a2 | | |

| 授業概要・目的 | <p>教養数学では、農学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる(統計学などの)応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、農学部を含む理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、農学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---|-----------------------------|-----------|----|-------|--------|-----------|---|---------------|------------------|--------|---|--------|--------------------|--------|---|--------|-----------------------------|--------|---|--------|--------------------|--------|---|-----------|------------|--------|---|-----------|------|--------|---|-----------|-----------|--------|---|------|------------------|--------|---|------|-------------------|--------|----|------|---------|--------|----|------|----------------|--------|----|-----|----------------------|--------|----|-----|-----------------------|--------|----|-----|-------------|--------|----|-------|-----------------|--------|
| 到達目標 | <p>(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。理解の促進と達成の度合いをみるため課題演習を適時行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果(資格) | <p>問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>微分法の基本</td> <td>・接線と微分係数 ・導関数</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>微分法の基本</td> <td>・微分計算の公式 ・1次近似式</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>微分法の基本</td> <td>・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>微分法の基本</td> <td>・速度と加速度 ・運動量保存則</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>指数関数と対数関数</td> <td>・指数法則と対数法則</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>指数関数と対数関数</td> <td>・グラフ</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>指数関数と対数関数</td> <td>・簡単な微分方程式</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>三角関数</td> <td>・三角関数の復習 ・グラフ</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>三角関数</td> <td>・加法定理 ・三角関数の微分</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>不定積分</td> <td>・基礎的な公式</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>不定積分</td> <td>・置換積分 ・部分積分</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>定積分</td> <td>・不定積分と定積分 ・面積と定積分</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>定積分</td> <td>・定積分の計算 ・置換積分と部分積分</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>定積分</td> <td>・表面積と回転体の体積</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>微分方程式</td> <td>・変数分離型 ・1階線型</td> <td>課題レポート</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | 1 | 微分法の基本 | ・接線と微分係数 ・導関数 | 課題レポート | 2 | 微分法の基本 | ・微分計算の公式 ・1次近似式 | 課題レポート | 3 | 微分法の基本 | ・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ | 課題レポート | 4 | 微分法の基本 | ・速度と加速度 ・運動量保存則 | 課題レポート | 5 | 指数関数と対数関数 | ・指数法則と対数法則 | 課題レポート | 6 | 指数関数と対数関数 | ・グラフ | 課題レポート | 7 | 指数関数と対数関数 | ・簡単な微分方程式 | 課題レポート | 8 | 三角関数 | ・三角関数の復習 ・グラフ | 課題レポート | 9 | 三角関数 | ・加法定理 ・三角関数の微分 | 課題レポート | 10 | 不定積分 | ・基礎的な公式 | 課題レポート | 11 | 不定積分 | ・置換積分 ・部分積分 | 課題レポート | 12 | 定積分 | ・不定積分と定積分 ・面積と定積分 | 課題レポート | 13 | 定積分 | ・定積分の計算 ・置換積分と部分積分 | 課題レポート | 14 | 定積分 | ・表面積と回転体の体積 | 課題レポート | 15 | 微分方程式 | ・変数分離型 ・1階線型 | 課題レポート |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 微分法の基本 | ・接線と微分係数 ・導関数 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 微分法の基本 | ・微分計算の公式 ・1次近似式 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 微分法の基本 | ・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 微分法の基本 | ・速度と加速度 ・運動量保存則 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 指数関数と対数関数 | ・指数法則と対数法則 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 指数関数と対数関数 | ・グラフ | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 指数関数と対数関数 | ・簡単な微分方程式 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 三角関数 | ・三角関数の復習 ・グラフ | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 三角関数 | ・加法定理 ・三角関数の微分 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 不定積分 | ・基礎的な公式 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 不定積分 | ・置換積分 ・部分積分 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 定積分 | ・不定積分と定積分 ・面積と定積分 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 定積分 | ・定積分の計算 ・置換積分と部分積分 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 定積分 | ・表面積と回転体の体積 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 微分方程式 | ・変数分離型 ・1階線型 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実務経験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>確率・統計のための数学基礎</td> <td>小林俊公・島田伸一・友枝恭子</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 確率・統計のための数学基礎 | 小林俊公・島田伸一・友枝恭子 | 共立出版 | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 確率・統計のための数学基礎 | 小林俊公・島田伸一・友枝恭子 | 共立出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業形態 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Teams コード | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 連絡手段 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| メールアドレス | <p>メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | <p>課題演習で30% レポート70%の合計によって判断する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | <p>数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分です授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | <p>友枝：寝屋川学舎3号館3階(数学研究室) tomoeda@mpg.setsunan.ac.jp</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | <p>事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-----------|
| 科目名 | 生命倫理 | 科目名 (英文) | Bioethics |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 椎名 隆 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ONA1434a2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 農学の学びにおいて「総合科学」の基礎となる幅広い知識の獲得に加え、倫理観をもった豊かな人間性を涵養する教育が必要であり、農学分野における生命科学の倫理的配慮が社会的、科学的、技術的側面などから求められている。中でも、農学分野において、ゲノム解析、各種細胞の研究利用、遺伝子組み換えによる品種改良など生命に係る技術利用が行われ、人類に有益な結果をもたらす一方で、予期せぬ有害な影響なども予測される。したがって、本授業では、生命科学分野で配慮されるべき生命倫理観及びその行動を学ぶ。「ヒトの生死や生命とは何か」、「人間とは何か」など根源的な問いに向き合いながら、農学における生命科学の最新技術をヒトや地球環境に及ぼす影響を考察しながら、倫理的行動について学修することを目的としている。 |
| 到達目標 | ① 現在の生命倫理に関する諸問題についての視点や基準および課題を理解する。 ② 遺伝子操作やゲノム編集などの先端技術の実際を学修し、その活用法に関する倫理規範などについて身につける。 ③ 生命の誕生および死について学修し、それらの倫理観を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 授業方法は、パワーポイントと板書を用いて講義を行う。講義の理解度ををはかるために、毎回、理解度確認小テストを実施する。事前・事後学習課題については、シラバスに記載している。なお、オンラインでの授業を行う場合もある。その場合、教科書と事前配布する資料プリントを使い、Teams を利用して行う。 |
| 科目学習の効果 (資格) | |

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|------|--|---|--|-------------------|
| | 1 | ガイダンス | ニュースや新聞で見る生命倫理 | 事後：授業内容の復習、事後レポート |
| 2 | 5. 生殖補助医療技術 12. 人体の資源化、商品化 SGDs-3, 5, 16 | 生殖補助医療技術、出自を知る権利について考える 人体の卵子、精子の資源化、商品化について考える グループディスカッション、グループワーク、講義 | 事前：テキストの予習(5, 12章)、事前レポート 事後：テキストの復習(5, 12章)、事後レポート | |
| 3 | 6. 出生前診断、着床前診断 7. 優生思想 27. 患者への差別と排除 SGDs-3, 5, 16 | 出生前診断、着床前診断について考える 優生思想と病者への差別と排除について考える グループディスカッション、グループワーク、講義 | 事前：テキストの予習(6, 7, 27章)、事前レポート 事後：テキストの復習(6, 7, 27章)、事後レポート | |
| 4 | 9. 医療資源の配分 10. 国際的生命倫理 11. 脳死と臓器移植 12. 人体の資源化、商品化 SGDs-3, 10, 16 | 医療資源の配分と国民医療費について考える 臓器移植と移植ツーリズム および人体の臓器の資源化、商品化について考える グループディスカッション、グループワーク、講義 | 事前：テキストの予習(9, 10, 11, 12章)、事前レポート 事後：テキストの復習(9, 10, 11, 12章)、事後レポート | |
| 5 | 16. インフォームド・コンセント SGDs-3 | 患者の権利とインフォームド・コンセントについて考える グループディスカッション、グループワーク、講義 | 事前：テキストの予習(16章)、事前レポート 事後：テキストの復習(16章)、事後レポート | |
| 6 | 18. 医療倫理の四原則 SGDs-3 | 患者の権利と医学研究の歴史、研究倫理について考える グループディスカッション、グループワーク、講義 | 事前：テキストの予習(18章)、事前レポート 事後：テキストの復習(18章)、事後レポート | |
| 7 | 14. 安楽死・尊厳死 SGDs-3 | 安楽死と尊厳死について考える グループディスカッション、グループワーク、講義 | 事前：テキストの予習(14章)、事前レポート 事後：テキストの復習(14章)、事後レポート | |
| 8 | 15. 終末期医療 SGDs-3 | 終末期医療と quality of life (QOL) について考える グループディスカッション、グループワーク、講義 | 事前：テキストの予習(15章)、事前レポート 事後：テキストの復習(15章)、事後レポート | |
| 9 | ヒト以外の生命 1 コンパニオンアニマルとペット産業 | 動物の生命と愛護について考える。 視点1 人の暮らしとコンパニオンアニマル 視点2 コンパニオンアニマルとペット産業 | 事前：テキストの予習(21章) 事後：テキストと配布資料の復習(21章)、事後レポート | |
| 10 | ヒト以外の生命 2 産業動物と野生動物 | 産業動物と野生動物の生命を考える。 視点1 産業動物と食肉産業 視点2 野生動物の生と死 | 事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習、事後レポート | |
| 11 | 命の連鎖と文明 | 文明と自然観、生命の連鎖について考える。 視点1 文明と自然観・生命観の多様性 視点2 生態系と生命の連鎖。 | 事前：テキストの予習(23, 24, 30章) 事後：テキストと配布資料の復習、事後レポート | |
| 12 | 農業・環境・食 1 遺伝子組換え農業 | 遺伝子組換え農業の現状を整理し、今後について考える。 視点1 遺伝子組み換え農業が生み出す利点 視点2 安全性をどう考えるか | 事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習、事後レポート | |
| 13 | 農業・環境・食 2 環境倫理 | 人間活動が地球環境に与える負荷 (Human impact) について考える。 視点1 地球全体の利益と個人 視点2 将来世代との関係 (世代間の公正) | 事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習、事後レポート | |
| 14 | 業・環境・食 3 フードファディズム | 食と健康の関係を考える。 視点1 効能の評価 | 事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習、事後レポート | |

| | | | | |
|------------------------|--|---------------|---------------------------------------|-------------------------------|
| | | | 視点2 食品産業の役割 | |
| | 15 | まとめ | ケーススタディー 「食と生命倫理」 「農業ビジネスと生命倫理」 | 事前：これまでの学修の復習 事後：レポート作成と提出 |
| 実務経験 | | | | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | テーマで読み解く生命倫理. | 小泉博明ら編著 | 教育出版 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 別途、指示する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | 対面授業 | | | |
| Teams コード | m4j7nnz | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | 学内メール | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業内のグループワークの成果物、各回のレポートやMoodle等での課題の提出とその内容 50点、最終レポート50点。100点満点の60点以上で合格。なお、取り組み状況（受講態度、レポート、課題の提出など）が不良である場合、最大10点を減点する場合がある。 | | | |
| 学生への メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> ●心構え <p>本科目の目標は「ヒトの生死や生命とは何か」、「人間とは何か」など根源的な問いに向き合いながら「倫理観を身につける」ことである。この目標は、学生自身が「ものの見方」「考え方」「感じること」について意識して講義に臨まなければ「達成できた」と感じられるものではない。講義は、生命倫理に関する社会的問題について、考えるきっかけやテーマを与え、グループワーク（チーム）を通じ、考え、発言し、他者の意見を聴き、あらためて考え、振り返るという流れで行う。このため、受け身で聴く形式ではないことを認識し、自分の頭</p> | | | |
| 担当者の 研究室等 | 植物分子生理学研究室 | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|-----------------|
| 科目名 | キャリアデザイン I | 科目名 (英文) | Career Design I |
| 学部 | 農学部 | 学科 | 食品栄養学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 石井 三恵 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP6◎, DP7◎, DP8◎ | | |
| 科目ナンバリング | OCA1438a2 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>よくなることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p> |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | <p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。 今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------------|--|---|
| | | | |
| 2 | さあ始めよう！大学生活を | <ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける | <ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間) |
| 3 | 摂南大学 | <ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する | <ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること ・講義で課された課題に取り組むこと (2 時間) |
| 4 | 自己効力感を高めよう | <ul style="list-style-type: none"> ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション | <ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間) |
| 5 | グループ課題の設定 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク (インタビュープロジェクト) の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える | <ul style="list-style-type: none"> ・グループで課題に取り組むこと (2 時間) |
| 6 | 社会は君を待っている | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える | <ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること (0.5 時間) |
| 7 | 社会の仕組み① | <ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える | <ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間) |
| 8 | 社会の仕組み② | <ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション | <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間) |
| 9 | 自分づくり① | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 100 挙げる ・ペアワーク | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間) |
| 10 | 自分づくり② | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間) |
| 11 | スケジューリング術 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる | <ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間) |
| 12 | ビブリオバトル① | <ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する | <ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間) |
| 13 | グループ課題の発表会 | グループ課題の発表会 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること (1.5 時間) |
| 14 | グループ課題の発表会 | ・グループごとのプレゼンテーション | <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること (2 時間) |
| 15 | 夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい | <ul style="list-style-type: none"> ・学びのプランニング ・講義の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること (1 時間) |

| | |
|------|--|
| 実務経験 | |
| 関連科目 | キャリアデザイン II、キャリアデザイン III、インターンシップ I、インターンシップ II、エンプロイメントデザイン I、エンプロイメントデザイン II |

| | | | | |
|------------------------|---|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 授業形態 | | | | |
| Teams コード | | | | |
| Moodle コース名 および登録キー | | | | |
| 連絡手段 | | | | |
| メールアドレス | メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス： | | | |
| 評価方法 (基準) | 各回の課題レポート (55%)、最終レポート (45%) で総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館5階 教育イノベーションセンター (石井) | | | |
| 備考 | 1. 必要に応じて授業内でレジユメを配布する。 2. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。 | | | |